

令和5年度（2023年度）

公立黒川病院年報
第8号

公立黒川病院

公立黒川病院年報 2023年度

I. 基本理念

すべては地域の皆さんのために

「公立黒川病院は職員が一丸となって、地域住民の皆さん一人一人の思いにお応えできるよう、安全で安心、良質な医療サービスを提供します。」

目次

I. 基本理念	2
II. 巻頭言	
公立黒川病院 管理者 角田 浩	6
III. 特集	
「黒川病院の COVID-19 対策の歴史（3） 2023年5月 5類移行後から後始末まで」 公立黒川病院 副管理者 南家 俊介	8
IV. 病院概要	
1. 沿革	11
2. 概要	14
3. 組織図	16
4. 交通アクセス	17
V. 業務報告	
1. 診療部	
内科	18
外科	20
整形外科	21
泌尿器科	22
小児科	23
婦人科	25
眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科	26
2. 看護部	
総論	27
第1病棟（地域包括ケア病棟）	32
第2病棟（急性期病棟）	33
第3病棟（回復期リハビリテーション病棟）	34
外来	35
手術室・中央材料室	36
くろかわ訪問看護ステーション	37
通所リハビリセンター	38
病後児保育室	39
看護の質委員会	40
記録委員会	41
臨床指導者委員会	42

看護部教育委員会	43
3. 医療技術部		
薬剤室	44
臨床検査室	45
栄養室	47
リハビリテーション室	48
放射線室	52
居宅介護支援事業所	53
4. 事務部・その他		
総務課	54
医事課	56
経営企画室	57
5. 直轄部門		
医療安全管理室	58
健康診断室	60
地域連携室	61
患者サポート室	63
医療社会事業課	64

VI. 委員会報告

防災対策委員会	65
医療ガス安全委員会	66
情報委員会	67
広報委員会	68
医療安全管理委員会	69
院内感染防止対策委員会	70
診療録／コーディング委員会	72
輸血委員会	74
臨床検査適正化委員会	75
褥瘡対策委員会	76
栄養委員会	78
薬事委員会	79
医療機器・材料選定委員会	80
院内研修委員会	81
認知症ケア委員会	82
排尿ケア委員会	83

衛生委員会	84
医療安全 リスクマネージャー会議	85
業務改善委員会	86
化学療法安全委員会	87
クリニカルパス委員会	88
保険診療委員会	89
退院調整委員会	90
医療従事者の負担軽減委員会	91
VII. 統計資料	
1. 経営状況	92
2. 診療状況	93
3. 健診統計	94
4. 医療機器整備一覧	95
VIII. 研究学術業績	
1. 論文	96
2. 講演・発表	98
IX. 臨床教育	97
X. 地域貢献	
1. 糖尿病教室	99
2. 医師・職員派遣	100
3. 福祉ネイル・爪ケア外来	101
4. 小児科の地域貢献	103
5. 出前講座	105
6. 黒川連携の会	106
XI. 広報誌	
1. 緑風	107
2. みどり通信	108
3. 栄養室広報	109
4. ホームページ	110
XII. 資料	

II. 巻頭言

「ユニフォームのポケットをたたこう」

管理者 角田 浩

ポケットのなかには ビスケットがひとつ
ポケットをたたくと ビスケットはふたつ
もひとつたたくと ビスケットはみつつ
たたいてみるたび ビスケットはふえる
そんなふしぎな ポケットがほしい
そんなふしぎな ポケットがほしい

作詞家、まど・みちお作「ふしぎなポケット」の歌詞である。小さいころ、ポケットにビスケットをいれてたたいてみた人もいるだろう。私もその一人で何度かポケットをたたいては増えないなと寂しい気持ちになったものである。

プロダクトデザイナーの秋田道夫さんという方がいる。秋田さんは、省力型フードレス LED 車両灯器、LED 薄型歩行者灯器（以上 2 点は LED を使った薄い信号機）、六本木ヒルズ・虎ノ門ヒルズセキュリティゲート、交通系 IC カードのチャージ機などをデザインされた方である。

その秋田さんの出かけるときのモットーは、
「出かける時はユーモアと機嫌の良さをポケットに」
だそうである。

秋田さんの著書、「機嫌のデザイン」の一節にこうある。
「機嫌よくあろうと心がける意味は、自分を「景色」として考えた時に「綺麗な景色」でありたいと願うからなのです。わたしの姿はまわりから見た時に「景色」の一部ですよ。世界が美しくあってほしいのならば、その景色の一部である自分からまず整える。わたしが機嫌にこだわるのは、そんな理由からです。」

しばしば、いろんな病院のホームページに設備、装置の写真が載っているが、現実の写真ではないように感じることもある。病院であれば、勤務するスタッフがいて、患者さんがいて、が現実の「景色」であろう。

患者さんは具合が悪かったり、不安だったり、そうそう明るくはしてられないだろうから、せめて職員は（無駄にはなく、厳粛な場面で場違いになるわけでもなく）上機嫌、すくなくとも不機嫌ではない顔で「景色」になっていることがいいのではないかと思う。

特に医師は不機嫌だと何かと周りに気をつかわせてしまう。心しなければならぬ。

朝、ユニフォームに着替えたら、ユーモアと機嫌のよさをポケットに入れ、そしてなんと

かたたいて増幅し、病院の良き「景色」になろう。

ビスケットは増やせないが、心ひとつで機嫌の良さは増やせる（に違いない）。

連携していただいている皆さま、今後も職員全員が「ふしぎなポケット」を持つ上機嫌の
公立黒川病院をよろしく願いいたします。

Ⅲ. 特集

「黒川病院の COVID-19 対策の歴史 (3)」

2023 年 5 月 5 類移行後から後始末まで

副管理者 南家 俊介

期間の概要

2023 年 5 月 8 日に 5 類移行が行われた。しかし行政上の位置づけが変更されただけであり、COVID-19 感染症はその後も流行を繰り返し介護・医療分野では問題になり続けた。5 類に移行したことで行政は入院や隔離の業務を手放すことができよかつたであろうが、その尻ぬぐいは一般医療機関に押し付けられた。一般発熱外来受診者が入院を要する状態になった場合には手助けが少なく、収容先の依頼に長時間交渉を要するようになった。現場は著しく疲弊したと思う。5 類移行後も繰り返しコロナの流行は起こり 2023 年 8 月頃と 2024 年 2 月初め頃をピークとする大きな流行があったと思われる。2023 年 12 月には海外で JN1 株への移行が報告され国内の流行株も変化したと思われる。

一方で、感染症に対する社会的意識の変化と社会活動の再開によって経済活動は活発化、株価は空前の高値を付けている。しかし人の移動の活発化は、次の問題を引き起こした。これまで COVID-19 とともに息をひそめていた各種感染症が次々と再流行し、繰り返し社会問題化した。コロナ禍で医療基盤と製薬が弱体化しており各種治療薬の供給不安が顕在化した。

コロナ以外の感染症として夏前にはヘルパンギーナや咽頭結膜炎が、秋にはインフル A が、正月明けにはインフル B が出現、例年にない大流行となった。現在は昨年流行した溶連菌感染による劇症型溶連菌感染症の大規模な流行とインバウンドの活発化によるはしかの流行が問題になっている。昨年から鎮咳薬や鎮痛解熱薬が頻々と欠品し薬の流通は半壊、はしかのワクチンは小児の定期接種用ですら入手困難である。場当たりの薬事行政の結果、感染症とは無関係な抗パーキンソン病薬や整形治療薬にも欠品が相次ぎ診療体制に重大な問題を起こしている。

1) 院内感染対策

基本的な院内感染対策は継続となったが施設利用者への制限は一部を段階的に緩和した。

院内入館者全員へのマスクの要請は変わらず継続された。

院内持ち込み対策として発熱者の入館禁止、入院患者全例の感染チェック、入院病棟での面会の禁止などは順次緩和された。

たまに病棟で二次感染・三次感染が発生することがあったが職員への感染がなく封じ込めに成功している。

コロナ対策委員会は感染症対策委員会に役割を譲り解散となった。

2) 公衆衛生活動

① 発熱外来

期間中、常時平日午前午後の発熱外来は継続した。統計は取っていないがインフルエンザ等の再流行もありコロナ以外の発熱患者も相当に増加した。

② ドライブスルーPCR

中止された。

③ ワクチン個別接種

2023年12月の7回目接種までおこなった。希望者は大幅に減少しており最少催行人数に満たず中止となった。

3) COVID-19 患者の受入れ

① 感染者の受入れ

5類移行後はコロナ感染した他疾患の患者さんの受け入れは常態化した。ピーク時には同時に数人の患者さんが在院していることもまれではなかった。

② 回復者の受入れ

近隣医療機関等から継続して受け入れを継続している

4) 最後に

5類移行で COVID-19 の問題が解決したように論じる識者もいたが、後始末はまだまだ終わっていないと感じる。

コロナ死そのものは少なくなったが、相変わらず高齢者のコロナ後廃用症候群は後を絶たず、元の生活に戻れなくて当院に転入院してくる患者さんは少なくない。社会的に統計を取ることもフォローすることも無くなってこれらの患者さんのその後はコロナ関連死とされることもなく埋もれていくのだと思われる。

また、コロナ禍で抑えられていたその他感染症の流行の影響がこんなにも広範囲に及ぶとは思いつかなかった。インフルエンザ再流行こそ予期されていたものの、溶連菌感染流行に引き続いて劇症型溶連菌感染症が大発生するとか、はしか流行で小児用ワクチンが入手できなくなるとか考えもしなかった。

今後も新興感染症は繰り返し襲来する。主な呼吸器感染症だけでも
2002年 中国で SARS 流行。

2009年 新型インフルエンザの世界的流行、日本もパニックになりました。

2012年 中東で MARS 流行

2020年-継続中 全世界で COVID-19 大流行

世界的パンデミックの大本命とされる鳥インフルエンザがいずれヒト-ヒト感染を
起こし始めるのは確実です。今後 10 年、次のパンデミックが起こらないと考える理由
はなに一つありません。

個人的には 2009 年の新型インフルエンザ流行時にワクチン接種のシステム構築を
間違えた苦い経験が今回のコロナワクチンに生かされたと思っています。

この 3 年間、つらいことも多かったですが一番の収穫はパンデミックを戦い抜いて
経験を積んだ医療スタッフが日本中にたくさん生まれたことです。次のパンデミック
の時に私が現役かどうかわかりませんが、経験智を集めてうまく乗り越えられること
を期待しています。

IV. 病院概要

1. 沿革

昭和 22 年 08 月	宮城県農業会 公的医療機関として厚生省の指定を受ける
昭和 22 年 11 月	宮城県農業会 黒川病院開設 初代病院長に千葉豊氏就任
昭和 23 年 08 月	宮城県厚生農業協同組合連合会 黒川病院に改称
昭和 29 年 08 月	二代目院長に川島敏氏就任
昭和 30 年 00 月	黒川病院委譲委員会設立 (農業団体医療機関から公的医療機関への本質的な考慮に入る)
昭和 31 年 02 月	譲渡契約締結
昭和 31 年 03 月	「黒川病院大和町外三ヶ村組合」(大和町、大衡村、富谷村、大衡村で構成を設立 (黒川病院を設置し、経営管理及び付帯業務を共同処理)
昭和 31 年 06 月	黒川病院開設 (宮城県指令第 9620 号)
昭和 34 年 04 月	黒川病院大和町外一町二ヶ村組合 (大和町、大郷町、富谷村、大衡村で構成) と改称
昭和 34 年 10 月	組合名及び病院名を「公立黒川病院組合」及び「公立黒川病院」と改称
昭和 38 年 02 月	病院全面改修工事着手 総工費 166,876 千円
昭和 40 年 04 月	地方公営企業法の財務規定の一部適用 基準寝具、基準給食の承認を受ける
昭和 46 年 05 月	救急告示病院の指定を受ける
昭和 50 年 04 月	公立黒川病院組合の規約の全部を改正
昭和 60 年 06 月	二代目川島院長勇退 名誉院長の称号を贈る
昭和 60 年 07 月	三代目院長に菊池仁氏就任
平成 03 年 04 月	公立黒川病院組合を解散し、黒川病院の設置、管理及び経営を黒川地域行政事務組合が継承
平成 04 年 04 月	病院移転新築に向け組合内に「事業推進準備室」を設置 「公立黒川病院整備マスタープラン」報告書策定
平成 07 年 03 月	病院移転新築事業 敷地造成工事発注
平成 07 年 09 月	病院移転新築事業 本体工事発注
平成 08 年 12 月	病院移転新築工事完了 病床 110 床 総工事費 5,559,532 千円
平成 09 年 04 月	新病院における診療開始
平成 10 年 03 月	三代目 菊池院長勇退 名誉院長の称号を贈る
平成 10 年 04 月	四代目 院長に西平哲郎氏就任
平成 13 年 03 月	四代目 西平院長勇退

- 平成 13 年 04 月 五代目院長に石井元康氏就任
- 平成 14 年 09 月 黒川地域行政組合会議に「病院再建調査特別委員会」を設置
- 平成 15 年 02 月 上記委員会より中間報告書提出
- 平成 16 年 03 月 五代目 石井院長勇退
- 平成 16 年 04 月 副院長 力丸暘氏院長代理
- 平成 17 年 04 月 公立黒川病院の管理運営を黒川地域行政事務組合より
社団法人地域医療振興協会へ指定管理開始
初代管理者 山田隆司氏就任
六代目院長 力丸暘氏就任
- 平成 18 年 10 月 療養型病床 60 床及び外来新棟増築
通所リハビリテーション事業所・居宅介護支援事業所事業開始
オーダーリングシステム導入
MRI 導入
- 平成 19 年 04 月 一般病棟入院基本料（10 対 1）取得
- 平成 20 年 01 月 療養型病床 60 床を回復期リハ病棟へ変更
- 平成 21 年 04 月 二代目管理者 力丸暘氏就任 院長兼務
- 平成 22 年 12 月 画像情報システム（PACS）導入
- 平成 23 年 03 月 東日本大震災
- 平成 24 年 01 月 電子カルテシステム導入
- 平成 24 年 04 月 三代目管理者 本郷道夫氏就任
- 平成 24 年 07 月 泌尿器科開設
- 平成 25 年 04 月 七代目院長 横道弘直氏就任
力丸院長勇退 名誉院長の称号を贈る
- 平成 25 年 12 月 一般病棟入院基本料（7 対 1）取得
- 平成 26 年 08 月 地域包括ケア入院医療管理料 1 取得
- 平成 27 年 09 月 関東東北豪雨
- 平成 27 年 03 月 在宅療養支援病院となる
- 平成 27 年 10 月 外来化学療法室開設
- 平成 28 年 04 月 院長代行 南家俊介氏就任
心療内科開設
DPC 対象病院となる
DPC（診断群分類別包括評価）取得
- 平成 29 年 04 月 地域包括ケア病棟入院料 1 取得 病床 55 床
- 平成 29 年 06 月 麻酔科開設
- 平成 31 年 01 月 皮膚科開設

令和元年 10 月	令和元年東日本台風
令和 2 年 01 月	新型コロナウイルス蔓延
令和 2 年 07 月	四代目管理者兼院長 角田浩氏就任
令和 3 年 04 月	病後児保育室開設（当院敷地内に大和町にて整備） 新型コロナウイルス ワクチン接種開始 指定管理者による管理運営方法を「利用料金制」に移行
令和 4 年 10 月	マイナンバーカードを活用した「オンライン資格確認システム」運用開始
令和 5 年 05 月	新型コロナウイルス 5 類移行開始 コロナ各種検査等の公費負担終了
令和 6 年 03 月	医療費後払い制 運用開始
令和 6 年 03 月	院内照明 LED 化実施

2. 概要

病院の概要

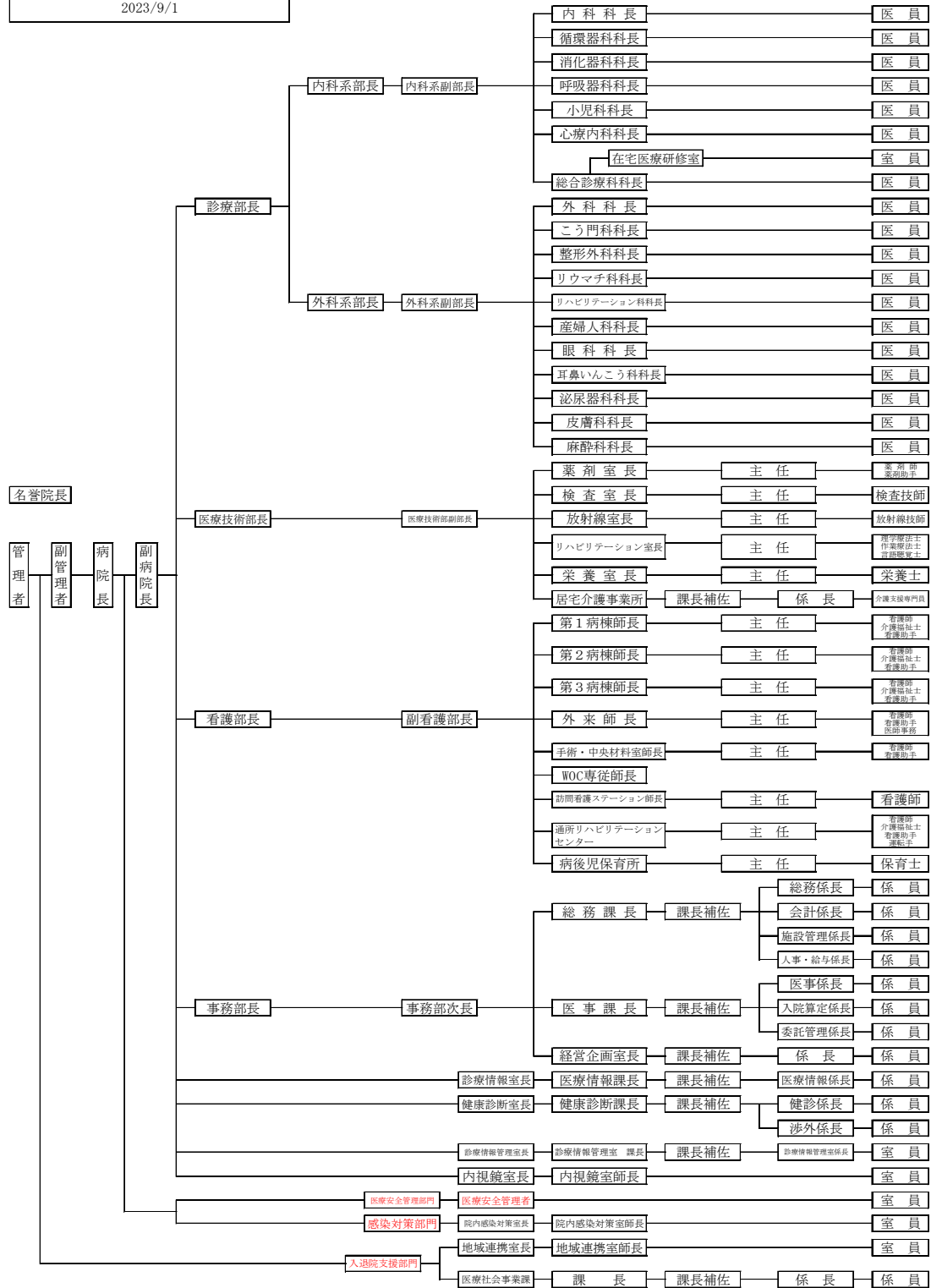
(令和6年3月31日現在)

- 病院名 : 公立黒川病院
- 所在地 : 宮城県黒川郡大和町吉岡字西桧木 60 番地 (〒981-3682)
TEL 022-345-3101 FAX 022-345-3143
ホームページ <https://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/kurokawa/>
- 開設者 : 黒川地域行政事務組合
- 運営開始 : 平成17年4月1日
- 管理運営 : 公益社団法人 地域医療振興協会
- 診療科目 : 17 診療科 (内科、呼吸器科、循環器科、消化器科、心療内科、外科、
こう門科、産婦人科、整形外科、リウマチ科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、
小児科、眼科、リハビリテーション科、麻酔科、皮膚科)
- 病床数 : 170 床 (一般 55 床・地域包括ケア 55 床・回復期リハ 60 床)
- 医療指定 : 保険医療機関、救急告示病院 (二次救急)、へき地医療拠点病院、
生活保護法指定医療機関、協力型臨床研修病院、労災保険指定医療機関、
結核予防法指定医療機関、自立支援医療機関 (精神通院)、
労災保険二次健診給付医療機関、生活習慣病予防健診実施機関、
DPC 対象病院、難病指定医療機関、小児慢性指定医療機関
- 施設基準等 :
- 情報通信機器を用いた診療に係る基準
 - 急性期一般入院料 4
 - 救急医療管理加算
 - 診療録管理体制加算 2
 - 医師事務作業補助体制加算 1 (75 対 1)
 - 急性期看護補助体制加算 (25 対 1) (5 割以上)
 - 療養環境加算
 - 重症者等療養環境特別加算
 - 医療安全対策加算 1 (医療安全対策地域連携加算 1)
 - 感染防止対策加算 3
 - ハイリスク妊娠管理加算
 - 後発医薬品使用体制加算 2
 - データ提出加算 2 (200 床未満)
 - 入退院支援加算 1
 - 認知症ケア加算 2

せん妄ハイリスク患者ケア加算
排尿自立支援加算
回復期リハビリテーション病棟入院料 1
地域包括ケア病棟入院料 1
看護職員処遇改善評価料 38
入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）
がん性疼痛緩和指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料
救急搬送看護体制加算
外来腫瘍化学療法診療料 2
ニコチン依存症管理料
外来排尿自立指導料
薬剤管理指導料
在宅療養支援病院（機能強化・単独型）
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅱ）
遠隔画像診断 2
CT 撮影及び MRI 撮影
外来化学療法加算 2
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
エタノールの局所注入（甲状腺）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
輸血管管理料（Ⅱ）
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
酸素単価の届出

3. 組織図

公益社団法人地域医療振興協会
 公立黒川病院組織図
 2023/9/1



4. 交通アクセス



- 1) 車（無料駐車場あり）
 - ・ 仙台駅から車で 40 分
 - ・ 泉中央駅から車で 30 分
 - ・ 東北自動車道大和 IC から車で 10 分
- 2) 高速バス
 - ・ 宮城交通 仙台駅 - 大衡（40 分）
大和バスターミナル下車、徒歩 5 分

V. 業務報告

1. 診療部

【内科】

1) 診療スタッフ

医師) 角田 浩、南家 俊介、横道 弘直、高橋 広喜、松尾 英史、筒井 美穂、森下 城、上原 周悟、綾香 奈々、東北大学・東北医科薬科大学・その他所属の応援医師

2) 今年度の診療実績

内科が担当している業務は、外来、入院、訪問診療、健康診断、内視鏡検査、超音波検査などです。外来は基本的に午前中に数人の医師、午後は1人の医師が担当します。

令和5年度の患者内訳では：1年間の延べ受診者数は29,653人。

市町村別では大和町13,431人、大郷町4,093人、大衡村3,849人、富谷市3,355人、県内郡外4,661人、県外264人です。

疾患別では循環器疾患10,355人、内分泌疾患7,015人、消化器疾患3,260人、呼吸器疾患1,676人、神経疾患1,613人、新生物1,921人、血液疾患185人、その他3,628人です。

入院は急性期病床、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床で行っています。入院治療を要する、通院中の急性増悪疾患、新たな急性疾患の発症、紹介患者、救急搬送された方、検査のための入院などに対応。入院後は体力の低下、高齢者の嚥下機能の低下などから理学療法士、管理栄養士、言語聴覚士などリハビリの協力を受けます。入院の延べ患者数は31,473人です。市町村別では大和町10,546人、大郷町3,535人、大衡村3,654人、富谷市2,450人、県内郡外11,193人、県外95人です。

疾患別では循環器疾患6,588人、呼吸器疾患5,266人、消化器疾患2,789人、内分泌疾患2,068人、新生物2,284人、血液疾患385人、神経疾患817人、その他11,276人です。

訪問診療は主に3人の医師が担当しています。訪問看護とは常に協力体制をしいています。訪問診療を行っている患者数は974人。訪問看護ステーションが行っている訪問看護延数は5,117人です。

健診業務は2人の医師を中心に行っております。通常健康診断4,177人、人間ドック282人、脳検診106人、特定健診59人、がん検診1,248人です。

内視鏡等の検査では上部消化管1,908人、下部消化管331人。超音波検査では腹部エコー487人、心臓エコー302人、頸動脈エコー20人、下肢静脈エコー7人です。

3) 診療方針

内科の基本方針はどんな患者でも受け入れるということ。当院に通院されている方はもちろんのこと、救急搬送された重症症例、他院から検査・加療の依頼を受けた方、出来るだけ受け入れています。地域の医療要求に答えるような診療を行って行きたいと考えております。

(松尾 英史)

【外科】

1) 診療スタッフ

医師 大槻 修一、松本 翔子、芳賀 泉、
東北大学応援医師、東北医科薬科大学応援医師

2) 今年度の実績、今後の目標

外科 3 名の常勤医、東北大学病院 総合外科および東北医科薬科大学 消化器外科より応援をいただき診療を行っております。治療内容としては一般外科、乳腺内分泌疾患、腹部ヘルニア、消化器悪性腫瘍、肛門疾患（痔、痔瘻等）、胆石症、腹膜炎、虫垂炎、憩室炎などの消化器疾患、下肢静脈瘤、自然気胸、褥瘡などの治療を行っております。症例に応じて腹腔鏡手術も行っております。昨年度 79 例の手術を行い、消化器系手術（ソケイヘルニア、消化器悪性腫瘍手術等）33 例、乳腺内分泌手術（甲状腺、乳腺悪性腫瘍を含む）3 例、一般外科小手術（中心静脈ポート挿入術を含む）43 例行っております。また、癌治療における複合的治療の必要性から癌化学療法にも力を入れており、2015 年 10 月末に運用を開始した外来化学療法室にて外来化学療法を施行しております。なお、放射線療法については、近隣の病院と連携しながら行っております。また、癌リハビリテーション施設基準の取得、医療リンパドレナージセラピスト、皮膚、排泄ケア看護師との連帯の強化等、患者様の癌治療をスタッフ全員でサポートするため体制の強化をはかっております。当地域での医療貢献のため、緊急診療への対応強化を進めてまいります。

（芳賀 泉）

【整形外科】

1) 診療スタッフ

医師 田中 正彦 (常勤医師は 2022 年度と同様 1 名のままです。)

2) 活動報告

常勤医師 1 名の体制で、東北大学病院整形外科医局から診療応援をいただき診療を行っています。

外来は平日午前のみ 1 診体制で、紹介のない新患は原則受け付けないという制限を設けています。

入院患者は急性期から慢性期まで合わせて 30 名程度です。大まかな内訳は四肢骨折および関節疾患の手術患者、骨粗鬆症性の椎体骨折や脆弱性骨盤骨折等の患者、骨折術後リハビリ目的の患者となっています。また四肢麻痺が強い頸部脊髄損傷の患者さんも常時 1~2 名入院しています。当院のリハビリテーションスタッフは数および質とも県内随一であり、他院からの転院依頼が絶えない状態です。転院患者が約 3/4 を占めています。

今年度の手術件数は 62 件で骨折の症例が多数を占めています (別表参照)。

3) 次年度の目標

引き続き当科は常勤医 1 名での診療となります。入院患者が常に多い状態で手術と外来を行っており、現状の維持には診療制限はやむを得ない策となっています。近隣地域の医療機関にご協力いただきながら、地域のニーズに可能な範囲で応えられるようにしていきたいと思っております。

4) 手術実績

骨折観血的手術 上肢	14 件
骨折観血的手術 下肢	16 件
大腿骨人工骨頭挿入術	5 件
人工股関節置換術	15 件
その他	12 件
計	62 件

(田中 正彦)

【泌尿器科】

1) 診療スタッフ

医師 田口 勝行（泌尿器科専門医）

2) 診療内容

泌尿器科一般：尿路（腎臓、尿管、膀胱、尿道）と男性生殖器（前立腺 精巣 陰茎）を扱います。尿路がんの治療は 開腹手術は仙台市内の病院へ紹介する一方で、膀胱がんの内視鏡手術、前立腺がんの検査とホルモン治療や放射線治療（仙台への通院が必要）を積極的に行っております。前立腺肥大症 尿路結石などの良性疾患は 手術を含め患者に合わせた治療選択をしています。その他 尿路感染症（膀胱炎 尿道炎）や過活動膀胱、神経因性膀胱、EDなどを扱っております。

3) 診療実績

① 外来

外来延べ患者数は約 4,342 名でした。その他院内紹介患者も多数です。

② 入院

手術患者以外にも 重症感染症やがん末期患者を受け入れています。

③ 排尿自立指導

排尿ケアチームを立ち上げ カテーテルの早期抜去に向けて啓蒙するとともに実践しています。

④ 手術 検査（毎年数多くの PSA 高値の患者が受診します）

（ア）経尿道的手術 4 例

（イ）前立腺生検 24 例（前立腺がん 17 例）

4) 今後の目標

① 各種ガイドラインを参考にしながら 高齢者に沿った治療を提供していきます。

② 仙台の病院と連携し、患者に最適の治療を提供するようまいります。

（田口 勝行）

【小児科】

1) 診療スタッフ

医師 岩城 利充

看護師 窪田 麻衣花、菅原 ナオ

2) 2023 年度の概要

2023 年度の小児科診療は、新型コロナウイルス感染がなお社会に蔓延する中での診療だった。外来患者数 2,225 名、予約受診者数 1,864 名、新患受診者数 119 名とはほぼ前年並みであった。新患予約は週に 1 人、月にして 4 人の予定だったが、実績は月に 10 人と、予定の 2.5 倍の受け入れが続いている。発達障害の患児はたまっていくので、再診までの間隔が長くなり、受け入れが厳しくなってきた。東北大学病院は発達障害の新患の一般受付は既に停止しているし、こども病院も厳しい状況にある。当科としても悩ましい現状である。

3) 診療体制

小児科の診療体制は、常勤 1 名で、外来診療のみ行っている。診療時間は、午前、午後。予防接種外来として月曜日（13:30～14:20：要予約）、乳幼児健診外来として火曜日（13:30～14:20：要予約）に診療している。小児科外来として一般診療を行っているが、発達障害、行動異常の診療は、診療時間が長いので予約制としている。看護師、心理検査スタッフとチーム医療に準じて診療を行っている。

4) 診療実績

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の、外来診療延数は、前年比 100%の 2,225 名だった。そのうち発達障害、行動異常関連の予約総数は、前年比 93.8%の延 1,864 名で、実に診療全数の 83.8%にあたり、当小児科外来の特異な患児疾病構成を示している。このうち新患予約は、前年比 88.8%の 119 名、再診予約数は、前年比 94.2%の 1,745 名だった。前年が前々年の各々 121%、101%と減少傾向を示した。小児一般疾患で受診する児は、予約と予約の間に入れて診療している。

発達障害の疾患の 1 つである注意欠陥多動症の薬であるメチルフェニデートの投与は 54 名（前年度は 51 名）、アトモキセチンの投与は 126 名（前年度は 108 名）、グアンファシンの投与は 68 名（前年度は、51 名）であった（重複投与あり）。長時間作用型のアトモキセチンとグアンファシンの投与が増えている。

患者の分布は、黒川郡、大崎市、加美町、色麻町を中心に仙台市、登米市、塩釜市、石巻市、名取市など、遠郊にも及んでおり、患者年齢は、3 歳から 37 歳まで認められる。

予防接種外来は、毎回 0～4 名、ただしインフルエンザ流行期を前にした 11 月と 12 月は

月曜の午後の診療を全て予防接種外来として、需要の急増するインフルエンザワクチン接種に対応している。乳児健診は毎回0～2名であった。

当小児科では、公認心理師の資格を持つ、ソーシャルワーカーが、発達検査を行っており、この1年間で99件（前年比100.5%）の検査を施行した。

WISC-5 知能検査が59件（2023年度開始）、WISC-IV知能検査が34件（前年比44.7%）、K-ABC II 検査が5件（前年比31.3%）、Vineland-II 検査 1件（前年比100%）だった。

WISC-5 知能検査、WISC-IV知能検査と K-ABC II 検査で、99%を占めていた。

当院では新版 K 式発達検査の資格認定者がいない。今後の課題と言える。

カウンセリングの対象となる児が、増加しており、臨床心理士のいる大崎市民病院と連携して診療を行っている。

小児科では、看護師と発達検査を行うソーシャルワーカーの働きが大きい。共に、チーム医療に準じて診療を行っていく所存です。

（岩城 利充）

【婦人科】

1) 診療スタッフ

医師 相良 守峰

2) 診療内容、特徴

婦人科疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫）、子宮がん検診（頸部、体部）、
不妊症検査 等

3) 診療実績（主な点）R5.1月～12月

手術・処置	症例数
子宮内膜搔破術	2
女子外性器腫瘍摘出術	2
コンジローム切除術	6
皮膚・皮下腫瘍摘出術	2
子宮頸管ポリープ切除術	6
子宮出血止血法（分娩外）	2
子宮内腔洗浄	6

検査	件数
子宮頸部細胞診	1,352
子宮体部細胞診	53
組織検査	22
合計	1,427

コルポスコピー	6
超音波検査	475
MRI	36
CT	11

その他	件数
HPV ワクチン接種	26

4) 今後の目標

HPV ワクチン（キャッチアップ）接種勧奨

（相良 守峰）

【非常勤医師診療科】

眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科

眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科はそれぞれ非常勤医師での診療を行っています。

1年間の診療実績は表に示す通りです。

2023年度外来診療患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
眼科	157	125	130	124	127	124	130	133	117	126	108	91	1,492
耳鼻咽喉科	91	94	108	111	127	115	107	107	107	111	145	102	1,325
皮膚科	145	39	178	125	141	184	153	129	16	37	114	131	1,392

診療スケジュール

	月曜		火曜		水曜		木曜		金曜		
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
眼科	大 学	-	-	-	大 学	-	-	-	-	-	-
耳鼻咽喉科	-	大 学	-	-	-	-	-	大 学	-	-	-
皮膚科	-	-	富 田	-	-	-	-	-	富 田	-	-

(富田 学)

2. 看護部

【総論】

1) 2023年4月～2024年3月までの看護職員配置数

職種	2023年4月	2024年3月	増減
看護師（正職）	94	92	-2
助産師（正職）	2	2	0
助産師（再雇用）	1	1	0
看護師（再雇用）	3	3	0
准看護師（再雇用）	2	2	0
看護師（非常勤）	5	6	1
介護福祉士（正職）	20	19	-1
看護助手（正職）	1	1	0
看護助手（非常勤）	11	13	2
介護助手	2	1	-1
医師事務	2	2	0
看護師派遣へ	0	1	1
合計	143	143	0

2) 2023年度 入職者 10名

看護師（正職）6名 看護師（非常勤）1名 看護助手（非常勤）（派遣）3名

3) 2023年度退職者 10名

看護師（正職）6名 准看護師（再雇用）1名 介護助手（派遣）1名

看護助手（非）（派遣）2名

看護部離職率 6% （看護師 6%）

4) 看護部目標

① 看護部理念

「私達は地域の皆様に寄り添い信頼される看護を実践します」

② 2023年看護部目標

1. 患者さんの声に耳を傾け、温かい思いやりのあるケアを行います。

自分のケアに責任を持つ。

チームで患者さんを支えていこう。

地域住民や他施設職員と交流してみよう。

2. 働きがいのある職場、働き続けられる職場づくりに努めます

職員同士、感謝の気持ちは言葉で伝えよう。
業務改善に取り組み建設的な職場をつくろう。
新人を一人前に育てよう。

3. 自己のスキルアップを目指します

クリニカルリーダー、マネジメントリーダーに積極的に取り組もう。
協会内の派遣支援に参加してみよう。

5) 看護部経営目標に対する評価

① 目標と実績

目標と実績

部署	目標	実績 (人・件)		稼働率 (%)	達成率 (対目標) (%)
		年間	月又は日		
1 病棟	45 人/日	15,049 人	41.1 人/日	74.8%	91.4%
2 病棟	40 人/日	12,165 人	33.2 人/日	60.4%	83.1%
3 病棟	48 人/日	15,943 人	43.6 人/日	72.6%	90.8%
外来	240.7 人/日	53,463 人	182.5 人/日	—	75.8%
訪問看護	450 人/月	5,117 人	426.4 人/月	—	94.8%
手術	20 件/月	133 件	11.1 件/月	—	55.4%

② 看護教育について

(ア) 看護師はクリニカルリーダー、介護福祉士は学研教育システムを導入

看護師は教育委員を中心に年に1回の研修日を設け、自己課題の目標を定めて計画的に取り組んでいた。詳細は教育委員会の報告を参照。

2023 年度 (正職者の限定 産休育休 10 名含めず)

レベルⅣ	7 名
レベルⅢ	46 名
レベルⅡ	8 名
レベルⅠ	4 名

(イ) 症例発表会について

1月25日に各部署研修発表会7題を実施

東北福祉大高田准教授による看護研究の研修会3回実施

③ 資格・加算要件取得、外部役員

(ア) がんのリハビリテーション 佐々木 翼 2病棟

(イ) 日本トータルフットマネジメント協会認定フットケア講座

佐藤紗菜 1病棟

(ウ) 下部尿路症状の排尿ケア講習会

村上 早紀(外来)、長嶋 こずえ(1病棟)、渡辺 大樹(2病棟)

(エ) 認知ケア対応力向上研修

林 栄子(1病棟)、田代 桃子(2病棟)、佐藤 紗菜(1病棟)

(オ) 宮城県訪問看護連絡協議会理事、調査委員、大和町介護保険運営委員、

包括支援センター運営委員、大和町介護認定審査会委員

鈴木 文枝(訪問看護)

(カ) 大和町介護認定審査会委員、宮城県看護協会 社会経済福祉委員

斉藤 文子(通所リハビリ)

(キ) 宮城県看護協会 推薦委員 伊藤 公恵(2病棟)

(ク) 宮城県看護協会仙台黒川支部 広報委員会 鏡 哲也(3病棟)

(ケ) 宮城県フットケア研究会世話人、日本褥瘡学会在宅褥瘡セミナー宮城代表世話人

日本創傷・オストミー・失禁管理学会排便ケア ワーキング委員

日本NP学会東北地方会役員

佐々木 多恵子(1病棟)

6) 看護実習の受け入れ(病棟)

東北文化学園大学	①成人Ⅱ4名12日間	②成人Ⅰ 4名12日間
	①統合10名7日間	②統合10名7日間
東北福祉専門学校	成人4名2日間	統合4名2日間
	基礎4名2日間	
東北福祉大学	基礎Ⅱ8名 8日間	基礎4名2日間
	老年①8名 ②8名 ③7名 ④8名 各7日間	
宮城大学	老年10名 7日間	

7) 令和5年 ふれあい看護体験

5月20日 8:50~12:30 実施

参加者：高校生 6名

対応：田代 桃子、佐藤 カナコ、佐々木 貴子、大黒 なか子

8) 大和中学校2年生職場体験

11月7日：5名 参加

対応：田代 桃子、佐藤 カナコ、佐々木 貴子、大黒 なか子

9) 就職説明会

① 3月 東北福祉大学 学生15名

対応：大黒 なか子、佐々木 多恵子、田代 桃子

10) 地域、他施設との交流

① 大和町マタニティセミナー

5回/年 実施

柴田 せつ子 (外来)

② 宮城県看護協会仙台黒川支部 地域ネットワーク交流会

2月3日 鏡 哲也、佐藤 カナコ

③ 施設外への出前講義

6月8日、22日	まほろばの里たいわ	感染対策
6月23日	富谷の郷	医療人としての接遇
7月20日	富谷の郷	感染対策
9月21日	船形の郷	感染対策
9月21日	富谷の郷	医療安全
10月5日	船形の郷	医療安全、
10月19日	老健施設リーブズ	医療人としての接遇
12月21日	老健施設リーブズ	スキンケア

対応：伊藤 公恵、佐々木 貴子、石塚 玲子、佐々木 多恵子、大黒 なか子

④ 災害支援 (1月1日の能登地震)

(ア) 宮城県看護協会 災害支援ナースの派遣

佐藤 亜紀子 1月29日から5日間 いしかわ市スポーツセンターへ

(イ) 地域振興協会からの依頼

石川県芳珠記念病院へ（病棟支援）

2月1日から29日まで

北條 智 （10日間）

佐々木 駿輔 （10日間）

及川 富士子 （10日間）

1.1) 外部研修

延数	日時	研修内容	人数	場所	部署	職種
1	4/19、20、21	六ヶ所村医療センター研修	1名	青森県	1病棟	看護師長
2	5/9	第1回排便管理講習会	1名	仙台市	1病棟	看護師長
3	5/17	介護のひろば2023	2名	宮城看護協会	2病棟	看護師
4	5/19	令和4年度「新人看護職員研修新任教育担当者研修」フォローアップ	1名	宮城看護協会	1病棟	看護師
5	6/2	宮城県看護協会 通常総会	3名	宮城看護協会	外来	看護師長
6	6/8	平時から考える看護	1名	宮城看護協会	2病棟	看護師
7	6/13	新人看護職員研修新任教育担当者研修	1名	宮城看護協会	1病棟	看護師
8	6/13	新人 ナースカフェ	1名	宮城看護協会	1病棟	看護師
9	6/13	宮城県看護協会通常総会／看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同集会	2名	宮城看護協会	3病棟	看護師
10	6/19	環境ワンヘルス研究会	1名	仙台市	2病棟	看護師長、手形兼務
11	7/9	第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	1名	仙台市	2病棟	看護師 主任 旧満田
12	6/29	医療安全研修と交流会	1名	看護協会	外来	看護師 主任
13	7/26	高齢者ケア施設で働く看護管理者研修Ⅰ	1名	看護協会	通所	看護師 主任
14	8/3	認知ケア対応力向上研修	1名	看護協会	1病棟	看護師
15	8/24	医療メディエーション研修(基礎編) 3日間	1名	看護協会	外来	看護師長
16	8/24	宮城大学老年看護学領域学習に関する勉強会	2名	宮城大学	1病棟	看護師
17	9/4	学生の思考をゆさぶる・深める発問について考えよう	1名	宮城大学	3病棟	看護師
18	9/4	看護師認知症対応力向上研修	2名	看護協会	3病棟	看護師
19	9/12	六ヶ所村医療センター研修	1名	青森	1病棟	看護師長
20	9/12	東北ストーリーリハビリテーション講習会	1名	仙台市	1病棟	看護師長
21	9/15	学生の思考を揺さぶる・深める発問について考えよう!	1名	宮城大学	2病棟	看護師
22	9/27	リハビリテーション・ケア合同研究大会	1名	広島県	3病棟	看護師 師長
23	10/2	コアカリキュラム看護師教育プログラムin大崎	1名	大崎市	2病棟	看護師
24	10/6	JADECOM学術大会	2名	地域振興協会	2病棟	看護師 主任 旧満田
25	10/27	マタニティセミナー	1名	大和町	外来	助産師 再雇用
26	11/6	日本保健福祉ネイリスト協会研究集会	1名	兵庫県	2病棟	看護師 主任 旧満田
27	11/9	看護師のための輸血研修会	1名	仙台市	手術室	看護師
28	11/13	藤田ADL講習会一般・初心者コース	1名	オンライン	3病棟	看護師
29	11/14	クリニカルラダーⅡ・Ⅲ研修	1名	伊豆	1病棟	看護師
30	11/20	クリニカルラダーⅡ・Ⅲ研修	1名	伊豆	2病棟	看護師
31	11/22	新人看護師研修	1名	看護協会	1病棟	看護師
32	11/27	下部尿路症状の排尿ケア講習会 3日間	2名	オンライン	1病棟・外来	看護師
33	11/29	東北NP研究会学術集会・総会	1名	仙台市	1病棟	看護師長
34	12/6	マタニティセミナー	1名	大和町	外来	助産師 再雇用
35	12/11	中堅主任研修会	1名	オンライン	3病棟	看護師
36	12/11	がんのリハビリテーション研修	1名	オンライン	2病棟	看護師
37	12/19	日本フットケア・足病医学会年次学術集会	1名	沖縄県	2病棟	看護師 主任 旧満田
38	1/26	輝きながら働き始める プラチナナースの生涯現役を考える	3名	オンライン	看護師長	看護師
39	1/29.30.31	六ヶ所村医療センター派遣	1名	青森	1病棟	看護師長
40	2/2	臨地臨床指導者会議 東北文化学園大学	4名	オンライン	3病棟	看護師
41	2/3	地域ネットワーク交流会	2名	仙台市	3病棟、手術	看護師
42	2/3.4	日本トータルフットマネジメント協会認定フットケア講座	1名	横浜	1病棟	看護師
43	2月10日	看護師職能研修会	4名	看護協会	各病棟、外来	看護師
44	2・16	看護師長研修会	1名	地域振興協会	看護部	看護師
45	2/17	第6回 宮城県フットケア研究会	6名	JCHO仙台	1. 2. 3. 病棟、訪問	介護福祉士看護師
46	2/17	災害支援ナース報告会	1名	看護協会	地域連携	看護師
47	3/2	第10回みやぎ糖尿病療養フォーラム	3名	仙台市	外来、1病棟	看護師
48	3/21	感染セミナー	4名	仙台市	1病棟	看護師

【第1病棟（地域包括ケア病棟）】

1) 病棟概要

- ① 病床数 55床
- ② 診療科 内科 外科 整形外科 泌尿器科 婦人科
- ③ 人員構成 看護師 22名 介護福祉士 7名 看護補助者 2名
- ④ 看護提供方式 パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）

2) 令和5年度病棟目標

退院後のその人らしい生活を見据え、患者・家族の意思決定を尊重した看護、介護が提供できる

3) 令和5年度実績（短期入院除く）

延べ入院患者数	15,049名	（前年度比+980名）
入院・転棟数	567名	（前年度比+62名）
退院数	562名	（前年度比+46名）

平均稼働率	平均在宅復帰率	平均在院日数	平均リハビリ
74.8% （前年度比 +4.7%）	82.7% 79.9% （前年度比 +2.8%）	26.7日 （前年度比 +0.9日）	2.4単位 （前年度比 +0.1単位）

4) 今後の目標と課題

今年度は、平均稼働率が前年度より+4.7%向上した。地域包括ケア病棟は、地域住民の健康と生活を維持する役割を担う病棟として、診療科を問わず、あらゆる領域の看護力や知識が求められる。多様な生活背景やニーズをアセスメントし、先を見据える力が必要である。医師、ケアマネージャー、外来、訪問看護ステーション、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、施設職員など、院内外の多職種と早期から常に連携し、次の生活の場につなげられるよう取り組んでいきたい。

（佐々木 多恵子）

【第2病棟（急性期病棟）】

1) 病院概要

- ① 病床数 55 床
- ② 診療科：外科 整形外科 内科 泌尿器科 婦人科
- ③ 人員構成：看護師 20 名 介護士 2 名 介護助手 1 名 看護助手 4 名
- ④ 看護提供方式：固定チームナーシング/日々受け持ち制
- ⑤ 入院基本料：10 対 1

2) 今年度病棟目標

『患者の個別性を考慮した良質な看護を提供し、早期退院を支援する』

3) 今年度病棟実績

入院延患者数：12,165 名 平均在院日数：14.9 日

2023 年度入院手術件数：106 件

外科 45 件、整形外科 59 件、泌尿器科 2 件、婦人科 0 件

4) 今後の目標と課題

今年度は、業務の視点・学習の視点・顧客の視点・財務の視点で目標を立案し運営した。

まず業務の視点では、週 1 回の退院支援カンファレンスの実施は確実にできたが、日々の病棟ミーティングの実施は臨時入院や介護認定調査、施設入所の実調のためなかなか時間の確保が困難で開催ができなかった。

次いで学習の視点では、スタッフ全員がクリニカルラダーレベルを意識し、業務に取り組んだ。また、ナーシングスキルの活用や院外研修への参加で看護知識の向上に努め、学んだ知識の共有として伝達講習を 2 回開催することができた。

そして顧客の視点では、残念ながらインシデントレベル 3b 1 件の骨折事例の発生があった。また 3a レベルのインシデントは前年度に比べ、2 件少なかった。

最後に財務の視点では、超過勤務時間を月 8～10 時間以内と目標設定したが、繁忙期の超過勤務時間が月 20 時間超えのスタッフもいたことから目標達成には至らなかった。

次年度も目標立案の視点は変更せず、「安全・安心な看護」をモットーに邁進していきたい。

(伊藤 公恵)

【第3病棟（回復期リハビリテーション病棟）】

1) 病棟概要

- ① 病床数 60床
- ② 回復期リハビリテーション病棟入院料1 看護配置 13:1
- ③ 人員構成 看護師 19名・介護福祉士 7名・看護助手 2名
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
- ④ 看護提供方式 固定チーム継続受け持ち制

2) 今年度の目標

『多職種との連携を強化し、患者・家族の意向を尊重した退院支援を実践する』

3) 今年度の実績

- ① 入院延患者数 15,943 名
- ② 平均稼働率 73.6 %
- ③ 在宅復帰率 84.9 %
- ④ 重症患者割合 31.1 %
(日常生活機能評価 10 点以上/新入院)
- ⑤ 退院時4点改善 (改善数/重症患者数) 54.2 %
- ⑥ 実績指数 55.2 点

4) 今後の目標と課題

急性期の治療終了後の患者を受け入れ、集中的にリハビリテーションを提供している。多職種チームで関わるのが必須であり、ADLの向上、在宅復帰を含めた退院支援を行うため、今年度も情報共有、協働や連携を常に意識することを目標とした。

直近の病棟の状況は、入院患者の年齢層が後期高齢者で約60%と半数以上を占め、ここ最近では50歳代を中心に40歳以下から60歳代の働き盛りの脳血管疾患の入院も一定数おり、近年は増えてきていると実感している。

他に回復期リハビリテーション病棟において指標となる実績指数が、ここ数年の中でも低下傾向が見られている。FIM利得向上や、入院期間に直結する退院支援に関して、ADL実践が不可欠であり、看護専門職として患者を支援する上で、リハビリテーションの成果を引き出していく看護介入を意識する必要があると考える。

次年度も、リハ医療には各職種のチームアプローチが重要となるため、更なる多職種との協働及びチームアプローチが実践出来るよう努力していきたい。

(和賀 明美)

【看護部 外来】

1) 人員構成

師長 1 名、主任 2 名、看護師 21 名（うち非常勤 5 名、再雇用 4 名）、看護助手 5 名、
医師事務 2 名（3/31 現在）

2) 看護師配置

内科、外科、整形外科、小児科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、
内視鏡室、中央処置室、外来化学療法室、発熱外来、健診室、総合受付

3) 実績

- ・目標 1 日平均患者数 240.7 人 平日 284 人、土曜日 30 人
- ・実績 1 日平均患者数 183.5 人（前年度比 -1.9 人）平日 213.2 人、土曜日 28.6 人
- ・救急車要請 時間内要請 319 件、受け入れ 272 件（応需率 85%：前年度比 +12%）
時間外要請 431 件、受け入れ 157 件（応需率 36%：前年度比 +4%）
- ・時間外診療 621 件/年
- ・病後児保育利用者 13 人、53 日/年（前年度比-4 人、-18 日）看護師ラウンド 159 回
- ・地域母子保健活動 マタニティセミナー 5 回/年 助産師 1 名
- ・看護外来（ストーマ外来）のべ 45 件/年 皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名
- ・インシデント報告件数 90 件（前年度比-33 件） レベル 3a 2 件（スキンテア）
- ・時間外簡易血液検査 62 件（前年度比+41 件）
- ・中間管理者任用候補者試験 1 名合格
- ・看護研究「当院内視鏡室における COVID-19 感染症対策の検討」
影山 友里恵、本望 美和

4) 今年度の振り返り

COVID-19 の対策は 2023 年 5 月より 5 類感染症となり、発熱外来の取り組みが簡素化した。これを機にトリアージの方法、発熱外来のレイアウト、受付場所の変更など様々見直しを行った。また、この夏は記録的な猛暑日が続き、熱中症の患者が多く訪れ処置室のベッドを確保するのが困難なほどであった。看護職員も熱中症予防で首にアイスノンを巻き付け対応したことが印象深い年であった

9 月より訪問診療部門の体制を強化するため、外来看護師と事務職員を 1 名ずつ専従とした。次年度はさらに拡大できるよう柔軟に取り組んでいる。

（石塚 玲子）

【手術室・中央材料室】

1) 手術室

- ① 手術室数 2室
- ② スタッフ数 看護師3名 看護助手1名（非常勤）
- ③ 看護体制及び勤務体制：常時日勤のみ
- ④ 診療科 外科 整形外科 泌尿器科 婦人科
- ⑤ その他

（ア）年間手術件数

令和5年4月1日～令和6年3月31日：133件（前年度より34件減）

（イ）麻酔科医師

松川 周、他東北大学病院から派遣麻酔科医師の応援あり

2) 中央材料室

- ① 機能 院内の鋼製小物や診療材料の洗浄・消毒・滅菌業務
（メーカー推奨の滅菌方法とス波尔ディングの法則に則る）

- ② 中央材料室設備

（ア）洗浄機

- ・ウォッシャーディスインフェクター 1台
- ・自動ジェット式超音波洗浄装置 1台

（イ）滅菌機

- ・高圧蒸気滅菌器 2台
- ・プラズテック 1台

- ③ 有資格者

普通第一種圧力容器取扱作業主任者 2名

3) 2023年度の振り返り

2023年度は手術件数133件であった。前年比34件減少で大幅な減少がみられた。

手術を受けた患者の133人中88人は65歳以上の高齢者で全体の66.2%で半数以上を占めていた。内、90歳以上の超高齢者は11人で年々手術患者の高齢化が進んでいる。

手術件数は減少しているが整形外科のTHAなどの人工関節手術は年間14件（内、両側オペ症例3件）と例年に比べ増加傾向にあった。

現在は看護師スタッフ3名にて業務を行っている（年度末には2名となった）。小規模の中でも感染対策や医療安全に全力で取り組むと共に手術室業務のみならず他部署支援の実施も行ってきた。今後も手術室看護の専門性を発揮し患者にとって最善の手術となるよう日々邁進して行きたい。

（佐藤 カナコ）

【くろかわ訪問看護ステーション】

1) 人員構成

看護師 8名 事務 1名

2) 訪問エリア

黒川地域（富谷市、大和町、大郷町、大衡村）及び色麻町
連携先 医療機関 24 か所、居宅事業所 19 か所

3) 今年度の目標

『訪問看護師として質の向上に努め、利用者・家族に寄り添った看護が提供できる』
『看護師が生き生きと働ける環境を作る』

4) 実績

(ア) 訪問看護利用者総数 147 名

(イ) 新規利用者：65 名

(ウ) 在宅看取り：30 名

(エ) 月別利用者数、訪問回数（グループホーム除く）延人数 992 名 延件数 5,117 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	83	83	87	86	89	88	87	92	91	84	83	83
回数	477	499	442	470	428	391	402	380	420	405	404	399

5) 保険外収入 グループホームなんてん吉岡 12 万円/月

6) 教育活動

① 在宅実習指導：看護学校 3 校 計 18 名 (29 日間)

② 痰吸引等研修指導：訪問介護事業所 4 事業所 計 14 名

7) 今年度の振り返り

今年度は訪問看護の新規利用者数も増え、その中で在宅見取りを希望する方も増えていきます。さまざまな看護・介護を必要とする医療依存度の高い利用者や、がんの終末期医療を必要とする利用者も増え、ニーズも多様化しています。それぞれの病状に合わせた対応を求められることも多く。最新の知識や臨機応変な対応を必要とし、訪問看護師の役割は大きいといえます。

定期訪問のほか、夜間の緊急訪問や在宅見取り対応も行い、主治医やケアマネ等との連携を図ることもさらに多くなり、看護師が訪問することで安心して療養生活できるように取り組んでいきたいと思っております。

(鈴木 文枝)

【通所リハビリセンター】

1) 人員構成

看護師 1名 介護福祉士 3名 看護助手 1名

2) 今年度の目標

- ① 通所看護師・介護福祉士として質の高い看護・介護を提供する
- ② 専門職として主体的に自律した看護師・介護士を目指す
- ③ 職場環境を改善し、やりがい・生きがいのある職場を作る

3) 実績

・通所リハビリ利用者総数： 77名（3月末現在）

・月別利用者総数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	429	416	477	417	368	378	265	367	303	372	393	449

4) 今後の目標

通所リハビリでは、医師・セラピスト・介護職・看護職等の多職種で構成されている。互いに情報を共有し、利用者の日常生活での問題点を多角的に話し合い、効果的なリハビリの介入法や在宅生活継続へのサポート等多岐に渡る支援を行っている。

各セラピストによるリハビリテーション提供の他、Nsによる口腔機能向上加算の算定介護福祉士による集団体操の提供、自宅入浴困難者の為の入浴等様々なサービスの提供を行っている。また7月からは平日のみの営業に変更となり全日利用可能となった。

R4年度はコロナ禍にて度重なる閉鎖が5回あった為、減収に直結した。来年度に向けてより一層感染対策を並行しながら利用者及びご家族が安心・安全に在宅で過ごせるように支援の継続を行っていく所存である。

(阿部 千種)

【病後児保育室】

1) 保育士 2名 堀籠 智美 吉田 ゆり子

2) 事業目標

一人ひとりに寄り添う保育

3) 保育実績

	新規登録者数	登録者総数	予約数	キャンセル数	利用者数
4月	8	95	4	1	3
5月	1	96	12	4	8
6月	2	98	11	4	7
7月	1	99	15	5	10
8月	3	102	3	0	3
9月	10	112	1	1	0
10月	4	116	10	4	6
11月	3	119	8	6	2
12月	0	119	7	4	3
1月	0	119	9	3	6
2月	2	121	5	1	4
3月	2	123	2	1	1
合計	36	123	87	34	53

4) 今年度の振り返りと今後の目標

今年度は周辺の保育施設でコロナウイルスの他、インフルエンザやアデノウイルスの流行がありました。病後児保育室では回復期のお子さんが対象のため、急性上気道炎や気管支炎での利用が多かったです。

今後も感染対策や看護師との連携を強化し、子どもの気持ちに寄り添いながら安全安心な保育を行ってまいります。

(堀籠 智美)

【看護の質委員会】

1) 構成メンバー

大黒 なか子 (看護部長)、石塚 玲子 (師長)、八巻 美和 (1 病棟主任)、佐久間 ともみ (2 病棟主任)、伊藤 美穂 (2 病棟)、谷 みはる (3 病棟主任)、村松 礼子 (外来)

2) 年度目標

- ① 看護部基準手順の見直し
- ② 「働きやすい職場環境」を目指すための研修企画

3) 活動報告

委員会開催 全 9 回

研修開催 全 4 回

① ハラスメント研修 部署別研修

テーマ「職場のパワーハラスメントについて」

担当：八巻 各部署に資料配布 アンケート調査、回答提示

日時：研修期間 R5 10/2~15

② プラチナナース向け研修

テーマ「プラチナナース研修会」 参加型研修会

企画：村松 参加者：6 名

日時：R5 11/17

③ 育児休暇中看護師向け研修 参加型研修会

テーマ「育児休暇中、育児休暇後のスタッフ同士の語り合う場」

担当：佐久間、伊藤、保育士 参加者：育休看護師 4 名+子 育休後看護師 1 名

日時 R5 11/11

④ 労基についての研修 前残業について

テーマ「働きやすい職場づくりについて考える」

企画：谷 各部署に資料配布 アンケート調査、回答提示

日時：研修期間 R6 2/1~16

(石塚 玲子)

【記録委員会】

1) 目的 看護の質保証とケアプロセスが見える記録が書ける

今年度目標

- ・看護必要度と看護記録の質向上に向けた記録の整備及び監查
略語集作成

2) 委員会メンバー

委員長：佐藤 亜紀子（地域連携室）

1 病棟：佐々木 駿輔、工藤 有佳

2 病棟：伊藤 公恵、菅原 由美子、千葉 千春

3 病棟：安部 真里菜

外 来：及川 富士子

3) 活動内容：計 8 回開催

- ・「重症度、医療・看護必要度」院内研修開催、各病棟スタッフ受講
- ・必要度横断的監査の実施とフィードバック
- ・質の高い記録の監査実施とフィードバック
- ・看護記録と必要度の新人研修実施
- ・外来看護記録記載基準作成
- ・略語集作成

4) 次年度は、診療報酬改定に合わせた「重症度、医療・看護必要度」院内指導者研修受講及び、研修開催をする。

又、今年度整備した略語集、外来記載マニュアルの評価と、監査活動を継続し記録の質向上に努めていく。

(佐藤 亜紀子)

【臨床指導者委員会】

1) 構成メンバー

大黒 なか子 (看護部長) 和賀 明美 (病棟師長) 鎌田 千恵美 (1病棟)
石井 美穂 (1病棟) 北條 智 (2病棟) 小松 琴美 (3病棟)

2) 活動報告

定例会 毎月第1水曜日 16:40～

- ① 2023年度 計8回開催
- ② 各領域別実習内容確認及び進捗の共有
- ③ 各大学の領域別臨地実習の打ち合わせ参加及び各指導者へ周知
- ④ 宮城大学看護学実習全体協議会へメンバー3名参加し、意見交換
- ⑤ 東北福祉大学実習連絡会参加 領域別分科会での内容共有

3) 今後の目標

- ・実習目的及び目標に沿った実習場面の調整が、適切に提供できる
- ・看護の実践者として役割モデルとなる実習指導者育成の継続

(和賀 明美)

【看護部教育委員会】

1) 構成メンバー

1 病棟：鎌田 千恵美、酒井 美由紀 2 病棟：千田 恵美、千葉 彩佳
3 病棟：佐藤 咲 外来：影山 友里恵 手術室：佐藤 カナコ
通所リハビリ：斉藤 文子 師長：佐々木 多恵子

2) 委員会開催日： 第1木曜日 17:00～

3) 教育委員会の活動内容

【活動目標】

- I 新人看護師ならびに新人教育に携わる看護師の教育体制の構築と支援ができる
- II 現任教育としてクリニカルラダーを活用して根拠に基づく看護実践ができる
- III 看護の質の向上のために謙虚で思いやりのある人間性豊かな看護ができる

【活動報告】

・現任教育について

クリニカルラダー別にナーシングスキルを活用。

ラダー別に動画講義と技術、手技の課題を設定し各自聴講。

また、集合教育としてラダー別にグループワーク「看護における葛藤やジレンマとそれに対するモチベーションのあげ方」というテーマでグループワークを実施した。

研修時間は1日とし午前はナーシングスキルを聴講する時間とした、午後からグループワークを実施、合計100名の看護師が参加。「ナーシングスキルを聴講する時間が確保できて良かった」「他部署の意見を聞き、自己の状況を振り返ることができ、このような機会があつて良かった」との意見が多数あつた。

・新人教育について

新人看護師1名に対し年間計画を立て1年間で合計15回の研修を実施。

その内、勤務での多重課題と夜勤想定 of シミュレーション研修も2回開催。その他実務に必要な項目を各部署の職員が講師となり実施した。毎回の研修後の振り返りでは「わかりやすく勉強になった、実務に活かしていきたい」と前向きな意見が聞かれた。

(文責 佐々木 多恵子、佐藤 カナコ)

3. 医療技術部

【薬剤室】

1) スタッフ

薬剤師 6 名（臨時 1 名）、調剤助 1 名（2023 年度開始時）

本期間中に薬剤師 2 名が退職し、2 月以降は薬剤師 4.5 名体制となりました。

2) 今年度の実績

① 外来業務

人員減により、前年度よりも大幅に調剤待ち時間が長くなりました。

一包化希望など調剤に時間がかかる患者を中心に院外処方を勧めています。

2023 年度の院外処方せん発行率は 10.49%でした。

② 入院業務

人員減少により 2 月以降は全く病棟活動ができませんでした。

③ 委員会活動・チーム医療への参画

化学療法室、糖尿病教室、NST、ICT などの業務に参加しました。

④ 人員確保の取り組み

奨学金制度導入の検討を開始しました。

3) 今後の目標

人員確保に努める。

業務改善による効率化を図り病棟活動を再開することを目標とします。

処方箋数及び薬剤指導件数

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外 来 処 方 箋 数	39,641	38,830	34,610
入 院 処 方 箋 数	17,657	16,644	17,418
薬剤管理指導 1 件数（ハイリスク薬）	192	169	114
薬剤管理指導 2 件数（上記以外）	189	179	114
退 院 指 導 件 数	9	19	6
麻 薬 指 導 件 数	36	10	6

（高橋 恵）

【臨床検査室】

1) スタッフ

臨床検査技師 常勤職員 4名 (1名育休) 非常勤職員 1名

2) 昨年度実績

① 業務

COVID-19の5類移行を受け、運用面で12月より核酸増幅法(NEAR法)から抗原定性(イムノクロマト法)、抗原定量(CLEIA法)へ検査方法が変更された。検査実績数は前年度から検体検査4%↑、生理検査6%↑、超音波検査2%↑であった。その他の検査業務では、精度管理面でいくつか課題が残った。有給休暇取得日数は、前年度をやや上回った。

② 機器関連

1月 心電計の更新1台(フクダ電子 Cardimax8 FCP-9800)

③ 学会・研修会

(ア) オンライン研修・学会

5月 日本超音波医学会

7月 第48回日本超音波検査学会学術集会

10月 第15回JADECOM学会

11月 日臨技北日本支部医学検査学会

2月 令和5年度宮城県臨床検査精度管理報告会

その他参加数 12回

(イ) 院内研修会

11月 Roche主催【甲状腺疾患及び検査最新情報について】

④ その他

2月 認定心電検査技師を取得(1名)

3) 今後の目標

- ① 院内研修会(外部主催)の増加。基本的な知識、新しい情報を取得しルーチンワークへの活用を目的とする。
- ② 一部ローテーションの実施(バックアップ体制の強化)
- ③ 有給休暇の取得日数を増加する。
- ④ 外部又は内部での研修会、学会へ参加(知識、検査技術の向上、臨床データに対する理解の向上を目的とする)

4) 検査実績

① 検体検査

検査項目	2021年度	2022年度	2023年度
生化学・免疫	55,346	52,443	53,851
血液・凝固	20,031	18,407	19,628
血液型・輸血	398	359	359
一般	27,851	26,381	28,426
核酸増幅	766	1,556	854
合計	104,392	99,146	103,118

② 生理検査

検査項目	2021年度	2022年度	2023年度
心電図	6,794	6,387	6,785
肺機能	652	563	630
ホルター心電図	101	100	90
P S G	84	63	62
純音聴力	205	257	268
その他	54	35	25
合計	7,890	7,405	7,860

③ 超音波検査

検査項目	2021年度	2022年度	2023年度
心臓	387	353	343
腹部	1,764	1,705	1,748
頸動脈	20	17	24
下肢	43	32	26
その他	0	0	0
合計	2,214	2,107	2,141

④ 外注検査

検査項目	2021年度	2022年度	2023年度
検体	3,848	3,505	3,115
細菌	1,134	1,085	1,200
病理・細胞診	579	570	505
合計	5,561	5,160	4,820

(渡辺 峰人)

【栄養室】

1) スタッフ

管理栄養士 常勤職員 2名 (内1名産休・育休)
富谷の郷から派遣 1名
委託職員 (グリーンハウス) 13名

2) 今年度の実績

- ① 褥瘡ラウンド 週1回参加
- ② 院内感染ラウンド参加
- ③ VE・VF検査 週1回実施
- ④ 入院、外来栄養指導
- ⑤ 栄養だより 4回発行
- ⑥ 糖尿病だより 4回発行
- ⑦ 広域くろかわの栄養情報の掲載 4回執筆
- ⑧ 行事食の提供

常勤の病院栄養士が1人産休に入りましたが、派遣の方と分担しつつ他職種と協力し合い患者様のために日々活動しています。

食事についても委託会社と話し合いながら、内容や味付け等の検討を重ねています。物価高騰が続いており、献立のサイクル化など作業効率をよくするため業務整理も行いました。ラウンドやアンケート調査での意見を参考に一人一人に合った栄養管理を心掛けています。

常勤が1人体制となり、栄養情報提供書や訪問栄養指導など十分に介入できませんでしたが、今後も各病棟と協力しきめ細かな栄養管理ができるよう努めていきます。

3) 今後の目標

他職種と協力して栄養状態の改善に努め、個人対応表を使い食事の満足度を上げていく。栄養情報提供書を利用し病院・施設間での連携を密にする。

4) 実績データ

- ① 栄養指導 (個人) 入院 105件、外来 104件
- ② 栄養情報提供書 1件

(小岩 陽子)

【リハビリテーション室】

1) スタッフ

PT 23名、OT 15名、ST 6名（内産休・育休 4名） R6年3月31日現在

2) 特徴、今年度の実績

各職種とも、①一般病棟・包括ケア病棟・外来、②回復期リハ病棟、③訪問リハ、④通所リハの4つのチームに分かれて業務にあたっています。今年度もCOVID-19の感染対策に留意しながら、チームごと試行錯誤で業務を行いました。特に秋以降、病棟稼働率の上昇に伴い、患者数に対するリハ職員数の比率が低下し、繁忙を極めておりました。

① 一般病棟・包括ケア病床・外来リハ

感染対策に留意しながら早期離床と日常生活動向上を目標にリハビリに取り組んでいます。COVID-19感染症の対策として手指衛生と使用物品の清掃を徹底しました。また耐性菌に対しても簡易のマニュアルを作成し標準予防策やフルPPEを徹底しました。褥瘡予防、関節拘縮予防または治療のためのポジショニング（112例）を積極的に実施しています。的確な体位変換やポジショニングを病棟に提供し、スライディンググローブ、移乗用ベルト、トランスファーボードやリフトなどの福祉用具を積極的に活用しています。積極的に離床し早期合併症の予防やADLの向上を図りました。

地域包括ケア病棟においてはADL向上と在宅復帰率向上を目的に疾患別リハ以外の患者に対してもリハビリの介入を行っています（3,017単位）。排尿自立指導料に関しても多職種と連携して（174件）算定しました。

外来リハでは早期退院した下肢関節疾患や肩関節疾患を中心に治療を行っています。またボツリヌス療法（55例）後のリハビリテーションも実施しています。言語聴覚療法部門では嚥下スクリーニング、嚥下評価として嚥下造影（89件回復期含む）、嚥下内視鏡検査（17件）時の診療補助業務の他、食事内容や摂取方法の支援、嚥下リハビリテーションの他、摂食機能療法を実施しております（7例 93単位）。

また、外来患者における自動車運転評希望者に対する高次脳機能面の評価も実施しています。

② 回復期リハ

定期的に回診、カンファレンスを行いながら、リハビリの進捗状況を確認し、多職種連携したリハビリを提供しています。HANDS療法やCI療法の施行が増え、磁気刺激装置や振動刺激を用いた重度運動麻痺に対するアプローチを積極的に行っています。運動器疾患にも磁気刺激装置を取り入れ筋力強化を図り、免荷式リフトPOPOを使用し重症の患者様や荷重制限がある患者様に対して、早期より立位練習・歩行練習を行ってお

ります。ご家族様の協力のもと自宅環境の確認・写真の依頼を行い、早期から自宅復帰に向けたプログラムの提供を行っております。院内研修の一環として回復期 PT による「腰痛体操の指導」を行っております。

摂食嚥下リハビリテーションとして、経管栄養からの経口摂取への移行、他直接的嚥下訓練（症例によりバルーン訓練、磁気刺激装置による基礎的嚥下訓練等）を実施しております。非常勤の日本リハビリテーション医学会専門医による装具診は、27 件の診察を行いました。

7 月に心大血管リハビリテーション（Ⅱ）が開設され、循環器疾患を合併する患者も増えてきています。また、協会内での人事交流として OT・ST の 1 週間研修受け入れも行いました。

③ 訪問リハ

黒川郡、富谷市、色麻町を対象に実施しています。月 330 件の実績を目標にしており、介護保険・医療保険（訪問看護）合わせて 4 月～11 月は達成することができました。訪問看護ステーションからの医療保険該当者は 418 件と前年より大きく増加し、中でも小児の訪問リハに介入することで地域に貢献することができました。訪問リハ利用者でもボツリヌス療法を受ける方（5 例）もおり、地域包括ケア病棟スタッフと協力しながら実施しています。

④ 通所リハ

黒川郡、富谷市を対象とし家族送迎可能な利用者のみ黒川地域以外の利用者受け入れを行っております。月～金曜日 3-4 時間、6-7 時間（定員 35 名）でサービスの提供を行いました。今年度は、延べ利用者数の増加と 1 日利用（6-7 時間）の利用者数増加を図りました。延べ利用者数は、平均 423.8 件/月と前年度（平均 386.1 件/月）を上回ることができました。また、1 日利用（6-7 時間）の利用者数は、3,516 件/年と前年度（2,729 件/年）を上回り、全体における 1 日利用（6-7 時間）の割合が増加しました。加算に関しては、医師の協力を得てリハマネ加算 B を 67 件算定しています。リハビリテーション会議を行うことで課題や目標達成状況を利用者だけでなく家族やケアマネージャーと共有することで目標達成後、適切な時期にデイサービスへ移行することができ、移行支援加算の算定要件を満たすことができました。

3) 今後の目標

- ① 心臓リハの知識・技術をチーム内で共有し、より質の高い心リハを提供できるように努める。他職種と連携し早期に離床、ADL の向上が図れるように努める。
- ② 黒川郡内・富谷市での地域貢献活動が行えるようなシステムの構築を図る。
チーム STEPS を用いた医療安全の向上、低栄養患者に GLIM 基準を用いた栄養評

価を行い改善するよう検証を行う。本人・家族参加での家屋評価を再開し、退院後の生活の質を確保していく。

- ③ 介護保険の訪問リハと訪問看護ステーションからの医療保険該当者のリハを合わせて前年比5%の増収を目指す。災害、感染のBCPマニュアルの改訂。虐待、BCPに関する研修を当院の介護保険事業所と連携して行っていく。
- ④ 感染予防対策を徹底しつつ、利用者本位の多様な価値観・目標に合わせた通所リハを進め、利用者の増加、必要に応じた加算算定、目標達成等適切な時期に通所リハを終了し社会参加への移行が図れるよう努める。
- ⑤ 急性期病院から転院後、また施設や自宅から当院へ入院された患者様の嚥下機能評価と食支援を適宜実施し、退院先と連携をはかりつつ対応していく。脳卒中後の自動車運転再開に向けて、当院入院時、退院後と継続した評価支援を行っていく。

4) リハビリテーション室診療実績

入院	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
運動器疾患リハ	35,089	27,044	28,863	27,231	27,316
脳血管疾患リハ	50,959	60,823	56,434	52,018	61,272
廃用症候群	3,992	2,130	5,239	7,185	10,343
呼吸器疾患リハ	74	2,180	4,552	5,167	10,216
摂食機能療法	66	51	80	41	93
がんリハ	321	487	712	1,328	507
(単位数)					
外来	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
運動器リハ	3,462	2,428	1,967	1,249	1,551
脳血管リハ	381	469	183	63	169
廃用症候群	0	0	0	0	0
呼吸器疾患リハ			14	0	0
(単位数)					
	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
訪問リハ(件数)	3,835	3,794	3,441	3,252	3,776
〃(単位)	7,815	7,826	7,089	6,573	7,719
訪問看護(件数)					
医療保険リハ				342	418
(単位数)					
	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
通所リハ延べ件数	6,427	6,347	5,294	4,634	5,094

5) 講演発表

- 2023/4/15 『訪問リハビリテーションに出かける前の基礎知識』
大塚 英樹. 日本リハビリテーション協会 (オンライン)

- 2023/9/6・13・20、12/6 『いきいき百歳体操』講師
沖原 頌、山口 倫生、山崎 晃平、須藤 香那恵、丸山 陸. 大郷町

- 2023/8/4 『摂食嚥下に問題のある方への食事支援』特別養護老人ホーム七峰荘
講師 猪股. 大衡村

- 2023/8/10 『栗原市令和5年通所及び訪問介護計画作成担当者研修会』講師
大塚 英樹. 栗原市

- 2023/10/27 『多職種が参加する研修会開催に向けた院内研修員会の取り組み』
大塚 英樹. リハビリテーション・ケア合同研究大会広島 2023 (広島市)

- 2024/3/13 『認知症カフェ～健康寿命を延ばそう～』講師
岩渕 美咲. 大和町

(千葉 美玲、管原 一偵、青木 杏奈、猪股 伸彦、千葉 淳子)

【放射線室】

1) 人員

診療放射線技師 常勤 5 名

通常勤務のほか、輪番で自宅当直体制をとっています。

2) 今年度の実績

今年度、一般撮影装置 2 台のうち 1 台が更新となりました。新たな装置にはオートポジション機能が搭載され、女性技師にも扱いやすく、スループットの向上が図られております。

マンモグラフィー検診施設認定に向けては、感染対策で試験会場、開催数ともに制限が続きましたが、ようやく従前の規模に回復しました。ただし、受講・受験を待っていた技師が多数であり、需要に供給が追い付いていない状況です。何とか次年度での達成を目指したいところです。

検査件数はここ数年、全ての項目で横ばいとなっております。今後は CT 検診など予防医学への業務拡大に取り組み、地域住民の健康維持に繋げて参りたい、と考えております。

医療安全業務では、画像診断レポートにおいて紙運用での対応が未だ残っております。電子カルテの更新も迫っており、デジタル化を進めるべく取り組んでまいります。

3) 実績データ

年度 撮影機器	2023 年 (件)	2022 年 (件)	2021 年 (件)
一 般 撮 影	16,887	18,473	17,405
マンモグラフィー	3,650	3,778	3,443
C T	2,717	2,690	2,359
冠動脈 CT (再掲)	3	4	3
M R I	1,186	1,189	1,153
透視撮影 (※)	1,414	1,500	1,393
骨密度測定	255	227	226

(※：外科用イメージによる手術中の透視業務を除く)

(石森 靖朗)

【居宅介護支援事業所】

1) スタッフ

以下の2名で構成

主任介護支援専門員 2名(うち1名は居宅介護支援事業所管理者兼務)

2) 今年度の実績

居宅介護支援事業所とは介護保険法にもとづき、要介護認定を受けた人が介護サービス等を利用し、在宅生活が継続できるよう支援する事業所です。具体的には、介護支援専門員(ケアマネージャー)が本人・家族の心身の状況や生活環境、希望等に沿って、居宅サービス計画(ケアプラン)を作成し、それに基づき介護サービスを提供する事業所との連絡・調整を行います。当院での組織上は医療技術部に所属しており、地域連携センター内に席を置かせて頂き業務にあたっております。2021年4月より居宅介護支援事業所の管理者要件が主任介護支援専門員(ケアマネージャーの上級職)に限るとの指針が示されたことを受け、当事業所では2名とも主任介護支援専門員を取得し、より質の高いケアマネジメントの提供を目指しております。

当居宅介護支援事業所の直近3年間の実績

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
相 談 件 数	38	35	41
新 規	22	19	28
終 了	19	17	22
総 ケ ア プ ラ ン 数	748	755	739
平均 担 当 件 数 (月)	31.2	31.4	30.7
入 退 院 連 携 加 算 数	53	44	63

*令和5年度2月、3月分未集計のため前月1月までの10ヶ月の平均値を加算し算出

3) 今後の目標

- ① 平均担当数30件をベースとし、より多くの相談を受けられるように努める。
- ② 入退院、在宅サービスの円滑な実施のため医療機関、関係各所との連携をはかる。
- ③ 資質向上のため、ケアマネ協会や地域包括支援センター等が主催する研修会へ積極的に出席する。

(石川 篤)

4. 事務部・その他

【総務課】

1) スタッフ： 常勤 6名 非常勤 2名

部署内の能力底上げを図るため、昨年度の人事係と経理係の担当者入替に加え、給与担当者も新たに迎え入れた。また、関連施設である富谷の郷との人事交流も活発化させ担当者が相互に補完できる体制の構築を図った。庶務業務等も見直し、効率のいい運用が出来るようにした。

2) 令和 5 年度の実績

① 新型コロナウイルス感染症に伴う対応

(ア) 感染予防機器や消耗品の導入と管理

- ・ 正面玄関における、自動体温計測装置を用い患者さんへの検温実施。
- ・ 感染予防対策として、飛沫防止パネル・空気清浄機・サーキュレーター等の運用。
- ・ 継続的な感染防護用品の確保。

(イ) 発熱外来・院内検査支援

- ・ 発熱外来での発熱患者待合室（プレハブ等）の維持管理。

(ウ) ワクチン接種支援

- ・ 関係自治体とのワクチン入荷調整。
- ・ 接種体制の確実な運用
- ・ 接種当日窓口対応（受付、問い合わせ対応、誘導等）
- ・ 接種関連書類管理（問診票、接種済証等）

② 行政組合への医療機器・設備更新

- ・ 総額 8,500 万円の更新

内訳) 医療機器の更新 (X線一般撮影装置、回診用 X線撮影装置、超音波診断装置 他) 5,000 万円

設備の更新 (冷却塔修繕、待合椅子更新、オストメイトトイレ改修 他) 3,500 万円

③ 出前講座・絵画展示等

- ・ 院内美術館の展開 (地元画家との協業による絵画展示)

④ 監査対応等

新型コロナウイルスにより延期や書面での対応となっていた監査等が一気に今年度に集中したが、いずれについても各担当者をはじめ部門一丸となって対応し、大過なく対応出来た。

- ・労働基準監督署立入検査（5月）
- ・JADECOCOM 本部内部監査（6月）
- ・厚生局適時調査対応（10月）
- ・税務署源泉所得税調査（12月）
- ・保健所立入検査（1月）

⑤ 資金調達等

- ・運転資金として、3.5億円をJADECOCOM 本部より借入を行った。

3) 今後の目標

- ① 職員に寄り添った就業環境の整備（外部産業医・カウンセラーの招聘等）
- ② 各種業務の電子化による事務作業の効率化と院内展開
- ③ 担当業務変更等、業務効率化および部門力強化の為フレキシブルな対応
～既存のルールや慣習にとらわれず思い切った業務の統合や削減を実施したい～

（富田 学）

【医事課】

1) 職員数

- ① 医事部門 常勤 5 名、委託 19 名
 (内訳) 統括 1 名、入院会計担当 3 名、外来会計担当 1 名、外来会計委託 19 名
- ② 情報システム部門 常勤 1 名
 (内訳) 医療情報担当 1 名

2) 業務内容

- ① 医事部門
 診療科受付、窓口会計、診療報酬請求、医事統計作成、施設基準届出および管理、
 診療情報管理（診療録管理、DPC データ作成、全国がん登録データ作成）、
 未収金管理、患者相談窓口対応等
- ② 情報システム部門
 院内情報システムの運用保守、各種データ統計作成、電子カルテおよび各部門
 システム導入等

3) 今年度の実績

- ① 医事部門
 - ・新型コロナに関する診療報酬算定
 - ・オンライン資格確認端末の導入
 - ・医療費後払いシステムの導入
- ② 情報システム部門
 - ・電子カルテおよび各部門システム等安定稼働維持

4) 今後の目標

- ・電子カルテ更新準備
- ・業務の効率化による時間外労働の削減
- ・年休取得率の向上
- ・医療費請求の適切化
- ・システムの安定稼働維持
- ・院内への有用なデータの継続的な作成と提供
- ・クレジットカード払いの導入
- ・口座振替の導入
- ・債権回収の強化

(鈴木 広明)

【経営企画室】

1) スタッフ： 常勤 0.5名 *令和4年度より、健康診断室係員と兼務

2) 令和4年度の活動実績

① ニュースレターの発刊

経営に関する情報を収集し、ニュースレターとして17回を発刊し情報提供を実施した。

バックナンバー： MOSS → 経営企画室 → 1. ニュースレター

② 分析レポートの作成

経営判断を要する新規事業および既存事業状況について、分析レポートを4編作成し情報提供を実施した。

バックナンバー： MOSS → 経営企画室 → 2. レポート

③ 経営指標の整備

既存の14つの経営指標に加え、経営状況をタイムリーかつ直感的に捉えるため新たに、下記の1つの指標を整備した

「15. 開設からの移動年計値」

保管場所： MOSS → 経営企画室 → 3. 経営指標

3) 今後の目標

R4年度以降、健康診断室と兼務となりアクティビティが低下した面が否めない。

今後は、従前の活動ができるよう努めていきたい。

- ・ 経営判断に資するデータ収集および分析等の情報提供
- ・ 新規事業および既存事業の経営改善への支援
- ・ 経営指標の管理

(高橋 秀作)

5. 直轄部門

【医療安全管理室】

1) スタッフ

医療安全管理者：専従 GRM 佐々木 貴子、 看護部長：大黒 なか子、
副管理者：南家 俊介、
医療機器安全管理責任者：石森 靖朗、 医薬品安全管理責任者：高橋 恵、
相談窓口担当責任者：石塚 玲子、 総務：山下 恵子、 医事：鈴木 広明、

2) 今年度の実績

- ① 週 1 回医療安全部門会議（48 回）実施
 - ・ インシデントレポートの情報共有、分析、対策立案、評価
 - ・ 相談窓口との情報交換、対応協議
- ② 医療安全院内ラウンド
 - ・ 医療安全ラウンド：医療安全管理室メンバーで毎月 1 回（12 回）実施
 - ・ 無断離院患者ラウンド：安全対策員、GRM で患者訪問
- ③ 院内研修会の実施
 - ・ 薬局出前講義：外来、各病棟、手術室、訪問看護、リハビリ室（7 部署）
 - ・ 機器講習会：MRI、12 誘導心電図、AED・除細動器、人工呼吸器の研修
 - ・ 全職員対象研修会：2 回「心理的安全性①—④」、「各部署の業務改善報告」
- ④ 医療安全強化月間活動 11 月
 - ・ 医療安全川柳、5S 活動、タイムアウトポスター、ありがとうカード掲示
 - ・ 転倒転落データ、転倒転落出前講座の紹介
- ⑤ 地域連携相互評価会議（オンライン会議、病院訪問）
 - ・ 加算 1-1 連携：坂総合病院 5/25、8/10、10/27、12/5 ZOOM 会議
病院訪問：黒川訪問：11/24（7 名来院）、坂病院訪問：12/5
 - ・ 加算 1-2：●松島病院：訪問 7/20、会議 2/22、●葵会仙台病院：訪問 7/27
- ⑥ BLS 活動報告（委員長：伊藤拓也、副委員長：渡邊大樹、他スタッフ 12 名構成）
 - ・ 院内講習会・委員会開催（10 回）
対象者：検査技師、放射線技師、他未受講者：13 名
 - ・ 他施設講習会：富谷の郷の職員 6 名 10/4
- ⑦ 転倒転落予防チーム
 - ・ 病棟ラウンド：延べ 65 名実施
 - ・ 院内研修：2022 転倒転落データ報告 7/3、移乗訓練 2024/1/26、2/2
 - ・ 出前講座：「転倒転落予防対策」富谷の郷 9/21（14 名）、船形の郷 10/5（28 名）

3) 今後の目標

- ① インシデントレポートの活用と対策の実施およびその評価を行う
- ② アクシデント（レベル 3b 以上）が起きた際の速やかな報告と対応
- ③ インシデント報告を元にカンファレンスや研修会を開き、安全文化の醸成を図る

（佐々木 貴子）

【健康診断室】

1) スタッフ数

健診室長（内科医師）	1名	診察医師（内科医師）	2名
看護師（外来兼務）	2名	看護助手	1名
健診事務	4名（0.5 経営企画室兼務、 0.5 派遣）		

2) 業務内容

① 各種健康診断の実施

- (ア) 全国健康保険協会生活習慣病予防健診、特定健診（被扶養者）
- (イ) 宮城県市町村職員共済組合 共済ドック・共済脳ドック
- (ウ) 企業定期健診、雇入時健診、人間ドック
- (エ) 企業特殊健診 騒音、赤紫外線、じん肺、電離放射線、有機溶剤、特化物 他
- (オ) 代行機関健康診断委託契約
ウエルネス・コミュニケーションズ(株)、(株)ベネフィットワン、イーウエル(株)、(株)バリューHR、(株)総合医科学研究所、半田市医師会健康管理センター 他
- (カ) 健康保険組合委託契約
トヨタ自動車健康保険組合、トヨタ販売連合健康保険組合 他
- (キ) 個人 雇入時健診、人間ドック・脳検診・乳がん検診・子宮がん検診

【健康診断実績】（件数） ※過去5年推移（職員健診実数に含まず）

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康診断	4,855	3,835	4,209	4,038	4,177
特定健診	104	154	83	79	59
人間ドック	269	220	249	258	282
脳検診	173	126	100	118	106
乳がん検診	569	487	567	572	623
子宮がん検診	566	504	563	577	625

- ② 結核検診（宮城県塩釜保健所黒川支所）
- ③ 住民検診（各町村胃がん・大腸がん二次検査、乳がん検診、子宮がん検診、脳検診）
- ④ 予防接種・ワクチン接種（インフルエンザ、肺炎球菌、B型肝炎、麻疹風疹 他）
- ⑤ 特定健康診査（国民健康保険被保険者対象8～9月）
- ⑥ 職員健康診断（年2回定期・臨時・入職時健診）

3) 2024年度目標

- ① 時短健診実施による受入体制の強化
- ② 健診・ドック受診者数の増（健診 400人/月 ・ 人間ドック 40人/月）

（太田 忍）

【地域連携室】

- 1) スタッフ 地域連携室長 佐藤 亜紀子
地域連携係長 宮澤 玲子

2) 今年度の実績

① 紹介件数 2,121 件（前年度 1,892 件）

② 診療科別紹介件数

診療科	紹介件数	前年度
内 科	1,074 件	914 件
整 形 外 科	521 件	489 件
外 科	230 件	202 件
泌 尿 器 科	150 件	161 件
眼 科	49 件	23 件
婦 人 科	15 件	33 件
耳 鼻 科	23 件	21 件
小 児 科	23 件	24 件
皮 膚 科	36 件	25 件

③ 返書率 99.8%（前年度 99.9%）

④ 紹介率 44.8%（前年度 46.1%）

⑤ 他院診療予約件数 380 件（前年度 336 件）

⑥ 受託検査

(ア) MRI 137 件（前年度 169 件）

(イ) CT 9 件（前年度 14 件）

(ウ) PSG 3 件（前年度 4 件）

(エ) 嚥下造影 3 件（前年度 1 件）

(オ) レスパイト入院 20 件（前年度 6 件）

⑦ 医療機関訪問・意見交換 40 件（前年度 6 件）

⑧ 受診、入退院お知らせ 2,529 件（前年度 2,188 件）

3) 今後の目標

地域連携室は、地域の皆様に安心と満足の医療・療養環境を提供できるよう
医療・関係機関、福祉施設と連携し、地域と病院を繋いでいきます。

(佐藤 亜紀子)

【地域連携室】 退院支援部門

- 1) スタッフ 看護師長 1名（専従）
看護師 2名
MSW 3名

2) 今年度の実績

① 入退院支援加算 I 算定件数（単位：件）

	今年度	前年度（10～3月）
1 病棟	260	84
2 病棟	173	37
3 病棟	183	35
計	616	156

② 他機関・介護サービス担当者との情報共有面会

施設・事業所	70 施設
延べ件数	209 件

（佐藤 亜紀子）

【患者サポート室】

1) 今年度の活動内容

2023年4月より患者サポート室の活動は、休眠しています。

ただし患者相談や苦情報告は、医療安全カンファレンスに合わせた患者相談窓口カンファレンスで共有し、対策の立案、実施をしています。

2) 今年度の患者相談窓口対応件数

相談窓口対応件数：4,884件

内容	2022年度	2023年度
案内業務	1,718	1,060
受診科の相談	1,212	602
診断書・書類について	4	26
診療内容について	15	27
医療費について	11	3
入院・生活上の不安	29	2
苦情・ご意見	33	38
発熱トリアージ	1,863	1,106
ストレッチャー対応		41
車椅子介助	771	1,387
急患対応	43	37
ワクチン接種の問い合わせ	32	11
個別対応	96	298
その他	43	246

ご意見箱：26件／年

3) 今後の目標

現在、専任担当者は不在ですが、患者様の声に耳を傾け、患者相談窓口カンファレンスの継続をしていきます。

(佐々木 貴子)

【医療社会事業課】

1) スタッフ

課長補佐 赤間 弘治
社会福祉士 佐山 悠樹
社会福祉士 日吉 美沙樹（産休・育休）
社会福祉士 菅原 欣久（富谷の郷からの出向）

2) 令和5年度の実績

医療福祉相談室

相談件数	635件
退院支援	307件
社会福祉制度説明	46件
経済的問題支援	5件

3) (目的別) 転院相談受け件数

① 内科、外科系等

リハビリ目的（地域包括ケア病棟）	71件
リハビリ目的（回復期リハビリテーション病棟）	166件
その他（リハビリ以外）	15件
合計	252件

② 整形外科

リハビリ目的（地域包括ケア病棟）	48件
リハビリ目的（回復期リハビリテーション病棟）	73件
その他（リハビリ以外）	0件
合計	121件

4) 実習受け入れ

仙台白百合女子大学 人間学部 心理福祉学科
・4年生：1名（旧カリキュラム）24日間
・3年生：1名（新カリキュラム）8日間

（赤間 弘治）

VI. 委員会報告

【防災対策委員会】

1) 構成メンバー

医 局 田口 勝行
看 護 部 古澤 牧子、工藤 利竜、松谷 知香、石川 繭美、新津 佳代
木下 めぐみ
医療技術部 伊藤 智也
事 務 部 鈴木 広明、海老名 勇介

2) 活動報告

・計 11 回の委員会を開催（毎月第 4 水曜日）

① 避難訓練：合計年 2 回（毎年：9 月、3 月 第 2 木曜日）

月日	想定内容	参加人数
令和 5 年 9 月 14 日(木)	夜間想定避難・誘導・消火訓練	21 名
令和 6 年 3 月 14 日(木)	夜間想定避難・誘導・消火・通報訓練	25 名

② 災害対策マニュアルの改訂

- (ア) 地震関連
- (イ) 火災関連
- (ウ) 風水害・土砂災害関連

③ その他

- ・防災倉庫の整理
- ・備蓄品の見直し

3) 次年度の目標

- ・各種マニュアルの見直し

(田口 勝行)

【医療ガス安全委員会】

1) 構成メンバー

委員長 松川 周 (麻酔科)
医療技術部 高橋 恵 (薬局室長)
事務 海老名 勇介
守衛室 澤口 (医療ガス担当者)

2) 活動報告

医療ガスに係る安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする委員会であり、令和6年3月13日(月)に委員会を開催し、以下の件につき報告を受けた。

- ① 日常点検内容の確認
- ② 年次点検立ち合い報告
- ③ 医療ガスの安全管理、医療ガス事故例について (エア・ウォーター社提供資料)
- ④ 医療ガス関連修理状況報告

3) 次年度の目標

- ① 年1回以上の委員会開催およびマニュアルの見直しを行う
- ② 医療ガスの安全と保守についての研修会開催
当面年2回程度、エア・ウォーター社による酸素ボンベの取扱い研修を検討する

(松川 周)

【情報委員会】

1) 構成メンバー

医 局	南家 俊介
医 療 情 報	高橋 秀作、小川 順
看 護 部	遠藤 彩美、菅原 由美子、伊藤 美香、池田 奈津美
医療技術部	森 千絵、富樫 雅哉、猪股 有耶加、石川 弘美

2) 活動報告

2023 年度は合計 10 回の情報委員会が開催された。

主な討議項目

- ① 院内電子掲示板（メディネージ）コンテンツの定期的な見直しと入れ替え
 - （ア）引き続きコロナ関連の注意喚起が多かった
- ② 院内電子ネットワークシステムの保守・点検
 - （ア）オンライン面会の環境整備
 - （イ）リモート会議の機器整備など
 - （ウ）故障端末等の交換・修理
 - （エ）ISDN 回線廃止に対応
 - （オ）各種ライセンス交換への対応
 - （カ）サイバーBCP の策定
 - （キ）情報セキュリティ規定の改定作業
 - （ク）医療費後払いサービスへの加入検討
 - （ケ）電子カルテシステムリプレイスに備えて情報収集開始
 - （コ）健診システムの更新
 - （サ）外来患者向け FreeWiFi アクセスポイントの整備
 - （シ）マイナカード対応

3) 次年度の目標

- ① ホームページ刷新の準備
- ② 院内ネットワークシステムの保守とセキュリティ対策
- ③ 電子カルテシステムリプレイスの準備

(南家 俊介)

【広報委員会】

1) 構成メンバー

副管理者	南家 俊介
地域連携室	佐藤 亜紀子
看護師	鈴木 萌花 (小松 琴美)、加藤愛斗
医療技術部	石森 靖朗
事務部	富田 学、小川 順

2) 活動報告

① 委員会開催日 令和5年6月～令和6年3月 計11回

② 刊行物

(ア) 広報くろかわ	4回/年 (行政事務組合発行)
(イ) みどり通信	4回/年 (地域住民向け)
(ウ) 緑風	2回/年 (医療機関向け)
(エ) 年報	6号 (2021年度)

③ ホームページ更新

育休日記の原稿依頼 (男性育休取得者全員)

協会全体での HP リニューアル計画への対応と準備

④ メディネージ更新

3) 今年特に行ったこと

(ア) 「年報の作成を引き継ぎ、広報委員会の年間スケジュールの中に組み込んだ。

(イ) 広報くろかわの原稿依頼について行政事務組合と交渉し年間計画を年度末までにもらうように改めた。これまでは締め切り直前の依頼が多く原稿依頼に難渋していた。

(ウ) HP の更新時期になり協会全体でまとまって発注するとのことでその準備を行った。対象読者の属性を意識した HP 構成を考えたい。

4) 次年度の目標

HP リニューアルへの対応

(南家 俊介)

【医療安全管理委員会】

1) 構成メンバー

委員長 大黒 なか子 看護部長兼外来師長、副委員長 佐々木 貴子 GRM、
医局 南家 副管理者、高橋 病院長、総務 山下 係長、医事 鈴木 課長補佐、
1病棟 佐々木 師長、2病棟 伊藤 師長、3病棟 和賀 師長、手術室 佐藤 主任、
訪問看護 鈴木 所長、石塚 師長、患者サポート室 石塚師長、
リハ室・通所リハ 千葉 室長代理、薬局 高橋 室長、放射線 石森 室長、
検査室 渡辺 室長、栄養室 小岩 室長、健康診断室 太田 係長

2) 活動報告

- ① 定例委員会開催(毎月 第3月曜日 16:30～ 開催) 12回/年実施
インシデントレポート報告
 - ・インシデント報告数 1143件 (昨年 1090件)、ヒヤリハット: 43% (昨年 46%)
 - ・アクシデント報告 (レベル 3b): 4件 (昨年度 5件)
 - ・インシデント検討会 (重要事例): 4件 (昨年度 5件)
- ② 医療安全全職員研修会 (年2回必須研修会)、アンケート調査実施
 - ・第1回 令和5年6月1日～6月30日
「心理的安全性①～④」 (セフティプラス動画研修) 281名/289名参加(99%)
 - ・第2回 令和6年3月4日 集合研修
「各部署の業務改善報告会」 講師:各部署のリスクマネージャー
集合研修: 100名参加、後追い動画研修: 185名 合計 285 (99%)
- ③ 医療安全院内研修
 - ・薬局出前講義: 外来、各病棟、手術室、訪問看護、リハビリ室 (7部署)
 - ・機器講習会: MRI、12誘導心電図、AED・除細動器、人工呼吸器の研修
 - ・麻薬管理研修会 8/7 職員全体
- ④ 医療安全マニュアルの全面改定、各部署配布
- ⑤ 医療安全管理室下部組織活動
 - (ア) BLS-AED チーム活動: 院内講習会参加: 13名、富谷の郷職員研修: 6名
 - (イ) 転倒転落予防チーム: 定期ラウンド1回/週、随時随時ラウンド
ラウンド延べ患者数: 65名 (インシデントレベル 3b 以上 2件)
出前講座: 「転倒転落予防対策」 富谷の郷 9/21 (14名), 船形の郷 10/5 (28名)

3) 次年度の目標

- ① インシデント報告数が 1200 件以上あり、ヒヤリハットの割合が 50% 上回る。
- ② アクシデントが起きた際の速やかな報告と対応ができる。
- ③ 医療安全活動を推進し、職員の医療安全文化の醸成を図る。

(佐々木 貴子)

【院内感染防止対策委員会】

1) メンバー

医局 : 委員長) 高橋 広喜 (病院長 ICD) 室長) 岩城 利充
看護部 : 大黒 なか子 (看護部長) 伊藤 公恵 (専任看護師)
及川 富士子 (外来) 數野 友紀 (訪問看護)
熊谷 佳子 (手術室) 高橋 舞 (1病棟看護師)
川上 香織 (2病棟看護師) 高橋 美和子 (3病棟看護師)
薬局 : 高橋 恵 (室長) 検査室 : 渡辺 峰人 (室長)
放射線室 : 渋谷 圭介 (主任) リハ室 : 千葉 淳子 (主任)
栄養室 : 小岩 陽子 (室長)
事務部 : 田波 (部長) 総務課 : 小鹿 友紀子
医事課 : 影山 淳一 (係長)

2) ICT チームメンバー

医師 : 高橋 広喜 岩城 利充 薬局 : 高橋 恵 検査室 : 渡辺 峰人
看護師 : 伊藤 公恵 及川 富士子

3) 活動報告

- ① 委員会 1回/月
- ② ICT メンバー会議 1回/月
- ③ 感染ラウンド 1回/週
- ④ 合同カンファレンス 4回/年 (新興感染症訓練あり)
- ⑤ 院内感染対策研修会 2回/年 全職員必須研修
第1回研修 : 薬剤耐性菌について 東北大学病院 北村 知穂先生
第2回研修 : 薬剤耐性菌を広げないコツ 東北大学病院 遠藤 春樹先生
- ⑥ 院内針刺し事故 (血液暴露事故) 3件/年
- ⑦ 院内感染発生 (新型コロナウイルス感染症) 1病棟 8月 3件 3月 10件
2病棟 10月 9件
3病棟 3月 1件
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症対策 5類以降段階的に緩和した
 - ・ 7月 10日より予約面会
 - ・ 12月 25日より予約なし 平日週 3回 (月水金)
 - ・ 2月 1日より平日週 2回 (月水のみ)

4) 次年度の目標

- ① 標準予防策の啓蒙を徹底し、手指衛生のタイミングを遵守する
- ② 感染症のアウトブレイクを起こさない
- ③ 手指衛生の使用量が前年度より増加する
- ④ 各種培養検査を適切なタイミングで採取することを促し、結果に応じた抗菌薬を適正に使用することで耐性菌の検出率低下に貢献する
- ⑤ 各デバイス使用の患者について必要性を確認し、早期抜去につなげるよう支援する

(伊藤 公恵)

【診療録/コーディング委員会】

1) 構成メンバー

委員長・医師 森下 城/南家 俊介 (9月から引き継ぎ)
薬剤師 高橋 秀紀
看護師 遠藤 彩美、伊藤 美香、菅原 由美子、池田 奈津美
診療情報管理士 小川 順

2) 活動報告

2023年度は7回の委員会が開催された。(他に数回の書面開催あり)

主な討議項目

① 適正な診療録の作成と管理について

(ア) 退院サマリーの作成状況の確認と作成依頼

1か月以内作成率90%を目標に管理

(イ) 手術記録の作成状況の確認と作成依頼

通年でほぼ100%を維持、ほとんど数日以内に作成完了している

(ウ) 旧紙カルテや各種文書の保管状況の確認と廃棄予定のチェック
文書の種類ごとに処理を決定し、保管または廃棄とした。

(エ) 紙カルテ運用について

BCP観点から非常時の紙カルテ運用体制の整備を検討する。

(オ) 付箋の管理について

付箋の乱立状態を解消するため、書式や色などの基準作成。

(カ) 患者フリーコメントの★マーク運用について統一基準の作成を検討
医療安全委員会に打診した

② 適正なコーディングについて

(ア) 詳細不明コーディングは、4・6%程度。規定水準10%はクリア

(イ) 2023年11月に11%まで増加、注意喚起と対策

脳梗塞病名が詳細不明になっていることが多く対策を検討。

③ クリニカルパスについて

昨年度に引き続き検討課題とし、診療情報管理の側面から運用状況の把握などの管理を行う。

④ 会議の開催回数について

診療録委員会は毎月開催。コーディング委員会はその中で年4回併催

3) 次年度の目標

- ① 詳細不明病名の削減に引き続き取り組む
- ② サマリーの作成状況のモニターを継続し、早期作成の啓蒙を行う
- ③ クリニカルパスの管理の検討
- ④ 紙カルテ・検査結果の定期的な破棄
- ⑤ 電子カルテの不具合など情報収集、精査を施行し、情報委員会と協議など。
- ⑥ BCP に基づくカルテ運用の検討

(南家 俊介)

【輸血委員会】

1) 構成メンバー

【委員長】相良 守峰 (医局)

【委員】渡辺 峰人 (検査室)

虎岩 憲吾 (薬剤室)、今井 奈菜実 (検査室)、伊藤 宏 (看護部)

岡田 留美 (看護部)、新津 佳代 (看護部)、本望 美和 (看護部)

和賀 明美 (病棟師長)、木村 千津 (事務部)

2) 活動報告

① 委員会開催 (計 8 回)

② 活動実績報告 (2023 年度)

輸血管理算定実績 : 66 件

輸血実績 : Ir-RBC-LR 287 単位

: Ir-PC-LR 240 単位

: Ir-PC-HLA-LR 0 単位

: アルブミン製剤 5% 87.5 g

25% 775 g

: グロブリン製剤 0 g

③ 主な活動内容と協議事項

- ・ 輸血マニュアルの改訂
- ・ 血液製剤の発注について 7 月より WEB 発注に変更
- ・ インシデント分析と対策について医療安全と協議

④ その他

副作用発生件数 3 件 インシデント件数 6 件

Ir-RBC-LR 廃棄件数 12 単位 (廃棄率 3.4%) 前年度 6 単位 (廃棄率 2.37%)

3) 次年度目標

① マニュアルの変更点について継続した協議の実施

② 血液製剤の適正使用に関する情報や、輸血時副作用報告、インシデント詳細について委員会内での共有

③ 認定看護師を中心とした研修会の開催を実施

(相良 守峰、渡辺 峰人)

【臨床検査適正化委員会】

1) 構成メンバー

【委員長】 相良 守峰 (医局)

【委員】 渡辺 峰人 (検査室)

虎岩 憲吾 (薬剤室)、今井 奈菜実 (検査室)、伊藤 宏 (看護部)

岡田 留美 (看護部)、新津 佳代 (看護部)、本望 美和 (看護部)

和賀 明美 (病棟師長)、木村 千津 (事務部)

2) 活動報告 (委員会開催) (計 8 回)

〈外部精度管理〉

① 日本臨床検査技師会精度管理の結果報告 (6 月に参加実施)

【評価】 A+B 評価 : 100.0%

C+D 評価 : 0.0%

② 宮城県臨床検査精度管理の結果報告 (10 月に参加実施)

【評価】 A+B 評価 : 99.1%

C+D 評価 : 0.9% (すべてフォトサーベイの対象問題)

③ その他の外部精度管理への参加

5 月 : コアプレスタサーベイ 血液凝固検査 (積水メディカル)

コレステストサーベイ 血清脂質検査 (積水メディカル)

WAKO サーベイ 生化学 35 項目、尿蛋白定量 (富士フイルム和光)

関東化学サーベイ 生化学 8 項目

6 月 : 日臨技臨床検査精度管理調査

HBA1c コントロールサーベイ (東ソ)

デタミナーサーベイ 生化学 9 項目 (ミナリスメディカル)

9 月 : イムノキャッチサーベイ 肺炎球菌¹³抗原尿定性検査 (栄研化学)

10 月 : KL-6、グリコ Alb コントロールサーベイ (積水メディカル)

11 月 : CK-MB サーベイ (シノテスト)

1 月 : QCS コントロールサーベイ 尿定性検査 (アークレイ)

2 月 : 免疫項目精度管理調査 CRP、RF、ASO 検査 (ニットポー)

④ インシデント件数 82 件

3) 次年度目標

① 検体検査精度管理 (内部、外部精度管理) のモニタリングと報告

② 検体採取法から検査結果までの精度管理を徹底する

③ 検体検査インシデントの結果から内容を分析する

(相良 守峰、渡辺 峰人)

【褥瘡対策委員会】

1) 褥瘡対策チーム構成メンバー

委員長 医師 芳賀泉、筒井美穂、綾香奈々

皮膚・排泄ケア認定看護師 佐々木 多恵子

看護師 1病棟 古澤牧子 2病棟 伊藤美香 3病棟 最知美香

訪問看護 阿部 さくら

介護福祉士 1病棟 尾形 和香子 2病棟 赤坂 優花 3病棟 木村麻美

理学療法士 菅原 一禎、須藤 香那恵 作業療法士 今井 卓馬

管理栄養士 小岩 陽子、新堂光 薬剤師 石川弘美 医事課 鈴木広明

2) 活動内容

① 委員会開催：毎月定例委員会開催（1回/月）12回開催

（4/13・5/11・6/8・7/13・8/10・9/14・10/12・11/9・12/14・1/11・2/8・3/7）

② 褥瘡対策マニュアル改訂

各項目を褥瘡対策チームで内容を再検討しマニュアルを改訂した

③ 褥瘡回診：毎週火曜日多職種での褥瘡ラウンド計53回実施

多職種（医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、介護福祉士）でカンファレンスをしながらの褥瘡ラウンド継続実施

④ 新人看護師研修

褥瘡予防・スキンケア（講師：佐々木多） おむつ交換・寝衣交換（講師：野村・結）

ポジショニング（講師：菅原）

シーティング（講師：今井）

3) コンサルテーション件数

① 皮膚・排泄ケア認定看護師 佐々木へのコンサル件数（褥瘡回診除く）

褥瘡：72件（病棟、外来含む）・スキン-ケア：11件・MDRPU：3件・IAD：15件

② PT 菅原への急性期包括ケア病棟ポジショニングコンサル依頼数114件

（定期ポジショニング数除く）

③ OT 今井へのシーティングコンサル依頼数5件

4) CST（コンチネンスサポートチーム）の活動

① 構成メンバー

野村竜矢、佐藤結、村上若、佐々木美智、赤坂優花、佐々木 多恵子

② 活動内容

定期ミーティング開催：奇数月第3木曜日計4回実施

6/16・7/13・9/14・3/14

6月近隣店舗での取扱いアイテム用紙作成

9月ユニ・チャーム業者よりメンバーへ商品リニューアル説明

メンバーからスタッフへ周知

3月吸収体験研修実施（各病棟3回）

5) その他

保有率・発生率（褥瘡・スキン-ケア・MDRPU・IAD）

① 褥瘡保有率：6.54%（前年比+4.2%）・褥瘡新規発生率：0.72%（前年比-0.12%）

② スキン-ケア保有率：1.13%（前年比+0.68%）・スキン-ケア新規発生率：0.66%（+0.32%）

③ MDRPU（医療機器圧迫創傷）保有率：0.34%（前年比-0.22%）・MDRPU新規発生率：0.28%（前年比0.14%）

④ IAD（失禁関連皮膚障害）保有率：1.23%（前年比0.06%）・IAD新規発生率：0.78%（前年比0.14%）

6) 次年度の目標

院内新規褥瘡、スキン-ケア、IAD、MDRPU発生率を0.6%未満にする

（芳賀 泉、佐々木 多恵子）

【栄養委員会】

1) 構成メンバー

委員長 筒井 美穂 (医局)

医 局 綾香 奈々

看護部 佐々木 多恵子、古澤 牧子、伊藤 美香、最知 美香
阿部 さくら、本望 美和

医療技術部 石川 弘美 (薬剤室)、加藤 依子 (リハ室)、小岩 陽子 (栄養室)
新堂 光 (栄養室)、三塚 彩 (グリーンハウス)

2) 活動報告

計 12 回の委員会を開催

(4/13・5/11・6/8・7/13・8/10・9/14・10/12・11/9・12/14・1/11・2/8・3/14)

<主な議題>

- ① 食数、加重平均所要量、栄養指導件数報告
- ② 嗜好調査結果について (7月・10月・2月実施)
- ③ 2022年度の給与栄養目標量と実績の比較
目標値に近い値に改善している。成分表改定により栄養量が低くなる可能性があるため注意してみていく。
- ④ 約束食事箋改定について
- ⑤ 業務整理について
 - ・きざみ対応 3種類→2種類へ
 - ・串刺しの廃止
 - ・緊急入院の食事内容の見直し、時間外変更の対応の簡略化。
- ⑥ 栄養指導について
 - ・栄養指導のフローチャート作成
 - ・栄養指導予約入力のマニュアル作成
- ⑦ インシデント対策について
時間外の入力について連絡の徹底を周知

3) 次年度の目標

引き続き、病棟ラウンドやカンファレンスに参加し栄養状態の向上に努める。業務を整理し持続可能な安心・安全な食事提供に努める。

(小岩 陽子)

【薬事委員会】

1) 構成メンバー

医局 松尾 英史 委員長、医局全員
事務部 阿部 敏彦 事務部長、田波 雄大 事務部長
薬剤室 高橋 恵 室長、主任 佐藤 (11月まで)

2) 活動報告

① 管理診療会議終了後、定例委員会の開催

令和5年. 4/24、5/22、6/26、7/24、8/28、9/25、10/23、11/27、12/25

令和6年. 1/22、2/26、3/25 合計 12回

② 委員会内容

(ア) 新規採用薬品等審議

(イ) 削除薬品、採用変更、採用統一薬品等審議

(ウ) 既存薬品についての情報紹介

(エ) 規格変更、販売移管、再在庫、自主回収、品薄、販売中止、
採用規格追加希望連絡

(オ) 薬価基準経過措置期間、欠品、一時供給停止等 新発売薬品情報

(カ) 後発医薬品への切り替えに関する審議

(キ) 使用期限切迫品のお知らせ

(ク) 各種薬剤情報

「効能・効果」「用法・用量」の追加や一部改訂、適正使用に関するお願い
使用上の注意改訂 等

3) 次年度の目標

- ・院内各部署へ各種薬品情報の提供
- ・新規採用薬品等の勉強会の企画、開催調整
- ・採用薬品数減少へ取り組む

(佐藤 暢)

【医療機器・材料選定委員会】

1) 構成メンバー

医局 角田 浩、南家 俊介、高橋 広樹、田中 正彦、芳賀 泉、田口 勝行、
相良 守峰、岩城 利充
看護部 佐藤 カナコ
事務部 田波 雄大、富田 学、海老名 勇介

2) 活動報告

黒川地域行政事務組合に依頼する更新希望医療機器・設備の選定

主な討議事項と結論

- ① 令和5年度、医療機器・設備更新依頼状況について
- ② 令和6年度、部署更新要望機器等より医療機器・設備機器の選定

3) 次年度の目標

令和7年度更新、医療機器の機種選定・導入時期についての検討

(海老名 勇介)

【院内研修委員会】

1) 構成メンバー

委員長 医 局 綾香 奈々
看護部 市川 文枝
医療技術部 天江 瑞紀、小鹿 淳史、山崎 晃平
事務部 若生 真由美

2) 活動報告

「職員の業務・技術・協働関係の向上」を推進する委員会として、今年度は下記2つの取り組みを行いました。

① 部門紹介

職員全体会議の場を利用し、各部署による部門紹介を現在進行形で行ってもらっています。多職種連携の基盤となる「相互理解」が目的です。2月から開始したばかりですが、他の職種について知る重要な機会だと感じています。

② 学会発表会

COVID-19 の流行をきっかけに開催が中断となっていた学会発表会を、院内研修委員会の主催で再開としました。3月8日に学会発表会を開催し、「外傷後の爪甲剥離に関連した母趾変形爪予防に対する人工爪形成の有効性の検討(佐久間 Ns)」

「新人・先輩看護師双方の視点からみた新人看護師の看護技術習得支援の検討(斎藤 Ns・長尾 Ns)」 「多職種が参加する研修会開催に向けた院内研修委員会の取り組み

～Interprofessional Work の推進を目指して～ (大塚 PT)」の3つの演題の発表がありました。黒川病院が舞台となった学術活動について院内で共有してもらうことで、他のスタッフの意識の向上にもつながったと考えます。

3) 次年度に向けて

来年度以降も「職員の業務・技術・協働関係の向上」を目標に、上記2つの取り組みを中心に、継続的に活動していきます。

(綾香 奈々)

【認知症ケア委員会】

1) 構成メンバー

医師) 委員長 松尾 英史

事務) 荒川 志津

看護部) 和賀 明美、鏡 哲也、林 栄子、佐藤 紗菜、田代 桃子、鈴木 聖也

薬剤部) 佐藤 暢

リハビリ) 今井 卓馬

2) 活動報告

毎月定例会を開催 第4火曜日 17:00～

- ① 認知症ケアカンファレンス内容の状況把握と共有
- ② 認知症を有する患者の、入院中の対応に苦慮しているケースの共有
- ③ 認知症ケア加算取得状況の確認
- ④ 認知症対応力向上研修修了者からの伝達講習及び意見交換
- ⑤ 認知症ケア研修会の企画

3) 年間認知症ケア算定件数状況

年度	2021年度	2022年度	2023年度
加算取得件数	142件	390件	674件

3) 次年度の目標

- ① 認知症ケア及びカンファレンス内容の質向上のための院内研修及び事例検討の実施
- ② 認知症ケア加算取得者数の維持、向上
- ③ 身体拘束率の把握
- ④ カンファレンス記録の監査、カンファレンス実施状況の把握

(和賀 明美)

【排尿ケア委員会】

1) 構成メンバー

委員長：田口 勝行

委員：佐々木 多恵子、池田 奈津美、松田 育、石岡 百合子、斉藤 真弓、長島 こずえ、
渡邊 大樹、菅原 由美子、高橋 舞、管原 一禎、金嶋 珠美、荒川 志津

2) 活動報告

① 排尿ケアに関する院内研修、アンケート調査の実施

(ア) 内容：①活動実績報告

②排尿自立指導計画書について

③排尿ケア介入フローについて

④症例報告

⑤自己導尿の動画・説明

(イ) 日時：令和5年12月5日 17:00～17:45

(ウ) 対象：看護師、リハビリスタッフ、介護福祉士

(エ) 後追い研修期間：令和5年12月11日～令和6年1月3日

(オ) 参加人数 159名/159名、参加率：100%

② 排尿ケア委員会活動

(ア) 排尿ケア委員会マニュアルの見直し（2023年度改定）

(イ) 排尿ケアの周知

(ウ) 定期ミーティング 1回/月 開催（第1火曜日、17時から）

開催日：6/6、7/4、8/1、9/5、10/3、11/7、12/5、1/9、2/6、3/5、4/2、5/7

計12回開催

(エ) 排尿ケアラウンド 1～2回/週 火曜日（不定期：木曜日等）

・年間ラウンド患者数約 114名

・ラウンドのべ回数約 228回 算定数196件、非算定数32件

(オ) 尿道留置カテーテル患者数、平均留置日数、平均留置患者率調査

(カ) 委員会内勉強会

排尿に関する基礎知識

3) 2024年度の活動課題

① 定期排尿ケアラウンドの継続

② 排尿ケアチームと病棟スタッフの連携強化

③ 排尿ケアを必要とする患者抽出を病棟看護師が積極的に行えるようになる

④ 統一した排尿ケアの計画と実施が行えるようになる

(田口 勝行、池田 奈津美)

【衛生委員会】

1) 構成メンバー

委員長	高橋 広喜 (病院長)
産業医	川住 幸子 (医師 [仙台かわすみ産業医事務所])
衛生管理者	筒井 美穂 (医師)、松本 翔子 (医師)
労働者	鈴木 広明 (事務)、太田 忍 (健診)、 小鹿 友妃子 (事務)、富田 学 (事務)

2) 活動報告

2023 年度は毎月 1 回開催した。6 月からの新年度メンバー更新に併せて外部より川住産業医を迎え入れ体制強化を図った。

<主な活動内容>

- ① ストレスチェックの実施
 - 10 月ストレスチェック実施
 - 12 月ストレスチェック集団分析実施
 - ・ 集団分析結果を病院側へ報告
 - ・ 実施率は 75.9% (対象者 245 名、実施者 186 名) であった。前年比 0.1% 向上した。
- ② 特定保健指導の希望調査対応
 - (ア) 特定保健指導対象者への案内
 - (イ) 特定保健指導勧奨
- ③ 健診結果異常者への面談の実施検討
 - 今年度健診結果を元に川住産業医に選定いただいた職員を対象に面談機会を設定し、就業上の意見をいただくこととした。
- ④ 職場巡回の実施

3) 次年度の目標

- ① ストレスチェック実施
- ② 特定保健指導勧奨
- ③ 院内巡回実施
- ④ 健診結果異常者への面談実施
- ⑤ その他

(富田 学)

【リスクマネージャー会議】

1) 構成メンバー

委員長 GRM 佐々木 貴子 、メンバー リスクマネージャー 13名
1病棟 猪股佳子、2病棟 北條智、3病棟 佐々木翠、外来 関谷久美子、
手術室 佐藤カナコ、訪看 岡田幸恵、通所 阿部千種、鶉橋陵子、リハビリ 猪股伸彦、
薬局 高橋秀紀、健診 阿部幸恵、放射線 天江瑞紀、検査 今井奈菜実、栄養 産休中
他、リンクナース（リスクマネージャーの補助）4名

2) 活動報告

- ① 定例リスクマネージャー会議 毎月1回（12回）実施
- ② 医療安全点検の日 毎月1日 「医療安全、器機点検表」実施
- ③ タイムアウトポスター作成 毎月10日提出
時刻とタイムアウトの内容をポスターにし各部署で実践、前月の報告書を提出
- ④ 医療安全活動の実施と報告
 - ・医療安全月間（11月）；5S、川柳、タイムアウトポスター、ありがとうカード作成
 - ・ダブルチェックの勉強会。業務改善に共通テーマ「ダブルチェックの見直しと構築」を設定し、実施した
 - ・薬剤勉強会開催：看護部、リハビリ室に薬剤師の出前講義実施。
- ⑤ 各部署の医療安全報告会「業務改善」（対面発表、後追い動画聴講）
2024年3月4日 各部署の業務改善報告会：100名参加
後追い研修：185名（委託職員含め） 合計受講：285名、99%
- ⑥ 医療安全研修
 - ・医療安全管理者研修と交流会：8月4、5日、二日間
場所：宮城県看護協会、参加者：佐々木 GRM、岩井 RM

3) 令和6年度の活動目標

- ① リスクマネージャーを中心とした医療安全活動の推進を図る
 - ・インシデントカンファレンスを開催する（目標：1回/1、2週間）
 - ・タイムアウトを毎月設定し活用する（時間設定必須）
 - ・ヒヤリハットの報告数が50%達成する
- ② 部署ごとに業務改善計画を立案、実施し、年度末に発表、報告とする
- ③ 医療安全の質の向上を図る
 - (ア) 院内の医療安全研修を年2回以上開催する
 - (イ) 多職種で医療安全について意見交換する場を持つ

(佐々木 貴子)

【業務改善部会】

1) 構成メンバー

委員長： 高橋 広喜

副委員長： 上原 周悟

看護部： 高橋 綾子（1病棟）、田村 久美子（2病棟）、谷 みはる（3病棟）、
村上 早紀（外来）

医療技術部： 伊藤 麻美（薬剤室）、村上 克徳（リハビリ）

事務部： 今野 千春、伊藤 彩

オブザーバー： 佐々木 貴子

2) 令和5年度の目標

- ① 各部署の業務内容と委員会の活動内容を明確にする
- ② 早期解決に向け直接対応依頼ができる体制の構築

3) 活動報告

① 委員会開催

月1回、第3金曜日に開催 計12回

② 活動内容

(ア) 職員からの業務問題点の抽出と整理。

(イ) 改善策の検討、各部署間の調整、管理部門への報告、院内への周知、実行。

(ウ) 院内ルール等について病棟間での統一、共通業務のマニュアル化、現存するマニュアルの改訂について、各委員会のマニュアル確認作業を行った。次年度以降も引き続き整理していく事となった。

(村上 克徳)

【化学療法安全委員会】

1) 構成メンバー

委員長 芳賀 泉
医局 松本 翔子
看護部 村松 礼子、村上 早紀（外来）
長尾 友美（1病棟）、岩井 寿子（2病棟）
医療技術部 佐藤 暢、伊藤 麻実（薬局）、森 千絵（臨床検査室）、
渡邊 武史（リハ室）

2) 今年度の目標

安全な化学療法の実施に向けて、レジメン、マニュアルを見直す

3) 活動報告

① 委員会開催

計6回（7/27、9/28、11/16、1/25、3/28、5/23）

② 化学療法件数（2023年5月～2023年4月）

外来化学療法 50件 インシデント件数 0件
入院 2病棟 0件 1病棟 0件 インシデント件数 0件

③ がんリハ件数 18件

④ 活動内容

- (ア) CVポート使用時のマニュアル改訂
- (イ) 化学療法投与マニュアルの改訂
- (ウ) 抗腫瘍薬の変更に伴うレジメンの修正
- (エ) 化学療法の記録方法の統一化
- (オ) 48時間持続ポンプ患者用説明書および看護師用マニュアルの改訂

4) 次年度の目標

- ① 安全な化学療法の実施に向けたマニュアル修正を継続
(CVポート使用時、48時間持続ポンプ使用時、がんリハについて 等)
- ② 抗腫瘍薬の変更に伴うレジメンの修正
- ③ 化学療法に関連した勉強会の実施

(芳賀 泉)

【クリニカルパス委員会】

1) 構成メンバー

委員長 和賀 明美（看護部）

医 局 上原 周悟

看護部 伊藤 宏、石井 美穂、佐久間 ともみ、北條 智

2) 活動報告

毎月定例会を開催 毎月第1金曜日 17時～

- ① 各看護介入セットの新規作成と既存介入セットの項目追加及び修正
- ② PSG入院予約の運用修正と周知
- ③ 既存のクリニカルパスの内容改定
- ④ 電子カルテ操作チェックリストの修正及び、指導マニュアルの整備
- ⑤ 新規クリニカルパスの作成

○クリニカルパス運用実績	2022年度	2023年度
・PSG	34件	21件
・前立腺生検	13件	25件
・TUR-Bt	2件	2件
・TUR-P	0件	0件
・膀胱水圧拡張術	-	1件
・精巣摘出術	0件	0件
・人工妊娠中絶術	0件	0件
・子宮内膜搔爬術	1件	2件
・鼠径ヘルニア	28件	24件

3) 次年度の目標

次年度も引き続き、医師、栄養、リハビリ分野も含めた治療や看護の標準化や最適化を目指します。標準化により、各職種の業務効率の向上、更には患者に対して充実した看護を提供する一助となるよう、新規クリニカルパスの作成及び使用の推進、定期的見直し、運用管理を行って行きます。

(和賀 明美)

【保険診療委員会】

1) 構成メンバー

(委員長) 鈴木 広明

(医 局) 南家 俊介

(看護部) 伊藤 公恵、石塚 玲子、鈴木 文枝

(医療技術部) 小岩 陽子、千葉 美玲、森 千絵、渋谷 圭介、高橋 秀紀

(事務部) 高橋 秀作、影山 淳一、小川 順

2) 今年度の目標

- ・診療報酬改定等に対応し診療報酬算定に必要な条件を確認し周知することによって収益を改善する。

3) 活動報告

- ・計7回開催

○主な活動内容

- ・診療報酬改定の主な変更点の確認
- ・看護必要度の分析
- ・施設基準の届出（新規・変更・辞退）の共有

(鈴木 広明)

【退院調整委員会】

1) 構成メンバー

委員長 角田 浩

看護部：佐々木 多恵子、伊藤 公恵、和賀 明美、鈴木 文枝、影山 友里恵

地域連携室：佐藤 亜紀子 医療社会事業課：赤間 弘治、佐山 悠樹、日吉 美沙樹

栄養室：小岩 陽子 リハビリ室：千葉 美鈴 医事課：鈴木 広明、影山 淳一

2) 活動報告

回数	開催日	会議内容
第1回	6月15日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 総合機能評価加算について、病棟カンファレンスについて 医療介護連携カードについて 退院支援記録の書き方について
第2回	7月20日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 黒川連携の会開催について
第3回	8月17日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 退院支援マニュアルについて
第4回	9月21日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 入退院支援部門業務分掌についてについて 訪問系在宅部門新規受け入れについて
第5回	11月16日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 退院支援同意書、退院時協働指導料について
第6回	12月21日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 退院支援に関する研修会について 退院支援マニュアルの変更について
第7回	1月18日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 新規訪問診療窓口変更について
第8回	2月15日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 退院支援マニュアルの変更について
第9回	3月21日(木)	算定実績報告（退院支援加算、介護支援連携指導料） 4月以降のメンバーについて

3) 次年度の目標

- ・診療報酬改定に合わせたマニュアルの修正を行う

(佐藤 亜紀子)

【医療従事者の負担軽減委員会】

1) 構成メンバー

委員長	富田 学 (事務)
副委員長	小鹿 友妃子 (事務)
医 局	南家 俊介 (副管理者)
看護部	伊藤 公恵、石塚 玲子、鈴木 文枝
医療技術部	小岩 陽子、佐藤 暢、千葉 美玲、富樫 雅哉、森 千絵
事務部	宮澤 玲子、伊藤 彩
オブザーバー	角田 浩 (管理者)、大黒 なか子 (看護部長)

2) 活動報告

タスクシフトや労働時間管理などを通じ、医療従事者の負担軽減計画を立て評価することを目的としている。

<主な活動内容>

2023 年度は合計 4 回開催した。

- ① 6 月…各部門における前年度の負担軽減計画の評価
- ② 9 月…各部門の取り組み状況等定例報告
- ③ 12 月…各部門における翌年度の負担軽減計画の素案作成
- ④ 3 月…各部門計画の承認 [管理者出席]

3) 次年度の目標

時間外労働の削減、有給休暇取得率向上などをはじめ病院全職員の業務の負担軽減策を策定実施し、少しでも働きやすい職場環境を実現することを目標としたい。

(富田 学)

VII. 統計資料

1. 経営状況

1) 病院会計収支状況

(単位：千円)

科目	年度	R 4 年 度	R 5 年 度	差 額
I 事業収益		2,698,834	2,760,508	61,674
1) 入院収益		1,502,525	1,610,268	107,743
2) 室料収益		14,906	16,509	1,603
3) 外来収益		923,604	889,630	▲33,974
4) 介護収益		120,965	128,139	7,174
5) 保健予防収益		109,795	110,004	209
6) その他収益		7,267	6,891	▲376
7) 児童社会福祉収益		10,443	10,434	▲9
8) 保険等査定減		1,391	933	▲458
II 事業費用		3,008,813	3,017,388	8,575
1) 給与費		1,708,944	1,752,724	43,780
2) 材料費		639,623	595,767	▲43,856
3) 委託費		208,724	214,286	5,562
4) 設備関係費		172,830	173,186	356
5) 経費		278,692	223,701	▲54,991
III 事業収支 (I - II)		▲ 309,979	▲256,879	53,100
IV 事業外収益		123,876	111,911	▲11,965
V 事業外費用		11,751	10,520	▲1,231
VII 経常利益 (III + IV - V)		▲ 197,854	▲155,489	42,365
VIII 臨時収益		0	0	0
IX 臨時費用		3,030	14	▲3,016
X 当期利益 (VII + VIII - IX)		▲ 200,884	▲155,503	45,381

(富田 学)

2. 診療状況

1) 診療科別患者延数

	入院延患者数	外来延患者数
内 科	31,473	29,653
小 児 科	0	2,225
外 科	1,523	6,905
整 形 外 科	10,102	4,518
婦 人 科	2	1,611
眼 科	0	1,492
耳 鼻 科	0	1,325
泌 尿 器 科	57	4,342
皮 膚 科	0	1,392
計	43,157	53,463
1 日 平 均	117.9	182.5

2) 地域別患者数

	入院延患者数	外来延患者数
大 和 町	14,327	22,723
富 谷 市	3,734	6,839
大 郷 町	5,099	7,150
大 衡 村	4,499	6,839
黒 川 郡 外	15,255	9,437
宮 城 県 外	243	475
計	43,157	53,463

3) 救急来院、救急車搬送・入院患者数

	令和5年度
救 急 車 搬 送 数	465
(再掲) 上記のうち入院数	(251)
救 急 来 院 (直 来)	487
合 計	952

(鈴木 広明)

3. 健診統計

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
健康診断	4,855	3,835	4,209	4,038	4,177
特定健診	104	154	83	79	59
人間トック	269	220	249	258	282
脳検診	173	126	100	118	106
乳がん検診	569	487	567	572	623
子宮がん検診	566	504	563	577	625
合計	6,536	5,326	5,771	5,642	5,872

(太田 忍)

4. 医療機器整備一覧

1) 行政事務組合購入分

機器名	メーカー名	台数	納入年月日	耐用年数	保管先
連動昇降式平行棒	ミナト医科学	1	令和5年9月	6年	リハビリ室
下部消化管ビデオスコープ	オリンパス	1	令和5年9月	5年	内視鏡室
X線一般撮影装置	島津製作所	1	令和5年9月	6年	放射線室
回診用X線撮影装置	島津製作所	1	令和5年9月	4年	放射線室
超音波診断装置	キャノンメディカル	1	令和5年9月	6年	外科外来
心電計	フクダ電子	1	令和5年9月	6年	検査室
ベッドパンウォッシャー	パラマウントベッド	1	令和5年12月	8年	病棟
卓上型高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機	1	令和5年12月	6年	手術室
ベッド及びマットレス	パラマウントベッド	1	令和5年12月	6年	病棟

2) 公立黒川病院購入分

① 医療機器

機器名	メーカー名	台数	納入年月日	耐用年数	設置先
運動負荷検査システム	ネクスィス	1	令和5年4月	6年	リハビリ室
自動体外除細動器 (AED)	日本光電工業	1	令和5年8月	6年	リハビリ室
医療用空気清浄機①	シャープ	1	令和5年9月	6年	救急外来
医療用空気清浄機②	シャープ	1	令和5年9月	6年	救急外来
上腕骨顆上骨折用ホルダー	竹内製作所	1	令和5年11月	6年	手術室
自動血圧計	フクダコーリン	1	令和6年2月	6年	病棟

② 工具備品器具

備品名	メーカー名	台数	納入年月日	耐用年数	設置先
Plissimo 画像サーバーシステム	コニカミノルタ	1	令和5年6月	5年	システム
カラープリンター	リコージャパン	1	令和5年10月	5年	栄養室

(富田 学)

VIII. 研究学術業績

1. 論文

提出なし

2. 講演・発表

1) 学会発表

●2023年7月9日

「爪下血腫後の爪甲剥離に関連した変形爪予防に対する人工爪形成の有効性について」
佐久間ともみ（2病棟看護師） 第32階日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

●2023年10月8日

「病棟看護師が外来&地域へ出向く～医療ネイリスト活動～」
佐久間ともみ（2病棟看護師） 第15回JADECUM学術集会

●2023年11月4日

「回復期リハビリテーション病棟における福祉ネイルとの気分に与える影響の検討～唾液
アミラーゼ・POMS2を用いて～」
佐久間ともみ（2病棟看護師） 日本保健福祉ネイリスト協会第4回研究集会※学会賞受賞

●2023年12月22日

「外傷後の爪甲剥離に関連した母趾変形爪予防に対する人工爪形成の有効性の検討」
佐久間ともみ（2病棟看護師） 第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会

2) 講演等

●2024年2月1日

「爪難民を救え（爪の悩みが解決すると、靴が履けて外出もできるんです!）」
佐久間ともみ（2病棟看護師） 黒川連携の会 大和町役場

Ⅸ. 臨床教育

1) 医局（早期医療体験実習）

養成校・施設名	人数	延日数
東 北 大 学	4	8

2) 看護部（病棟および在宅実習併用）

養成校・施設名	人数	延日数
東 北 福 祉 大 学	52	347
宮 城 大 学	18	86
東 北 文 化 学 園 大 学	27	225
東 北 福 祉 看 護 学 校	12	34
仙 台 青 葉 短 期 大 学	6	18

3) 医療技術部（リハビリテーション室）

職種	養成校	人数	延日数
理学療法士	東北福祉大学	9	80
	仙台リハビリテーション専門学校	3	97
	仙台青葉学院短期大学	1	14
	山形県立保健医療大学	1	40
	東北文化学園大学	2	79
	仙台医健スポーツ専門学校	1	33
作業療法士	東北福祉大学	3	50
	仙台青葉学院短期大学	2	10
	東北文化学園大学	1	47
	東北保健医療専門学校	3	3
	仙台リハビリテーション専門学校	1	44

4) 医療社会事業課（相談援助実習）

養成校	人数	延日数
仙台白百合女子大学	2	32

5) 事務部（医事業務実習）

養成校	人数	延日数
仙台医療秘書福祉専門学校	2	28

6) 消防（救命救急士再研修）

部門	人数	延日数
黒川消防署	3	18
宮城消防学校	5	10

(富田 学)

X. 地域貢献

1. 糖尿病教室

1) 構成メンバー

医師	筒井 美穂
理学療法士	村上 克徳
管理栄養士	小岩 陽子、新堂 光
薬剤師	虎岩 憲吾
臨床検査技師	今井 奈菜実

2) 活動報告

黒川地域は宮城県内でも糖尿病患者が非常に多い状況です。健康長寿を伸ばすためには血糖コントロールの重要性も高まっております。当院では以前より糖尿病教室を開催していましたが、感染症予防対策の観点から今年度は中止しております。そこで引き続き糖尿病についての知識の普及と啓発を目的とし「糖尿病たより」を発行しています。医師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、検査技師の専門分野から分かりやすく糖尿病について毎回趣向をこらして解説しています。院内待合室や健診室にて配布を行っています。

○糖尿病たより

回数	日時	主な内容	
第1回	令和5年春号	内科外来から（筒井） 運動療法について（村上）	栄養療法について（佐山） 薬について（伊藤）
第2回	令和5年夏号	内科外来から（筒井） 運動療法について（村上）	栄養療法について（小岩） 足白癬について（今井）
第3回	令和5年秋号	内科外来から（筒井） 運動療法について（村上）	栄養療法について（新堂） シックデイについて（虎岩）
第4回	令和5年冬号	内科外来から（筒井） 運動療法について（村上）	栄養療法について（新堂） 災害時について（小岩）

3) 次年度の目標

- ・院内外に向けて、糖尿病教室開催の検討をする。
- ・くろかわ HbA1c 改善チームと共同して、院内や地域に向けて情報発信をしていく。

（小岩 陽子）

2. 医師・職員派遣

1) 医師派遣

	代診施設名	代診診療科	勤務日数	備考
1	七ヶ宿町国民健康保険診療所	内科	12	
2	六ヶ所村医療センター	内科	6	
3	介護老人保健施設 富谷の郷	内科	34	(待機)
4	女川町地域医療センター	内科	4	
5	ゆうファミリークリニック	内科	33	
6	黒川高校	内科	3	(健診)
7	大崎市民病院	小児科	21.5	
8	大崎市民病院鳴子分院	小児科	6	

2) 職員派遣

	派遣施設名	職種	日数	備考
1	黒川高校	看護師	3	(健診)
2	芳珠記念病院	看護師	25	
3	六ヶ所村医療センター	作業療法士	41	

(富田 学)

3. 福祉ネイル・爪ケア外来

1) 構成メンバー

佐久間 ともみ (看護師／福祉ネイリスト／医療フットケアスペシャリスト)
佐藤 紗菜 (看護師)
上原 周悟 (医師)
角田 浩 (医師)

2) 活動報告

① 福祉ネイル

福祉ネイルは、爪を美しくするだけではなく、ネイルの動作によって自然に行われるスキニップや会話により、生活に笑顔や彩りを添え、穏やかな気分や **well-being** を導く事を目的としています。マニキュア塗布の他に、ハンドトリートメントや爪磨き等のメニューもあり、男性患者さん、ターミナル期の患者さんにも特別な時間をお届けします。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、院内での定期的な開催は見送りましたが、希望の患者さんには個別にて施術を行いました。通常は 15～30 分/回で行いますが、ネイルシール等を使用した 5 分間の短縮版を考案し、入院中に誕生日を迎える方やターミナルケアの方へ施術を行いました。

② 爪ケア外来

2021年8月より爪ケア外来を開設しました。巻き爪や肥厚爪、外傷にて剥がれてしまった爪等、爪の悩み全般に応えるべく、フットケアとネイルの技術を学んだ看護師が医師と連携し行っています。爪切りや人工爪形成、靴の履き方のアドバイス等、その患者さんの状況に合わせてケアを行います。今年度は施設へ訪問し、施設職員への技術指導も行いました。

3) 実績

① 爪ケア外来：第1、3金曜日に外来開設

爪甲切除（麻酔を使用しないもの）60点、胼胝鶏眼処置 170点 算定
2023年4月～2024年3月まで のべ患者数 250名（前年比+30名）

② 学会・講演等

- 1) 2023年7月 第32階日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
「爪下血腫後の爪甲剥離に関連した
変形爪予防に対する人工爪形成の有効性について」

- 2) 2023年10月 第15回 JADEC COM 学術集会
「病棟看護師が外来&地域へ出向く～医療ネイリスト活動～」
- 3) 2023年11月 日本保健福祉ネイリスト協会第4回研究集会
「回復期リハビリテーション病棟における福祉ネイルとの気分を与える影響の検討
～唾液アミラーゼ・POMS2 を用いて～」 ※学会賞受賞
- 4) 2023年12月 第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会
「外傷後の爪甲剥離に関連した母趾変形爪予防に対する人工爪形成の有効性の検討」
- 5) 2024年2月 黒川連携の会
「爪難民を救え（爪の悩みが解決すると、靴が履けて外出もできるんです!）」
- 6) 2024年3月 社会福祉法人 永楽会 七峰荘にて講座
「爪難民を救え！爪ケア講習」

4) 次年度の目標

- ① コロナ禍で安全にできる福祉ネイル開催方法の検討と実践
- ② 爪ケア外来の周知、規模拡大、スタッフの育成
- ③ 学会発表、地域施設への講座

(佐久間 ともみ)

4. 小児科の地域貢献

1) 構成メンバー

小児科： 岩城 利充

医療ソーシャルワーカー： 赤間 弘治

2) 活動実績（ZOOMでのオンライン開催）

医教連携の勉強会、ケーススタディ：

対象者（保育士、幼稚園教諭、小・中学校、高校教諭、保健師など）

① 黒川地区 医・保・幼・教 養育学習懇談会

（発達障害、行動異常を呈する児童、生徒の理解と対応のためのケーススタディ）

（5/20、7/29、9/30）計6回開催

② 栗原地区 医教連携の会（発達障害、行動異常を呈する児童、生徒の理解と対応のためのケーススタディ）

（4/28、5/19、6/30、7/28、8/25、9/29、10/20、11/24、12/14、1/19、2/9、3/29）

計12回開催

③ 教師と共催の一迫地区 医教連携の会（発達障害、行動異常を呈する児童、生徒の理解と対応のためのケーススタディ）

（4/21、6/23、7/21、8/18、9/15、10/13、11/17、12/15、1/26）

計7回開催

3) 学校医活動（大和町立小野小学校、鶴巣小学校、宮城県立利府支援学校富谷校）

活動内容：①健康診断（計6回）、②保健安全委員会（計4回）

4) 学校での研修会 実績

① 富谷市立東向陽台小学校 5/25

・講義：発達障害について、発達検査について

② 一迫商業高等学校（9/29、1/19） 計2回

・講義：進路を見据えて

5) 保護者懇談会

富谷市立東向陽台小学校 6/29

6) 大和町教育支援委員会

就学児の検討 9/25

7) 講演、研修

- ① 医療連携スペシャルセミナー 12/9
- ② NPO 子どもの村東北講演 3/10

8) シンポジウム

- 第 15 回虐待防止県北シンポジウム開催 11/23

(岩城 利充)

5. 出前講座

	所属	実施日	場所	講師	内容
1	看護部	6月8日	まほろばの里大和	伊藤 公恵、大黒 なか子	感染対策
2	看護部	6月22日	まほろばの里大和	伊藤 公恵、大黒 なか子	感染対策
3	看護部	6月23日	富谷の郷	石塚 玲子、大黒 なか子	接遇
4	看護部	7月20日	富谷の郷	伊藤 公恵	感染対策
5	看護部	9月21日	富谷の郷	佐々木 貴子	医療安全講和
6	看護部	9月21日	船形の郷	伊藤 公恵	感染対策講和
7	看護部	10月5日	船形の郷	佐々木 貴子、村上 克典	医療安全転倒転落対策
8	看護部	10月19日	リーブス	石塚 玲子、大黒 なか子	接遇
9	看護部	12月21日	リーブス	佐々木 多恵子	スキンケア、褥瘡対策

(富田 学)

6. 黒川連携の会

1) 役員及び世話人

会長	角田 浩	公立黒川病院
看護代表世話人	佐藤 亜紀子	公立黒川病院
リハビリ代表世話人	齋藤 康子	公立黒川病院
リハビリ世話人	山口 倫生	公立黒川病院
事務局	赤間 弘治	公立黒川病院
事務局	佐山 悠樹	公立黒川病院
事務局	菅原 欣久	(富谷の郷からの出向)
世話人	早坂 まゆみ	大和町福祉課
世話人	寺本 友梨	大和町福祉課
世話人	横田 修人	大和町福祉課
世話人	熊谷 由美	大和町地域包括支援センター
世話人	伊藤 直子	大和町地域包括支援センター

2) 活動内容・特色

平成 23 年から始まった「黒川連携の会」は黒川地区における、医療と介護の資源が手を取り合い、黒川地区の住民が安心して生活できる環境を整備することを会の目的とし、医療・介護・福祉の関係者が真に顔の見える環境を整備していくことを活動の主体にしています。参加者は、医師、保健師、看護師、相談員、ケアマネージャー、介護保険施設などです。

暫く、コロナ禍のため開催を見送ってきましたが、今年度は実施方法を検討して開催しました。1 回目は、ハイブリットで開催し、黒川地区の管理栄養士の方々から講演して頂き、参加者からの質問に対してオンラインで回答するという形式をとりました。2 回目は、コロナも 5 類に移行し感染対策も十分講じられてきたため完全対面で開催し、公立黒川病院の佐久間ともみ看護師と佐藤紗菜看護師によるデモンストレーションを行い、爪ケア外来で実施されている処置等について参加者が見学する機会を設け、その場で質問に答えてもらう形式で実施しました。

○開催日時・開催場所・対象・参加人数

開催日	場所	テーマ	参加人数
R5. 9. 14 (木) 18:30~20:00	大和町役場 (ハイブリット開催)	食を通した患者、利用者支援の今までとこれから (摂食嚥下に困っている方をどうした救えるかを考えよう！)	会場 20 名 オンライン 30 名
R6. 2. 1 (木) 18:30~20:00	大和町役場	爪難民を救え (爪の悩みを解決すると、靴が履けて外出もできるんです！)	55 名

(赤間 弘治)

XI. 広報誌

1. 緑風

VOL30 令和5年6月発行

内容： 50kHzのねずみ

着任のご挨拶

着任のご挨拶

公立黒川病院常勤医師紹介

管理者

病院長

内科医

地域連携室

(佐藤 亜紀子)

2. みどり通信

第 115 号 令和 5 年 4 月 1 日発行

HPV ワクチンについて
「つなぐ・つなげる」を改めて考える
やり抜く力

医師 相良 守峰
医療ソーシャルワーカー
赤間 弘治
看護師 石塚 玲子

第 116 号 令和 5 年 7 月 1 日発行

着任のご挨拶
あつかったら むげばいい
新入職員紹介（リハビリテーション室編）・（看護師編）

病院長 高橋 広喜
医師 綾香 奈々

第 117 号 令和 5 年 10 月 1 日発行

褥瘡を防ぎましょう
食べやすさ 飲み込みやすさ
放射線技師がみるトリチウム

副病院長・医師 芳賀 泉
言語聴覚士 猪股 伸彦
診療放射線技師
石森 靖朗

第 118 号 令和 6 年 1 月 1 日発行

ジャイアンはこんなこと言わない
変革に挑む年
医療安全のご紹介

管理者 角田 浩
事務部 田波 雄大
医療安全管理室長
佐々木 貴子

(佐藤 亜紀子)

3. 栄養室広報

1) 栄養だより 年4回発行

健康情報の発信を目的とし、臨地実習生が作成しています。

発行日	内 容
R5.6.1	「熱中症について」 熱中症予防のポイントについて
R5.9.1	「アルコールについて」 お酒との上手な付き合い方について
R5.12.1	「カルシウムについて」 骨を守るポイントについて
R6.3.1	「食物繊維について」 食物繊維の働きについて

昨年度まで季節のたよりを毎月発行していましたが、業務多忙につき今年度は中止いたしました。

(小岩 陽子)

4. ホームページ

各部門、部署から広報担当者選出、担当者を通して広報委員会で更新をした

■更新内容

【ごあいさつ】

病院長

【管理者から】

【病院指標】

【内科・総合診療科のご案内】

主な対象疾患

〈内分泌・代謝系疾患〉

〈血液系疾患〉

〈脳神経系疾患〉

〈腎・泌尿器系疾患〉

〈精神・神経系疾患〉

〈感染症関連疾患〉

〈免疫・アレルギー疾患〉

〈物理・化学的因子による疾患〉

〈加齢と老化に関する疾患〉

〈悪性腫瘍に関連する治療〉

〈各種予防接種〉

【訪問診療】

訪問診療のご案内

【入院のしおり】更新

【看護出前講座のご案内】

【おしらせ】

・面会制限について

【広報誌】

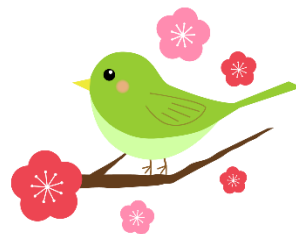
・みどり通信

(佐藤 亜紀子)

XII 資料

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和5年4月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第115号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《春号の内容》

- HPVワクチンについて
- 「つなぐ・つなげる」を改めて考える
- やり抜く力

…医師：相良 守峰
…医療社会福祉士：赤間 弘治
…看護師：石塚 玲子

HPVワクチンについて

—子宮頸がん撲滅に向けて—



産婦人科／医師：

相良 守峰

(さがら もりお)

子宮頸がんとは子宮頸部（子宮の入り口付近）にできるがんで、日本では年間約10,000人の女性が子宮頸がん罹患し、約2,900人が命を落としています。子宮頸がんはワクチンと検診により予防できます。

オーストラリアでは2028年に子宮頸がんが撲滅（10万人あたり4人未満）されると推測されています。日本は先進国の中で唯一、子宮頸がんの罹患率も死亡率も上昇傾向にあります。

子宮頸がんの原因はほぼヒトパピローマウイルス（HPV）で、女性の生涯で80%以上が性交渉によって感染するといわれています。

HPVは200種類以上の型があり、がんとの関連から低リスク型と高リスク型に分類されます。日本人に多い高リスク型はHPV16/18型です。

HPV感染を防ぐワクチンは現在3種類あります。
◆2価ワクチン（サーバリックス）、HPV16/18型
◆4価ワクチン（ガーダシル）、HPV6/11/16/18型
◆9価ワクチン（シルガード9）、
HPV6/11/16/18/31/33/45/52/58型の予防です。
2価、4価ワクチンは子宮頸がんの65%、9価ワクチンは子宮頸がんの88%の予防効果があります。

HPVワクチンは以前、副作用の問題から積極的な勧奨を控えていましたが、
今年の4月より公費の定期接種として9価ワクチン（シルガード9）が承認されました。

9歳以上15歳未満の女性は、2回の接種となっています。2価、4価ワクチンは3回接種です。

9つの型のうち、HPV16/18/31/33/45/52/58型の7つの型は、子宮頸がん、外陰がん、膣がんなどの原因です。またHPV6/11型は、肛門や性器周辺に良性のイボが発生する尖圭コンジローマの原因です。

HPVワクチンは子宮頸がんを100%予防できる訳ではありません。接種後も20歳を過ぎたら、2年に1度の子宮頸がん検診を受けましょう。ワクチンと検診で子宮頸がんを撲滅しましょう。



「つなぐ・つなげる」を 改めて考える

地域社会事業課：



医療社会福祉士 **赤間 弘治**

(あかま こうじ)

今年は、様々なスポーツの国際大会が開催されます。その中でも、3月10日に行われた野球の世界一を決めるWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）について触れたいと思います。

3月10日、日本代表の先発はダルビッシュ有投手でした。同選手は、日本代表の事前合宿から参加した唯一のメジャーリーガーです。若い投手に、自らの球種を惜しげもなく教えたり、日本代表の雰囲気馴染めていない若い選手のために食事会を開いたりなど、球場内外でまさに他のメンバーをつなぐ役目を果たしていました。

しかし、3月10日に先発登板したものの、相手打線につかまり3点を失う結果となりました。その後、中継ぎ投手や打線が奮起したことにより大差で勝利したことは皆さんの記憶にも残っていると思います。誰かが困っている時は、他の誰かがフォローする。当たり前のようで、実際は難しいものです。今回のWBC日本代表チームは、そのようなことを教えてくれたものと思います。

さて、私自身は、「つなぐ・つなげる」ということが一つの仕事になっています。

病院は、専門資格を持ったスタッフの集まりです。たとえば、医師や看護師、リハビリのスタッフなどは直接患者さんに対して、治療や看護、リハビリなどを提供します。

しかし、患者さんの中には、もとの生活に戻ることができないまま退院を考えなければならない方も少なくありません。私たち医療ソーシャルワーカー（相談員）は、そのような時のために存在しています。

実際に私たちが対応する相談は、担当の医師からいろいろと話をされたが、言われたことの意味が分からない。リハビリをして自宅に帰ることができると思っていたが、それが叶わないので目の前が真っ暗になった。仕事をしていたが、職場に復帰できないので今後の経済面が不安で仕方がない。など多岐にわたります。このとき私たちは、患者さんやその家族の話を伺い、困っていることを解決するため

に最善の方法を検討し、一緒に最適解を探します。しかし、私たち病院だけでは解決できないこともあるため、適切な機関や、院外の専門家を紹介してつなぐこともあります。

このように、「つなぐ・つなげる」仕事をしている私たちがいますので、安心して治療に専念なさってください。

やり抜く力

看護部／外来師長：



看護師 **石塚 玲子**

(いしつか れいこ)

嬉しい春がやってきました、皆さん如何お過ごしでしょうか。原稿を書いている3月は年度末から新年度にかけて、部署の年間の総まとめや新年度の目標、人事異動に備えての準備などなど同時進行ですべきことが一気に押し寄せてきます。そして、何とか今年度もやり切ったという安堵感と4月に向けて新たな気持ちに満ちる時期でもあります。お子さんのいるご家庭では卒業式や入学式、あるいは引っ越しの準備などもあるでしょう。それぞれが何らか新しい生活を迎える変化の季節ではないでしょうか。

また、この時期には特有の避けては通れない『出会いと別れ』があります。外来ではこの3月に一人の看護師が退職を迎えました。なんと勤続47年です！外来患者さんにとっても、なじみの看護師だったと思います。47年の間には公私共に喜びも悲しみも、それはたくさんのイベントがあったでしょう。

数ある思い出の一つに、12年前の東日本大震災があります。病棟所属だった当時、仲間同士食材を持ち寄り泊まり込みで入院患者さんを見守りました。悲観的なことをいう暇もなく無我夢中だったことを覚えています。1年前に起きた3月の地震でも夜間に駆け付けてくれたのはやはり彼女でした。3月になると片づけに追われたことや夜間語りあったことなどを鮮明に思い出します。

勤続最終日には同僚からのたくさんの贈り物や花束を抱え、笑顔の中に清々しささえ見て取れました。お見事です！きっと「やり抜いた」という達成感があったのではないのでしょうか。長年勤めた先輩を見送ることが出来るのは私達にとっても誇りです。この場をかりて感謝いたします。私も先輩方の背中をお手本に「やり抜く力」で頑張りたいと思います。

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和5年7月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第116号第1版
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《夏号の内容》

- 着任のご挨拶 ……病院長：高橋 広喜
- あつかったら ぬげばいい ……医師：綾香 奈々
- 新入職員紹介 (リハビリテーション室編)・(看護部編)

着任のご挨拶



病院長 医師：

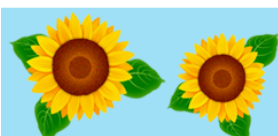
高橋 広喜

(たかはし ひろき)

令和5年4月より、公立黒川病院の病院長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。仙台市出身で、平成2年に自治医科大学を卒業し、国立病院機構仙台医療センターに臨床研修医として勤務し、その後、登米市民病院や涌谷町国保病院に勤務しました。平成11年より、仙台医療センターに戻り、消化器内科医そして総合診療科医として24年間勤務しました。実はかれこれ15年ほど前より公立黒川病院に非常勤医師として月1～2回、土曜の外来や内視鏡検査のお手伝いをしておりました。

私事で恐縮ですが、以前に仙台市在住の両親が当院で大変にお世話になった経緯がございます。父は施設入所中に大病を患い、平成26年に当院で最期を穏やかに迎えることができました。母も平成30年に脳出血のリハビリ目的に当院へ転院後、信じられないくらいに元気になりました。黒川病院は、自分の両親や知り合いの方に何かあつときは安心して質の高い医療や回復期のリハビリをお願いできる“お勧めの病院”であると思っております。

このたびご縁がありまして当院に勤務することとなりました。今後も引き続き地域の医療機関・施設の方々や多くの皆様から信頼されるように職員一同で力を合わせていきたいと思っております。これからも当院が黒川地域の地域包括ケアの中核を担うべく、総合力を活かして地域を元気にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



あつかったら ぬげばいい



内科 医師：

綾香 奈々

(あやか なな)

みどり通信をご覧の皆様、初めましての方も多いかと思います。4月から黒川病院でお世話になっております綾香奈々と申します。この春で医師6年目になりました。まだまだ未熟者ですが、総合診療医として少しでも患者様を元気にできるよう、患者様に寄り添えるよう、日々精進してまいります。

さて、私は昨年第一子を出産し、この4月から仕事に復帰したばかりなのですが、そんな私に、先日九州に住む母が一冊の絵本を送ってきました。それがヨシタケシンスケさん作の「あつかったらぬげばいい」です。有名な作家さんのようなので、ご存知の方もいるかもしれません。可愛いイラストと

一緒に、「あつかったら ぬげばいい」「すぐになくしてしまうなら ヒモで結んでおけばいい」「部屋が散らかっていたら とりあえず向きだけそろえればいい」と続きます。子供向けの絵本かと思いきや、「疲れているのかどうかわからなかったら 疲れたことにすればいい」「世界が変わってしまったら 自分も変わってしまえばいい」「だれも傷つけれなかったら 上手な嘘をつけばいい」と、シンプルなになんだかハッとするような文が続いて、読み進めるうちにこれは大人向けの絵本だと気づくのです。1年ぶりに仕事に復帰して、新しい職場で久しぶりに医師として働く中で、多少なりとも緊張する日々が続いていたのですが、この本を読んで肩の力が抜けて心と体が軽くなった気がしました。新生活でバタバタしてなかなか連絡をよこさない娘に、遠くに住む母がどんな思いでこの絵本を送ってくれたのかと想像して、少しだけ目が潤みました。

私だけでなく、春から新生活が始まった方はたくさんいらっしゃると思います。数か月が経ち、そろそろ疲れが出てくる頃ではないでしょうか。あつかったらぬげばいい、ぜひ読んでみてください。一度肩の力を抜いて、明日からまた一緒に頑張りましょう。私も頑張ります！

新入職員紹介 (リハビリ室編)

○ 所属 ○ 氏名 ○ 出身

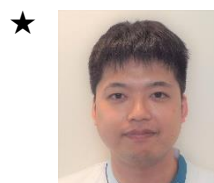
○ 黒川病院での抱負をひとこと



リハ室(作業療法士)

あいざわ りゅうき
相澤 龍輝 (秋田県)

4月からお世話になっています。右も左もわかりませんがご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



リハ室(作業療法士)

くらかね じゅりや
倉金 樹里哉 (山形県)

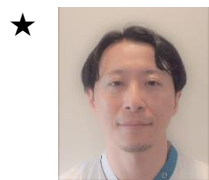
右も左も分からない未熟者ではありますが、患者さんや先輩方の力になれるよう努力していきます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。



リハ室(理学療法士)

くまざわ かずま
熊澤 和磨 (山形県)

チームの一員として患者さんを支えられるよう頑張ります。



リハ室(理学療法士)

やまぐち みちお
山口 倫生 (愛媛県)

元々12年間当院に務め、その後、専門学校の教員を経て再度当院に戻ってきました。今までの経験を活かし地域の皆様のために精一杯頑張ります。



リハ室(言語聴覚士)

あべ としひろ
阿部 寿洋 (宮城県)

全力投球で頑張ります。

新入職員紹介 (看護部編)



- 所属 ○ 氏名 ○ 出身
- 黒川病院での抱負をひとつ



1 病棟(看護師)
とがせ りりあ
戸ヶ瀬 莉々采 (宮城県)

患者さんのその人らしさを尊重できる看護師を目指します！



2 病棟(看護師)
かとう まなと
加藤 愛斗 (宮城県)

よろしくお願ひします。



1 病棟(看護師)
ながお ともみ
長尾 友美 (宮城県)

またお世話になります。よろしくお願ひします。



3 病棟(看護師)
おがわ あけみ
小川 明美 (宮城県)

業務に慣れることに精一杯ですが、日々の関りを大切にしていきたいです。

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和5年10月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第117号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《秋号の内容》

- 褥瘡を防ぎましょう
- 食べやすさ 飲み込みやすさ・・・
- 放射線技師がみるトリチウム

- ・・・副病院長・医師：芳賀 泉
- ・・・言語聴覚士：猪股 伸彦
- ・・・診療放射線技師：石森 靖朗

褥瘡を防ぎましょう



副病院長 外科：

芳賀 泉

(はが いずみ)

近年、高齢化やそれに伴う介護機会の増加・在宅医療の普及に伴い、褥瘡のケアが話題となっています。褥瘡とは、寝たきりなどによって、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなることで、皮膚が赤くなったり、傷ができてしまうことです。「床ずれ」ともいわれています。

私たちは、眠っている間でも寝返りをうったり、座っている時はお尻を浮かせるなどして、無意識に同じ部位に長い時間の圧迫が加わらないようにしています。しかし高齢や体の麻痺などにより自分で体位変換できない方は、長時間体重で圧迫された皮膚に十分な血流が届かず、これにより褥瘡ができます。進行すると、皮膚表面だけでなく、骨や筋肉に近い組織まで傷つくこともあります。褥瘡は、寝たきりの方だけではなく、長時間座っ

ているなど同じ姿勢でいると起こるもので、骨が突き出した部位(背中や臀部・腰骨・踵など)は強く圧迫されるため褥瘡ができやすくなります。

褥瘡ができた場合は、病院などでの治療が必要となりますが、褥瘡のケアで大切なことは、褥瘡を起ささないための予防策をとることです。細かく言えばきりがありませんが、大まかに以下の3点に注目してみましょう。

一つ目は、定期的に体位変換をおこなったり、クッションなどを使って長時間の圧迫を避けることです。また、布団と体の間に手を入れて一時的に圧力を逃がす背抜きなども効果的です。二つ目は皮膚の清潔を保つことです。褥瘡になりやすい皮膚の状態としては、尿や便失禁による皮膚のふやけがあります。皮膚をゴシゴシ擦らないように泡石けんを使って優しく丁寧に洗い、皮膚保護クリームを塗ることが勧められています。三つ目は、栄養です。体動が少なくなっている方は、食事量も減り低栄養状態となりがちで、このため皮膚が弱くなり傷も治りにくくなります。栄養士などの専門家の指導のもとに、栄養補助剤なども使うのがよいと思います。少しの工夫でやっかいな褥瘡を防いでいきましょう。



食べやすさ 飲み込みやすさ…



言語聴覚士：

猪股 伸彦

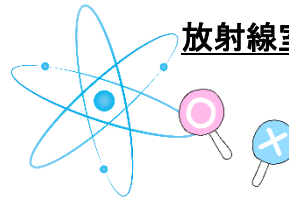
(いのまた のぶひこ)

私は仕事上、入院患者さんの食事場面、特に高齢の方の食事に立ち会うことが多く、残さずなんでも食べられる方もいれば、「食べにくい」と訴える方もおります。これまでの経験から「食べやすい食事形態とは」感じたことを食材ごとに記載してみました。

「かみ切りにくい」と肉を食べななかった方が、ひき肉で食べられるようになった方がいました。ハンバーグや肉団子など、ひき肉を使用した料理は食べやすいかと思います。「まぐろやすしが食べたい」との声もよく聞きました。病院では生ものは出ず、ご自宅ではまぐろのさしみ、咀嚼が難しい方であればネギトロが食べやすいかと思います。卵では、食の細かい方が、温泉卵、卵豆腐を提供したところ好んで食べていた方がいました。大豆製品では豆腐はそのままでも飲み込みやすいですし、納豆は病院では提供は少ないですが、ひきわり納豆は食べやすいと思われれます。野菜やイモ類は咀嚼しにくい方に軟菜食（煮びたし、煮つけ、大根やカボチャの煮物など）の提供をしております。他自宅では下ごしらえが大変ですが、人参きゅうり等きざんだものを入れポテトサラダは食べやすいかと思われれます。主食は入院では全粥が最も多いですが、入れ歯などによって咀嚼ができれば軟飯を提供しております。また、パンはのどにはりつきやすく窒息誤嚥の危険性があります。パン粥を提供したところ食べられた方もいました。フレンチトースト等もおすすです。最後に液体は特にむせる方が多い為、その場合はとろみ剤を使用したお茶を提供しています。牛乳も注意が必要です。寒天を加えた牛乳寒天にすると食べやすいと思います。院内では乳製品では牛乳からヨーグルトへ変更しており、推奨しています。

調理のひと手間がある食材が多いですが、スーパーのお惣菜をそのまま使ったり、市販の介護食等も利用できます。忙しい日々にも一工夫加えていきたいものです。

放射線技師がみるトリチウム



放射線室室長 診療放射線技師：

石森 靖朗

(いしもり やすお)

「満杯だから海洋放出しますけど大丈夫ですよ」と言われても何だかやっぱりモヤモヤしますよね。放射線技師の視点から詳しく調べてみました。

これまでに貯蔵したトリチウムは、約 780 兆 Bq (ベクレル^(*):以下 Bq)。これを薄めて年間 22 兆 Bq ずつ放出すると発表されています。排出量の単位が「兆」ですので、なんだか「超」すごい量の放射能が垂れ流される印象になりますが、さにあらず。そもそも天然のトリチウムは、宇宙から常に降り注ぐ「高エネルギー放射線」で発生していて、その量は年に約 70,000 兆 Bq、地球上には 100 万兆~130 万兆 Bq が常に存在しています。処理水の放出量が、遥かに少ないのがわかります。

実はトリチウム、世界中の原発施設から毎日排出されています。例えば、フランスのラ・アーグ再処理施設のトリチウム放出量は年間で約 11,460 兆 Bq (2018 年) といった具合。(別紙グラフ参照)

飲料水の国際安全基準となる WHO (世界保健機関) の指標は「1ℓあたり 1 万 Bq 以下」です。対して今回放出のトリチウム濃度は、WHO 基準の約 7 分の 1 未満。つまり排出水でさえ、そのまま飲んでも全く問題ない (!)、ということです。

もうひとつ。人間の自然放射線からの内部被ばくで代表的なものとしてラドンとカリウムがあります。このうちカリウムには僅か (0.0117%) に、放射性のカリウム 40 が含まれていて、体重 60Kg あたり年間 0.19mSv (ミリシーベルト^(**)) の被ばくになります。対してトリチウムの放射線エネルギーはカリウムの 100 分の 1。体重 60Kg では、年間 0.00000095mSv となります。WHO の言っている「1ℓあたり 1 万 Bq は大丈夫」、なのがよく分かります。

捉えどころのない存在として、お化け・病原体などと並んで忌み嫌われる放射線ですが、現代の医療技術では欠かせないもの。正しく理解し、安心して東北の美味しい海産物をいただきましょう。

みどり通信

公立黒川病院院内広報 令和6年1月1日 発行
院内の情報をみなさんにお知らせします



第118号
公立黒川病院院内広報
発行：公立黒川病院

《冬号の内容》

- ジャイアンはこんなこと言わない
- 変革に挑む年
- 医療安全のご紹介

…管理者・医師：角田 浩
…事務部長：田波 雄大
…医療安全管理室長：佐々木 貴子

ジャイアンはこんなこと 言わない



管理者・医師：

角田 浩

(かくた ひろし)

「お前の物は俺の物、俺の物も俺の物」「のび太のくせになまいきな」「おれ、今ムシャクシャしてるんだ。おまえをけとばさせてくれ。人のためになりたいんだろ!」「盗ったんじゃない、借りただけだぞ。いつ返すか決めてないだけだ」

ジャイアンのセリフである。自己中心的で傲慢と言えば傲慢であろう。

しかし、「ドラえもん」でジャイアンこと剛田武役を1979年から2005年まで26年間担当した、たてかべ和也さんは、ジャイアンとして「汚い言葉を使わないように」と意識していたらしい。「バカヤロー!」や「クソッ」などの台詞がシナリオにあると、「ジャイアンはこんなこと言わない」とクレームをつけた。確かにジャイアンは、一方で「友だちにた

すけをもとめられて、知らん顔してられるか!」とも言うのである。

2005年にたてかべ和也さんがジャイアン役を降板するとき、次のジャイアン役には「ジャイアンと同じ性格では、生々しくなり彼の優しさや悲しさ嬉しさを表現できないので、気持ちが優しい人ならいいと思う」との希望を述べていたとのことである。実際の後継者はなんとドイツ生まれで7歳まで日本語を話すことができなかった当時中学生の木村昂さんで、ドイツ人でオペラ歌手の父と日本人でバロック音楽のソリストで声楽家の母との間に生まれた方である。ジャイアンとのギャップがたてかべ和也さんの思い通りだったのかもしれない。

『言葉は人をつくる』からこそ、口にする言葉はよく考えて、大切に」

棋士の羽生善治さんの信条だそうである。

言葉で人(生)は作られる。いや、言葉は人(生)そのものであろう。

今年は特に言葉を大切に臨床していきたい。今年もよろしく願いいたします。



変革に挑む年



事務部長：

田波 雄大

(たなみ たけひろ)

こんにちは、2023年10月より事務部長を拝命しました。田波と申します。

昨年はコロナも落ちつき夏のイベントなども通常開催となり日常が戻ってきた感じではありますが、記録的な猛暑が続き、今年の夏もどうなるか今から心配している毎日です。

現在の黒川病院は平成9年に竣工して今年で築27年と設備が経年劣化した事もあります。まさか27年前に宮城県がこんなに猛暑の地域になるとは予測されていない(?)ため空調能力が追い付かない日も昨年はありましたが、ようやく昨年末に冷却塔の更新工事を行い能力は向上したと思いますが、ここ最近は想定外の事態が起きる時代ですので、油断はできないと思う次第です。

さて、2024年はどんな年になるか調べてみると、まずはパリオリンピックが開催されます。

前回大会の東京オリンピックはコロナの影響で1年遅れての開催となり、パリ開催まで3年間しかなかったため、個人的感想ではありますが、あっという間という感じす。

東京オリンピックと違い無観客でないオリンピックになると思っていますので多いに盛り上がってほしいと思います。

そして、来年の干支である辰年には変革や激動など時代が動く年とされています。過去にも東京オリンピックの開催、東海道新幹線の開業、青函トンネルなどの竣工、東京スカイツリーの開業など、大きな出来事があり、2024年は7月に新紙幣が発行されます。

時代はキャッシュレスが進んでいますが、公立黒川病院においても患者サービスの一環として医療費後払いシステムの導入を進めています。

公立黒川病院も時代の変化に合わせて変革に挑んでいきますので引き続き2024年もよろしくお願ひ致します。

医療安全のご紹介



医療安全管理室長・助産師：

佐々木 貴子

(ささき たかこ)

To Err is Human ヒトは誰でも間違える

これは1999年アメリカで発表された医療事故とその防止策を提言した報告書です。

同じく1999年日本でも相次ぐ医療事故をきっかけに国を挙げての医療安全改革が行われてきました。現在では「安全」はそもそも存在しなく、あるのは「リスク」であり、それをいかに減らすかが医療安全の基本的な考えとなっています。しかし言葉の理解はできても、医療に安全が保障されないと私たちは不安でなりません。リスクに囲まれているなんて、たまったもんじゃない、というのが本根ではないでしょうか。その為、どうしたら安全が守られるのか、様々な対策が生み出されました。それは医療界にとどまらず産業界の安全対策をも活用し、鉄道の出発進行の確認で見たことのある指差し呼称での確認方法や、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)、KYT(危険予知)トレーニングなど安全のためのトレーニングが実施されています。この指差し呼称確認においては、目視だけの確認に比べミス率を1/6に減らすことが出来るそうです。システム化が充実した現在でも、鉄道でこの動作が続けられている理由に納得しました。です。ですので病院で看護師が薬の投薬前や点滴の前、ぶつぶつと何か言いながら、「ヨシ!」と指を差したときは、「この看護師さんは、安全確認をしているんだな」と温かく見守っていただければと思います。

また黒川病院では毎年11月医療安全月間として、医療安全にちなんだ川柳や各部署の5S活動、医療安全ポスターなどを発表しております。川柳はなかなかの出来でクスッと笑えるものも多くあります。病院に立ち寄った際はぜひ観覧していただき、気に入ったものには1票投じていただきたいです。

今後も黒川病院は、安全最優先の医療を提供してまいります。医療安全についてご心配やご不明な点がありましたら、いつでも医療安全管理室までご相談ください。



栄養だより

R5.6月
公立黒川病院
栄養室発行

熱中症予防

熱中症とは？

高温多湿な環境に長時間いることで、体温調整機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態

※以下の症状が出たときは熱中症の疑いあり

<軽度>

- ・立ちくらみ
- ・めまい
- ・大量の発汗 など



<中等度>

- ・倦怠感/脱力
- ・頭痛
- ・吐き気 など



<重症>

- ・意識障害
- ・発汗停止
- ・けいれん



熱中症予防ポイント

①「暑さを避ける、身を守る」

- ・屋内：扇風機やエアコンで温度調節、遮光カーテン・すだれ・打ち水を利用、室温をこまめに確認
- ・屋外：日傘や帽子の着用、日陰の利用・こまめな休憩、暑い日は日中の外出を避ける
- ・からだの蓄熱を避ける：通気性の良い、吸湿性・速乾性のある衣服を着用
保冷剤・氷・冷たいタオルなどで、からだを冷やす

②「水分補給は渴きを感じる前に早めに、こまめにとる」

- ・就寝の前後、スポーツの前後・途中、入浴の前後、飲酒中 など
- ・枕元に水分をおいて就寝



③「汗をかいたときには、水分だけでなく塩分も補給」

- ・汗は血液から作られているため、ナトリウム（塩分）などのミネラルを含む
- ・汗をかいたときには、適度の塩分が入った経口補水液やスポーツドリンクを選ぶと良い

④「バランスの良い食事、正しい食習慣を心がける」

- ・水分補給だけでなく、きちんと食事をとることも熱中症予防となる
- ・食欲のないときは食材やレシピを工夫して体力をつけると良い



おすすめレシピ♪

オクラとみょうがのさっぱり冷奴



◎食材ポイント

- 豆腐：しっかりした体を作る
- オクラ：弱った胃腸を守る
- みょうが：ビタミンB1の吸収UP
- 梅干し：食欲増進、疲労回復

<材料（1人前）>

- 絹ごし豆腐 1/2丁、ゆでたオクラ 2本、
- みょうが 1/2本、濃口しょうゆ 小さじ1～お好み、
- 梅干し 1/2個、かつお節 ひとつまみ

<作り方>

- ① 豆腐の水切りをする。
- ② オクラを小口切りに、みょうがを千切りにする。
- ③ 梅干しは種を取り除き、たたく。
- ③ 器に豆腐、オクラ、みょうが、梅干しをのせ、しょうゆを回しかける。
最後にかつお節を散らす。



栄養だより

お酒、飲みすぎていませんか？



R5.9月発行
公立黒川病院
栄養室

お酒を飲み始めるとついつい飲みすぎてしまいますよね。適量のお酒は、ストレス解消に良いといわれています。しかし、飲みすぎは短時間の多量飲酒による急性アルコール中毒（呼吸停止）や慢性的な肝臓障害による脳卒中、がんなどの疾患に関連していくといわれています。そこで、身体に負担をかけすぎない上手なお酒との付き合い方について紹介します。

🌸 アルコールが身体に与える影響

体内に入ったアルコールは、肝臓によって分解がされます。しかし、この分解が追い付かなくなると肝臓にアルコールが貯蔵されて、脂肪に変わるため、肥満の原因につながります。また、体内にアルコールが入ることで、栄養の吸収が妨げられたり、栄養が排出されたりします。

🌸 お酒との上手な付き合い方

ここから、お酒を飲むときの3つのポイントを紹介します。



① 食べながら飲む！

空腹時に飲酒をすると胃にとどまることなく小腸へと流れていき、アルコールの吸収が速くなります。食べながら飲むことでアルコールが胃にとどまり、吸収が遅くなります。そして、お酒と一緒に食べるものは、アルコールを分解しやすくする機能をもつ栄養を含む**枝豆**や酔いの原因となる物質を分解してくれる**キムチ**、精神状態をコントロールするホルモンに必要な栄養素を含む**お刺身**などがオススメです。

② 週に2日は休肝日を！

休肝日を設けることで、肝臓を休ませ回復させることができます。また、肥満や病気の予防につながり、消化器の荒れを防ぎます。

③ 適量を守る！

飲酒の適量は、1日平均**純アルコール 20g**とされています。純アルコール20gの目安を、下記の表に示します。また、アルコール度数の高いもの（15度以上）は、薄めて飲むことを心がけましょう。アルコール度数が低い方が肝臓への負担が軽減されます。

<純アルコール20gの目安>



種類	ビール	清酒	ウイスキー・ブランデー	焼酎	ワイン
適量	中瓶1本 500ml	1合 180ml	ダブル60ml	35度 0.5合 90ml	2杯 240ml
純アルコール	20g	22g	20g	25g	24g



お酒の適量には個人差があります。

薬を服用している方や妊婦・授乳中の方は飲酒を控えましょう。



栄養だより

R5.12月発行
公立黒川病院
栄養室

🦴～カルシウム～🦴

骨を作っているのは、“カルシウム”という栄養素です。このカルシウムは、私たちの体の中で最も多いミネラルなのです。骨量は加齢とともに減少し、骨量が減少すると、骨がスカスカになる骨粗しょう症などの病気にかかりやすくなります。この病気にかかると骨折しやすくなり寝たきりになってしまう可能性があります。

また、成長期にカルシウムが不足してしまうと、歯の質が悪くなったりあごの発達が遅れてしまいます。イライラするなどの精神状態も不安定になります。

🦴骨を守る3つのポイント！🦴

食事で**カルシウム**、**ビタミンD**、**K**を積極的に摂りましょう

骨の材料になる**カルシウム**



牛乳



豆腐



小魚



小松菜

カルシウム吸収を助ける**ビタミンD**



サケ



サンマ



シイタケ

骨の形成を促す**ビタミンK**



納豆



わかめ



モロヘイヤ

運動をしましょう

体を動かすと骨をつくる細胞が活発になり、骨が丈夫になります



1. **日光**に当たりましょう

紫外線を浴びるとビタミンDが体内で作られます



※注意※ 主治医・管理栄養士の指導に基づいて行いましょう。

令和6年2月29日まで掲示

栄養だより

R6.3月発行
公立黒川病院
栄養室

～いっぱい食べよう！体に良い野菜～

普段からちゃんと野菜食べていますか？野菜は食物繊維が豊富で、体の調子を整えてくれ、毎日の食事に欠かせないものです。今回は野菜に含まれている食物繊維、食べ方などを紹介していきたいと思います。

☆野菜に含まれる食物繊維☆

食物繊維は『人間の消化酵素では消化されにくい食品中の成分』であり、主に腸内環境を整え、スムーズな排便に役立つ栄養素です。また、食物繊維は水に溶けやすい**水溶性食物繊維**と水に溶けにくい**不溶性食物繊維**に分けられ、それぞれに特徴があります。

水溶性食物繊維の働き

- 食事の糖の吸収をおだやかにする
- コレステロールの排泄を手助けする
- 腸内善玉菌により、腸内環境を整える
- 便に水分を含ませ、やわらかくする など

水溶性食物繊維を多く含む野菜

おくら、キャベツ、りんごなど



不溶性食物繊維の働き

- 便のカサを増やし、腸を刺激し、スムーズな排便を促す
- 腸内の有害物質を吸着し、排泄する

不溶性食物繊維を多く含む野菜

モロヘイヤ、かぼちゃ、蓮根



水溶性・不溶性食物繊維をバランスよく摂ることが健康づくりの第1歩です。そのため、特定の食品だけに偏らず、様々な食品を組み合わせることをおすすめします。



☆野菜はどのくらい食べればいいの？☆

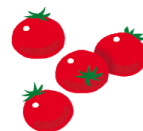
野菜の摂取量は1日 **350g** と推奨されています。しかし、350gも食べることは難しく、むしろ**野菜の摂取量は減少**しています。また、350g食べるといわれても、どのくらい食べたらいいのかわかりませんよね。そこで簡単な目安量としてほうれん草のお浸しといった**小鉢5皿分**が野菜350gと言われていています。



☆今より野菜を増やすには☆

- 簡単に食べることのできる**野菜をストック**しておきましょう！レタスやミニトマトなど簡単に食べることができます。
- **和食メニュー**中心にすると摂りやすいです。和食は一汁三菜なので副菜で野菜を食べるように心がけましょう
- みそ汁で野菜量を up する。

野菜は煮ることでかさが減ります。家庭にある残り物の野菜を入れてしましましょう。また、具たくさんにすることで、自然と汁の量を控えることができ、減塩にもつながります



糖尿病たより

令和5年春号 公立黒川病院発行

春到来！ 体を動かしましょう☆彡

桜も咲き始め、春が到来しましたね。この春から職場、学校などの環境が変わるかたもいらっしゃると思います。新しい環境で何かと忙しい時期ですが、糖尿病治療に大切な食事・運動・薬物治療はぜひ継続してください。

最近の研究で、デスクワークやスマホを見ていて、座ったまま過ごす時間が長引いた時、30分ごとに立ち上がり、わずか5分間まわりを歩くだけで、血糖値や血圧値の上昇を抑えられ、健康増進につながる事がわかりました。

座位時間を中断して体を動かすことで、疲労感も減り、気分転換でき、血圧も下がりやすくなることもわかりました。

ぜひ、職場、家庭でも、座りっぱなしにならず、30分ごとに5分間立ち上がって動いてみてください。特に、糖尿病、高血圧症など生活習慣病をお持ちのかたは実践してくださいね！ （内科医師 筒井美穂）



春は送別会や歓迎会で外食の機会が増えたり、新生活のスタートで忙しく食事はコンビニ弁当で済ましてしまう等、食生活が乱れがちになりやすい時期です。気持ちも新たになるこの季節に食生活も見直してみてもいいでしょうか♪

～外食やコンビニ食でバランスよく選ぶコツ～

外食

野菜ラーメン → 野菜ラーメンに変更！

定食 → 定食に変更！

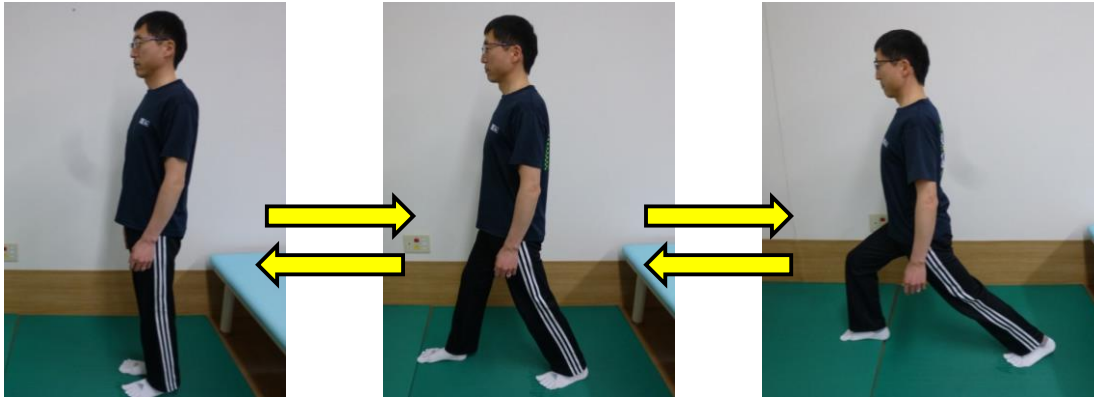
コンビニ

→ -315kcal ダウン

（管理栄養士 佐山）

運動の紹介

フロントランジ



身体を垂直に保ち、片足を前方に踏み出します。足がついたら重心を前足に移動させ、膝を曲げていきます。この時、膝がつま先よりも出ないようにします。前足で床を蹴るようにして元の位置に戻ります。この時反動は使わないようにしてください。左右交互に10回、1日3セット行ってみましょう。

(理学療法士 村上)

★なんでも Q&A★

Q いったんインスリンを始めるとやめられない？

A インスリン注射の治療を嫌がる方も少なくありませんが、注射は最後の砦とは限りません。いったんインスリン治療が始まった方でも、良い糖代謝環境が続くことで、飲み薬だけの治療に戻る場合があります。

薬剤師 伊藤

糖尿病たより 令和5年夏号 公立黒川病院発行

尿酸値にも注目👁️しましょう！

今春の健診で尿酸値が高かった方（血清 7.0mg/dl 以上）はいらっしゃいますか？尿酸値9mg/d 以上でつらい痛風発作（関節炎）が起きやすくなります。実は、糖尿病患者さんよりも糖尿病になる前段階の糖尿病予備軍のほうが、痛風発作を併発することが多いんです。糖尿病予備軍のかたは、三大合併症（神経、眼、腎障害）は少ないものの、動脈硬化は進行しやすく、高尿酸血症と重なるとさらにその進行が早まります。ですので、健診結果でHbA1c5.8-6.5%の糖尿病予備群のかたは、尿酸値の積極的な管理が大切です。まずは、食事、運動療法による、減量、減酒、水分摂取、適度な運動は基本です。尿酸値の低下が見込めない場合は、痛風はなくても尿酸値が9 mg/dL 以上なら、痛風と合併症の予防のために薬物治療を始めます。糖尿病、腎障害、尿路結石、高血圧、脂質異常症、虚血性心疾患がある場合には、8mg/dL 以上から薬物治療がすすめられます。治療目標値は6mg/dL 以下です。皆様、血糖値とともに尿酸値もしっかりと下げて、動脈硬化の進行を抑えましょう。（内科医師 筒井）

暑い夏サッパリとした飲み物が欲しくて炭酸飲料など飲んでないでしょうか。炭酸の刺激で舌が甘みを感じにくくなっていますが、砂糖が大量に含まれています。例えばコーラ 500 ml で 61 g、サイダーで 55 g の砂糖が含まれています。脱水予防と言ってスポーツドリンクを飲むと 20~30 g の砂糖を摂取してしまいます。糖尿病の方の脱水予防はこまめに水かお茶を飲んでいただくのが 1 番です。

（管理栄養士 小岩）



運動の紹介



背中運動

1. 四つ這いになり、右手と左足でバランスを保ちながら上げていきます。
2. しっかり上げた所で10秒保持します。体が開かないように注意しましょう。

*手足を上げるのが難しければ、足だけ上げて10秒保持します。

(理学療法士 村上)

～足白癬（水虫）～

高温多湿の季節は足白癬（水虫）にかかりやすくなります。健康な人では治療もしやすい足白癬ですが、糖尿病では気を付けなければなりません。糖尿病には数々の合併症がありますが、その一つに神経障害があります。神経の感覚が鈍くなり、感覚がなくなってしまうのです。そのため、足白癬の自覚症状である足の痒みがわからず、気が付いたときには進行し重症化している場合があります。なので、たかが水虫と考えずに、足を清潔に保つ、通気性を保つなどの対策を取って、水虫を予防しましょう。

(臨床検査技師 今井)

糖尿病たより 令和5年秋号 公立黒川病院発行

運動は食後に行いましょう（特に夕食後）！！

長い厳しい残暑が終わり、急に涼しくなりましたね。食欲の秋！というように、新米、美味しい果物をついついたくさん食べてしまう季節です。糖尿病、生活習慣病の治療中、その予備軍の方は、食べ過ぎないようにぜひお願いします。また、食事療法とともに大切なのが運動です。糖尿病とともに生きる人が、ウォーキングなどの運動をするとき、夕食後に行うと効果が高いという研究を、米国の大学が発表しています。運動は1日のどの時間に行っても効果がありますが、特に夕食後に運動を行うことで、血糖と中性脂肪の値の上昇を抑えることができ、心臓病や脳卒中などの心血管疾患のリスクをより効果的に減少できるとしています。夕食後に、さらに筋トレやストレッチなども取り入れた運動に取り組むと高い効果を期待できます。これからの寒い季節に、ぜひ自宅で、夕食後の運動（筋トレ、ストレッチ）をとりいれて、心も体も健康を保って、健康寿命を延ばしていきましょう♥

（内科医師筒井）

秋はおいしい食べ物がたくさん出回ります。秋の味覚の栗や芋・柿などは、主食の米やパンなどと一緒で糖質を多く含み、エネルギーが高いです。

くり（5個）
152kcal
モンブラン
400kcal

さつまいも（中半分）
131kcal
干し芋（5枚）
277kcal

柿（1個）
126kcal
干し柿（2個）
164kcal

食べ過ぎは肥満や糖尿病の悪化に繋がるため、バランスの良い食事を心掛け、秋の味覚を楽しみつつ健康的な日々を送りましょう。

（管理栄養士 新堂）

運動の紹介 足の指でじゃんけん



グー



チョキ



パー

足の指はバランスを保つのに重要な役割をしています。指で地面をつかんだり、重心を維持するに働き転倒予防になります。また、歩くときに地面を蹴りだす時に働き、安定した歩行が出来るようになります。上の3つの動作を10回、一日2~3回やってみましょう。

(理学療法士 村上)

「シックデイ」を知っていますか？

皆さん、シックデイという言葉聞いたことはありますか？シックデイとは「糖尿病の患者さんが発熱・下痢・嘔吐などの症状が出現することによって、血糖コントロールが著しく困難に陥った状態」のことをいいます。感染症・消化器疾患・ケガ・ストレスなどがきっかけで起こることがあります。

シックデイの時には、できるだけ安静に過ごすことや水分摂取を心がけることが大切ですが、症状がひどい時はできるだけ早く医療機関の受診が必要になります。

また、お薬をお休みしたり食事量に合わせてお薬を減らしたりする場合もあるので、かかりつけの先生にあらかじめ対応を確認しておくとう安心です。

(薬剤師 虎岩)

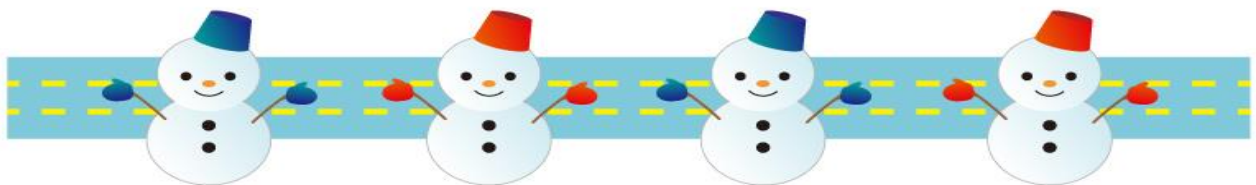
糖尿病たより

令和5年度冬号 公立黒川病院発行

2024年辰年 血糖値改善、健康維持にお茶を飲みましょう 🍵 🍷

暖かな正月を迎え、鏡割り、どんと祭も終わり、新たな1年が始まりましたね。年末年始に食べ過ぎ、運動不足で太ってしまい、次の血液検査が心配、という方も多いと思います。まずは、気を取り直して食事・運動療法を再開しましょう。そして水分、特にお茶を沢山飲みましょう。

緑茶、ウーロン茶、コーヒー、紅茶などには、抗酸化作用をもたらすアルカロイド、遊離アミノ酸、ポリフェノール、多糖類、およびそれらの誘導体が含まれていて、抗酸化、抗炎症作用、腸内の細菌の組成変化をもたらし、血糖値を下げるインスリンが働きやすくし、インスリンを分泌する膵臓のβ細胞の働きを刺激している可能性があることが報告されています。特に濃いお茶を飲むと、尿中ブドウ糖排泄量はより多く、インスリン抵抗性も改善する、とのこと。今年も、バランスの良い食事、毎食後の濃いお茶、食後の運動、で血糖値改善を図ってくださいね☆
(内科医師 筒井)



冬が旬で、食物繊維を多く含む野菜を紹介します。

カリフラワー
3.2g

(100g中の含有量)



ごぼう
5.7g

(100g中の含有量)



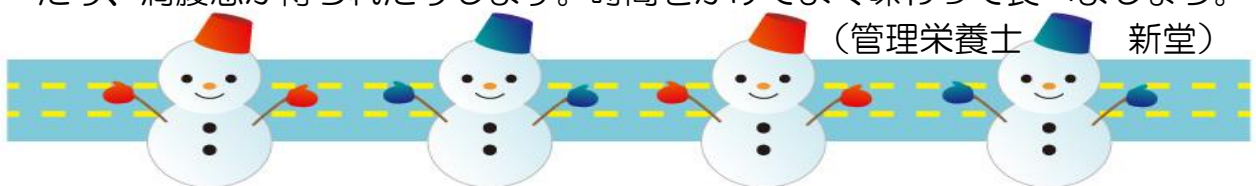
小松菜
2.4g

(100g中の含有量)

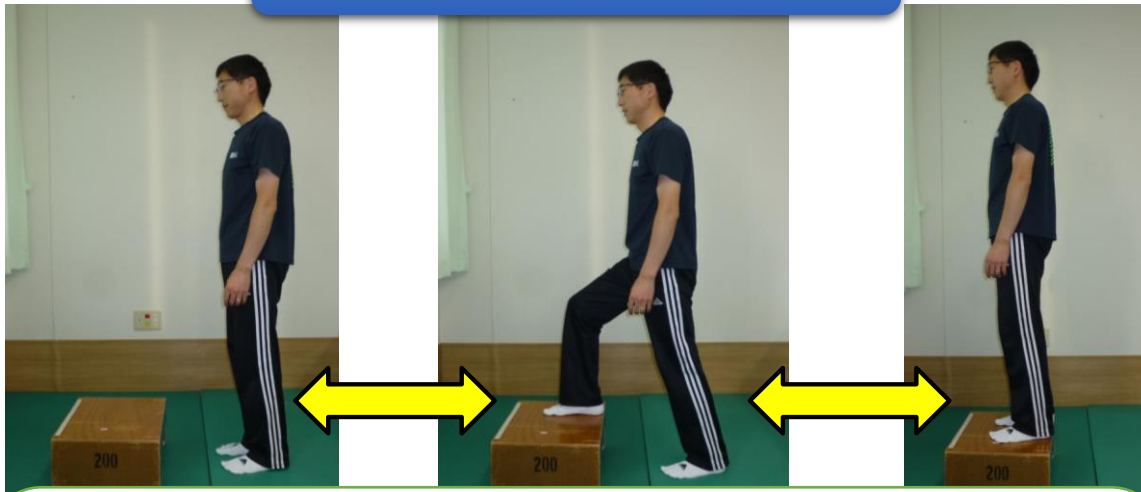


食物繊維は糖の吸収を緩やかにしたり、余分な糖質や脂質の吸収を抑えたりします。食物繊維を豊富に含む食品をよく噛むことで素材のうま味が出てきたり、満腹感が得られたりします。時間をかけてよく味わって食べましょう。

(管理栄養士 新堂)



運動の紹介 ステップ運動



天気の悪い日や外に出るのが難しい時はステップ運動を行います。台の前に立ち、右足→左足の順に上がり、右足→左足の順に降ります。次に足の順序を代えて昇降します。台の高さは足の力に合わせて決めます。ふらつきや怖さが生じる場合は、手すりやテーブルに手をつけて行って下さい。まずは交互に20回から行い徐々に回数を増やして行きましょう。

(理学療法士 村上)

災害時に備えておきましょう。

- ① 薬に関わる物はまとめて保管しましょう！
内服薬やインスリン製剤、針、血糖測定器をまとめておき、家以外の職場や学校にも分けておいておきましょう。
- ② 非常持ち出し袋には、水・補食・ブドウ糖なども準備しましょう！
- ③ 糖尿病連携手帳、お薬手帳、緊急連絡先を持ち歩きましょう！
スマートフォンのカメラで撮影しておくものオススメです。
- ④ 非常時の対応を主治医に確認しておきましょう！

※災害時が起こったら、通常の生活が出来ないので、日頃から自己管理を心掛けましょう！

(管理栄養士 小岩)

緑風

Vol.30
Jun 2023

すべては地域のみなさまのために

公立黒川病院だより

発行：公立黒川病院

地域連携センター 地域連携室

巻頭言：50kHzのねずみ

公立黒川病院 管理者 角田 浩



作家のマーク・トゥエインは「笑う動物は人間だけだ。笑う必要のある動物も人間だけだ」と言っただけだ。なんとも笑える話である。さて、ほんとに笑うのは人間だけであろうか。

自然科学者のチャールズ・ダーウィンは、動物を観察した結果、笑うのは人間だけではないと考えようになった。映像に収められた野生の大型類人猿の様子を見ると、オランウータンもチンパンジーも、ボノボもゴリラも、みんなくすぐられると笑うことがわかるという。

たとえばチンパンジーは生後わずか4週半でくすぐり遊びに加わり、くすぐってほしいことを伝える特徴的な身振りをするようになるそうだ。

「今まで笑わないと思われていたねずみにも笑いの原型と思われる現象がある」とアメリカワシントン州立大学のヤーク・パンクセップ教授が発表している。ねずみはまとめて生まれてじゃれあいながら育つ。一匹だけ離すと寂しがって学習能力などが落ちるらしい。そこで人の指でちょちょよすると新陳代謝の遺伝子が活性化することがわかってきた。その時、50kHzの超音波を体から発するのだそうで

ある。パンクセップ教授はこれが哺乳類の笑いの原型ではないかと考えている。逆に嫌がる環境だと20kHzの超音波をだすらしい。ちなみに男性のちょちょよより女性のちょちょよのほうがより50kHzの超音波を出し、より新陳代謝の遺伝子を活性化するというから面白い。

この4月、5月で当院はたくさんの職員を迎えた。新しい環境であるから日々不安なことの連続であろうと思われる。しかし、今年、新入の皆さんは明るいのである。そうするとどうなるかという周囲は皆、明るくなっていく。ねずみでいえば50kHzの超音波が共鳴しているのではないかと思うのである。

医療の状況はなかなか厳しい。しかし、順風ばかりの時代があるわけではないと思うのである。多少のことがあってもめげずに明るく進みたい。まず私が（ねずみでいえば）50kHzの超音波を出そう。そして公立黒川病院職員皆すべてが50kHzの超音波を出そう。そして他の医療機関ともよりよい関係をさらに構築し、互いに50kHzで共鳴したい。

今年度もよろしく願いいたします。

着任のご挨拶



病院長

たかはし ひろき
高橋 広喜

●専門分野

総合診療科 消化器内科

●専門医資格等

日本病院総合診療医学会理事、評議員、指導医
日本プライマリ・ケア連合学会認定医、指導医
日本専門医機構総合診療専門研修特任指導医
日本消化器病学会専門医、東北支部評議員、日本消化器内視鏡学会専門医、日本外科学会認定登録医、日本医師会認定健康スポーツ医、ICD制度協議会ICD、臨床研修指導医

●一言

患者さんにわかりやすい説明と的確な医療が提供できるように心がけています。

令和5年4月1日より、公立黒川病院に病院長として着任いたしました。高橋広喜と申します。仙台市出身で、平成2年に自治医科大学を卒業し、国立仙台病院（現在の国立病院機構仙台医療センター）に臨床研修医として勤務しました。その後、公立佐沼総合病院（現在の登米市民病院）に3年勤務後、涌谷町国保病院に3年勤務しました。平成11年に仙台医療センターに戻り、消化器内科医として12年、総合診療科医として10年勤務しました。実はかれこれ15年ほど前より公立黒川病院に非常勤医師として月1～2回、土曜の外来や内視鏡検査のお手伝いをしておりました。

また、前任の仙台医療センターでは、10年前より地域医療連携室のメンバーとなり、5年前より地域医療連携部長として地域の医療機関や施設の方々と連携を深め、いかにして地域から愛され信頼される病院となることができるかを目標に、日々努めてまいりました。平成29年から5年間、宮城県保健福祉部参与として宮城県内の地域医療発展のため医療人材対策を担当しておりました。

このたびご縁がありまして当院に勤務することとなりました。今後も地域の医療機関・施設の先生方やスタッフの皆様がお困りの時は当院へご依頼いただき少しでもお力になれるように地域と当院の連携強化を図っていきたくと考えております。

これからも当院が黒川地域の地域包括ケアの中核を担うべく、総合力を活かして地域を元気にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



内科医

あやか なな
綾香 奈々

●専門分野

総合診療

●専門医資格等

総合診療専攻医

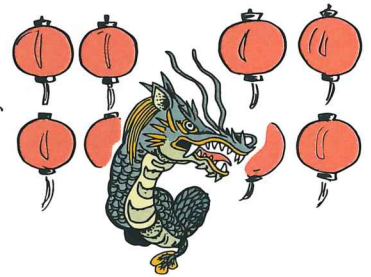
●一言

内科外来、病棟、訪問診療を主に担当しています。宜しくお願いいたします。

令和5年4月より黒川病院の内科で勤務しております。綾香奈々と申します。医師6年目で、総合診療専門医、家庭医療専門医を目指して研修中です。医師1年目から東京都北区にある東京北医療センターで研修を行い、6年目になるこのタイミングで地域医療を学ぶためにこちらへ着任いたしました。これまでは急性期病院で勤務していたため、地域の患者さんと継続的に関わる機会がほとんどなかったのですが、黒川病院に来て、外来から入院、訪問診療まで、同じ患者さんと違うセッティングで継続して関われることをとても嬉しく思っています。

黒川病院には2年ほどお世話になる予定です。九州の長崎県で生まれ育った私は東北地方に住むのも今回が初めてのことで、今はまだ患者さんの方言もろくに聞き取れず、一人では問診一つ十分にできないこともあります。これから2年間どっぷりとこの地域に浸かって、地域の皆さんとの距離を縮めて、長崎弁なんて忘れてしまうくらいこの地域に馴染めたらと思っています。そして、総合診療医、家庭医としての最初の一步をこの黒川病院で踏み出せたらと思っています。

近隣の医療機関、施設の関係者の皆様には様々な場面でのお世話になることと思います。まだまだ修行中の立場で、至らない点も多々あると思いますが、経験したことを1つ1つ糧にして精進してまいります。ご指導よろしくお願い申し上げます。



常勤医師紹介

それぞれの専門分野を併せてご紹介いたします。



管理者

かくた ひろし
角田 浩

●専門分野

内科

●専門医資格等

専門資格等：日本プライマリ・ケア連合学会指導医、日本睡眠学会睡眠医療認定医師、日本病院総合診療医学会認定医、精神保健指定医、ボトックス施注資格（痙縮、斜頸、多汗症）、義肢装具等適合判定医師、日本リハビリテーション医学会認定臨床医

●一言

日本睡眠時無呼吸症候群（SAS）、回復期リハビリ病棟についてのご相談、消化管内視鏡検査を担当しております。



副管理者

なんか しゅんすけ
南家 俊介

●専門分野

内科、循環器科

●一言

主に循環器疾患についての診療を行います。心エコー、ホルター心電図解析、冠動脈CTなどを担当します。



地域医療センター長

よこみち ひろひこ
横道 弘直

●専門分野

内科、血液・免疫、総合診療、在宅医療

●専門医資格等

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

●一言

入院／外来診療、訪問診療を担当します。



副病院長

たぐち かつゆき
田口 勝行

●専門分野

泌尿器科一般、尿路結石、前立腺肥大症、前立腺がん、尿路悪性腫瘍

●専門医資格等

日本泌尿器科学会専門医

●一言

黒川地域唯一の泌尿器科として十分な医療を提供します。



内科科長

もりした じょう
森下 城

●専門分野
内科、消化器科

●専門医資格等
日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会胃腸科専門医、日本医師会認定産業医、認知症サポート医

●一言
一般内科および消化器疾患の診療を行っています。下痢や便秘などの消化管運動機能障害を専門としていますので、お困りの方はご相談ください。



健診室室長

まつお ひでのり
松尾 英史

●専門分野
内科一般、物忘れ・認知症

●専門医資格等
日本医師会認定産業医、認知症サポート医

●一言
健診、内視鏡検査、認知症サポート、そして企業の産業医として活動しています。もの忘れに心配の方、ご相談ください。



内科医

つじい みほ
筒井 美穂

●専門分野
内科一般、老年医学

●専門医資格等
日本内科学会認定医、日本老年医学会認定老年科専門医、日本医師会認定産業医

●一言
内科一般、訪問診療・健診を中心に診療しています。高齢者診療についてお困りの事がありましたら、ご相談ください。



内科医

うえはら しゅうご
上原 周悟

●専門分野
家庭医療、在宅医療、総合診療、一般内科、リハビリテーション

●専門医資格等
日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医、日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定医 厚生労働省認定 臨床研修指導医、認知症サポート医、ボツリヌス施注資格、がんリハビリテーション研修終了

●一言
在宅医療をはじめ、黒川地域の医療全般に貢献できるよう頑張ります。



小児科科長

いわき としみつ
岩城 利充

●専門分野
新生児学、心身症、発達障害

●一言
一般小児診療、心身症、発達障害などに対応しています。発達障害のご紹介は予約をお願いします。



副病院長

おつつき しゅういち
大槻 修一

●専門分野
外科一般、乳腺外科、甲状腺外科、下肢静脈瘤

●専門医資格等
外科専門医、マンモグラフィ読影認定医、日本透析医学会専門医

●一言
甲状腺検診、乳がん、甲状腺疾患について専門診療をしていますが、消化器外科、血管外科についてもご相談ください。腹腔鏡治療も行います。



診療部長

はが いずみ
芳賀 泉

●専門分野
一般外科、消化器外科

●専門医資格等
外科専門医、マンモグラフィ読影認定医

●一言
一般外科および消化器外科を担当しています。地域の皆様に安心安全の医療を提供できますように努めてまいります。



外科医

まつもと しゅうこ
松本 翔子

●専門分野
一般外科、消化器外科

●一言
一般外科、消化器外科を担当しています。地域医療に貢献できるように頑張ります。宜しくお願ひ致します。



副病院長

たなか まさひこ
田中 正彦

●専門分野
整形外科（股関節）

●専門医資格等
日本認定医機構整形外科専門医

●一言
下肢関節の痛み、特に股関節の痛みで困っている患者さんがいましたらご相談ください。



産婦人科科長

さがら もりお
相良 守峰

●専門分野
産婦人科

●専門医資格等
産婦人科専門医、母体保護法指定医、産業医、日本専門医機構認定産婦人科専門医、医学博士、農学士

●一言
婦人科疾患全般を担当しています。



周術期管理センター長

まつかわ しゅう
松川 周

●専門分野
麻酔科学、集中治療医学（特に呼吸管理）

●専門医資格等
日本専門医機構専門医（麻酔科）、日本麻酔科学会認定医・指導医、日本集中治療学会専門医、日本呼吸療法医学会専門医

●一言
手術麻酔を中心とした周術期管理を担当しています。麻酔は医療における基盤・基礎を担っており、患者の安全・安心に寄与する重要な部門の一つとの認識を持って業務に携わっています。

外来診療担当表

令和5年5月現在
 〈受付時間〉 午前8:00~11:30 午後1:30~ 4:00
 ※診療科によって一部異なります

診療科		月	火	水	木	金	土
内科 ◆土曜日受付 8:30~11:30	午前	角田・松尾 森下・綾香 金澤	角田/高橋 南家・横道 筒井	角田・松尾 森下・長澤 応援医師	角田・高橋 上原・金澤 応援医師	南家・横道 松尾 東北大医師 応援医師	交代制
	午後	横道・筒井	角田	長澤	東北大医師	応援医師	—
小児科 ※1 第3火曜日午後休診 ※2 第1・3金曜日休診 ◆発達相談予約制	午前	岩城	岩城	岩城	岩城	岩城(※2)	—
	午後	岩城	岩城(※1)	岩城	—	岩城(※2)	—
外科	午前	大槻・芳賀 東北大医師	大槻・松本 東北大医師	大槻・芳賀 東北大医師	大槻・松本 応援医師	大槻・芳賀 応援医師	—
	午後	—	—	—	—	—	—
整形外科 ◆初診受付 8:00~10:30(紹介状必要) ◆再来受付 8:00~11:00(予約制)	午前	田中	東北大医師	東北大医師	田中	田中	—
	午後	—	—	—	—	—	—
婦人科 ※3 午後予約制	午前	相良	相良	相良	相良	相良	—
	午後	相良(※3)	相良(※3)	相良(※3)	—	相良(※3)	—
耳鼻いんこう科	午前	—	—	—	—	—	—
	午後	東北大医師	—	—	東北大医師	—	—
眼科 ◆受付時間 8:00~11:00	午前	東北大医師	—	東北大医師	—	—	—
	午後	—	—	—	—	—	—
皮膚科	午前	—	応援医師	—	—	応援医師	—
	午後	—	—	—	—	—	—
泌尿器科 ※4 第1・3・5金曜日休診	午前	田口	田口	田口	田口	田口(※4)	—
	午後	田口	—	田口	—	田口(※4)	—

※入院患者さんの急変や、医師の出張等により変更になる場合もありますので、院内掲示版やホームページ等でご確認ください。
 ※土曜午後・日・祝祭日は、全科休診です。急患はこの限りではありませんので、お電話にてお問合せください。

公益社団法人 地域医療振興協会

公立黒川病院

〒981-3682 宮城県黒川郡大和町吉岡字西楡木60

代 表 TEL:022-345-3101 FAX:022-345-3143
 地域連携室 TEL:022-745-2444 FAX:022-345-3120



令和 5 年度（2023 年度）公立黒川病院年報 第 8 号

発行日：令和 6 年 11 月

発行者：公益社団法人地域医療振興協会 公立黒川病院

宮城県黒川郡大和町吉岡字西桧木 60

電 話：022-345-3101

FAX：022-345-3143

印 刷：ラクスル株式会社

【MEMO】

【MEMO】